

藝苑
卷之二
忌辰錄

198
2
435

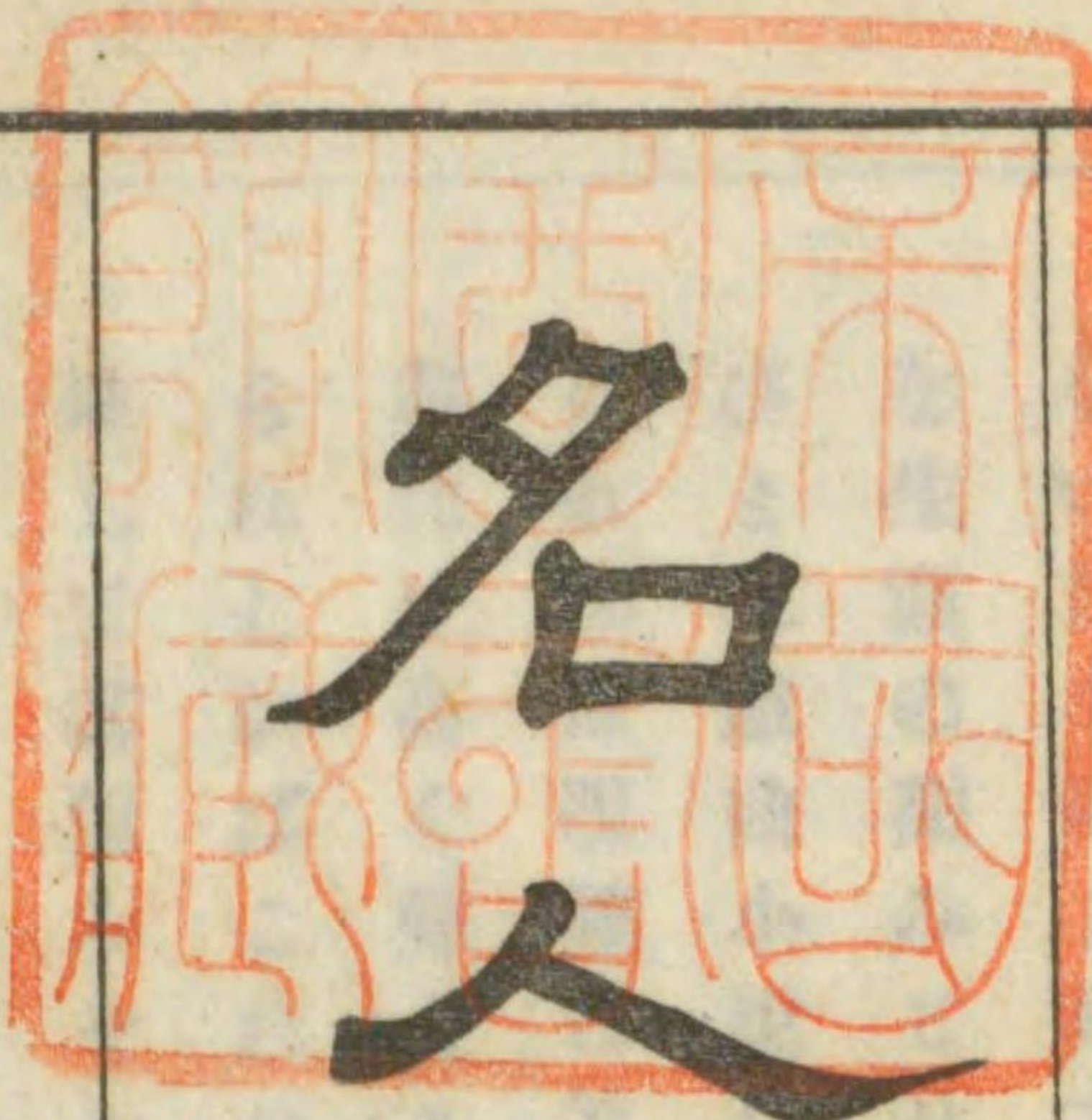
198-435
1200800009878

國
圖
書
藏



名人忌辰錄
上

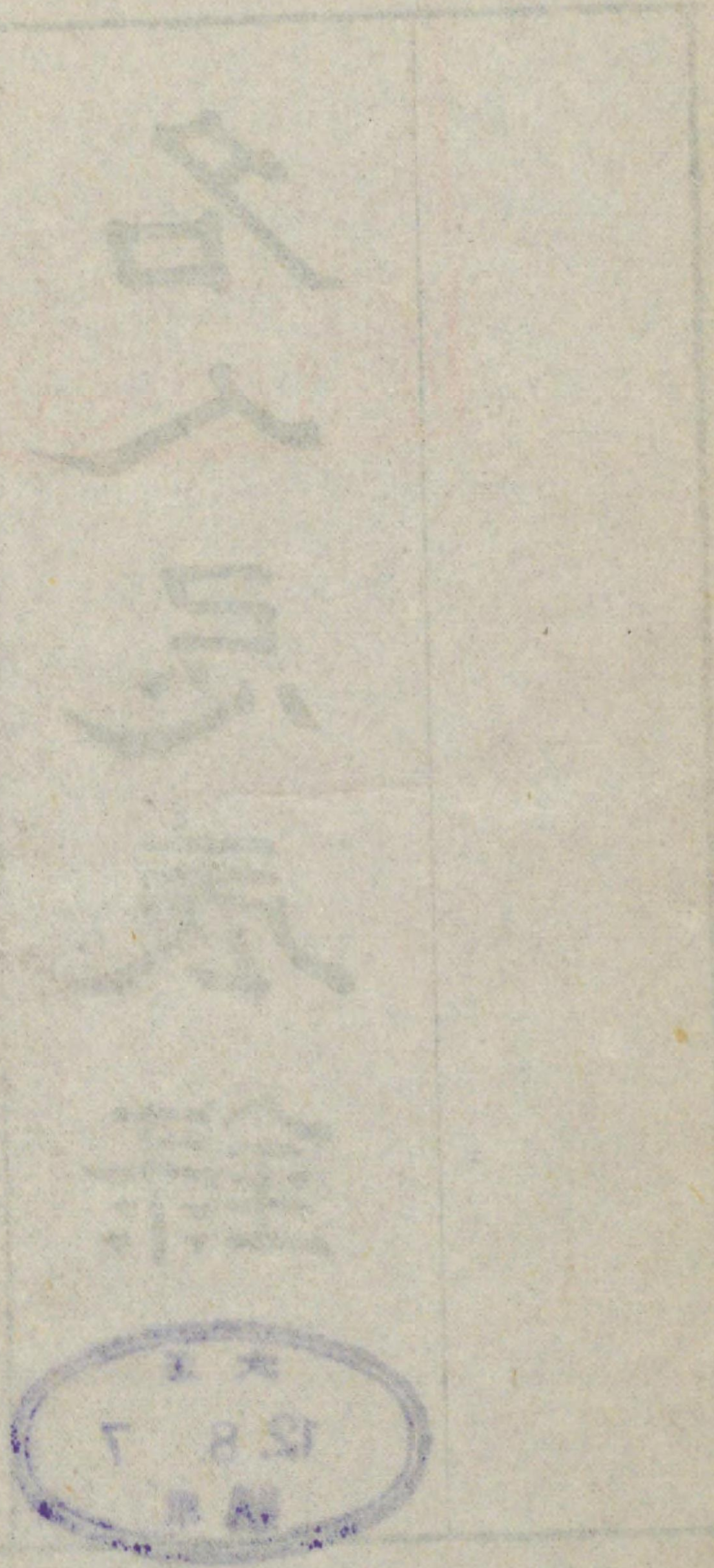
198-435



名人

忌辰録

大正
12.8.7
購求



關根只誠翁の性行

翁名は正亮只誠と號し七兵衛と稱す江戸の人なり若き時より讀書をいたく好まれて暇あるをりく野乘雜書を読みわたし抄録するを生涯の樂みとせられければ其抄本遂に貳百五拾餘卷の多きに及びまた戯曲小説狂歌俳諧など近世の文事に精しくして人の問ふことあれば明確に答へられしにより世に平民文學の稱を得られたり翁たけ高く聲大きかりけれご性温和にして親みやすく義俠の質あられしかばこれかれの人よりさまくの事をよざされしを皆よく果して其望みをかなへられしかばそを徳として慕ひよるものおほかりきまた殊に記すべきは梨園の戯を深く好まれしわざにして年ごろ演劇の歴史俳優の家系の類を考へられたる著書百餘卷ありさればその談に及ぶごとに珍らしきかたりごとおほく主客日かげの

傾くを忘るゝ事常なりければ其道に至りふかき識者として劇神仙
と呼ばれたり性壯健なりければ蔭高き松の齡もとたのまれつるに
明治二十六年の四月枝ふきしをる風病をわづらひてその十八日つ
ひに六十九といふ年にて身まかられぬたのれ翁とはとしごろの交
あるちなみに此遺稿に一言そへてよと請はるさりや翁なくなりて
後近世の事實をたずぬる折には翁あらばとおもひ梨園の歡場にか
たらふべき友少くなりては翁なくてとしのばるゝにせめてしたは
るゝ心をやらんには需めのまに〜筆をぬらさゞらめやとてわつ
かなる言の葉ながら翁の性行をかくなむ

明治廿七年の四月七十三のよはひを重れたる

小中村清矩

名人忌辰録

關根只誠編

いの部 附る

色川三中 瑞霞園

初名英明號東海稱彌三郎常州土浦の人國學典故に精通し又度量の學を諸葛琴臺に學ぶ安政二年卯六月廿三日歿す歳五十四土浦城南神龍寺に葬る

伊庭可笑 堪亭

通稱猪與八天明三卯年六月三日歿す歳七十七四谷大木戸理性寺に葬る法名玄如院要山居士

岩垣松苗 東園

通稱大舍人助京師の人歴史典故に精通せり嘉永二年酉十二月三日歿す歳七十六京の東山に葬る

岩田涼菟 神風館

伊勢山田祠官稱又次郎後權七本名正致號團友齋芭蕉門人享保二年酉四月廿八日歿す歳五十七辭世の句「合點ぢやその曉の郭公」

岩田夫山

名忠恕字子貫通稱來助文政二年卯八月六日歿す歳六十二淺草田圃幸龍寺に葬る

岩田周幸 一瓶齋

通稱幸太夫江戸の人茶道を藪内に學ぶ一奇人と稱す享和二年卯九月六日歿す年八十三

岩永大洲

名澄元字子通太田氏を冒す醫にして本草學に精じ寛政七卯年十月十二日歿す歳七十五

茨木春朔 地黄坊樽次

本姓伊原城氏酒井雅樂侯抱醫師寛文十一亥年四月七日歿す歳五十八駒込千駄木妙林寺に法名信善院日宗(春朔は大塚の邸に住し深底と酒戦に利を得し事を記して自ら水鳥記を著せり小石川戸崎町瑞鳳山祥雲寺住僧は酒徒にて有しかば樽次死後十餘年にして寺内に石碑を建つ(是樽次存生に約せし故と聞ゆ)正面に立像の不動を刻し右に法名酒徳院醉翁樽枕居士と記し左に辭世二首を刻す又延寶八庚申年正月八日とあるは是碑を建てし日なり)

岩崎彌太郎

名寛號東山土佐國安藝郡井之口村に生る郵船廻漕の業を興して三菱會社社長た

り後從五位に叙せらる明治十八年二月七日歿す歳五十二染井墓地に葬る

岩本乾竹 竹婦人

初め吉原江戸町一丁目の娼家天満屋仁左衛門と云ふ破産して後俳師となり寶曆九卯年二月十七日歿す歳八十淺草寺中人丸堂前に碑あり(乾竹は沽洲の門人となり満足庵吳文と云ひ淺草竹門に住みて竹婦人と號す後此號を弟子の竹島正朔 吉原名主仁 右衛門ト云に譲る、繪蓬萊、いの字扇、浮む瀨、江の島、禿萬歳、幾登勢、花かたみ、水調子、有馬筆、等の河東節其他の論ひものを多く作れり

磐瀨勘平 華沼

名行言字子言奥州の人島原侯の儒臣川口三八の門人にして書は三井親和の門なり文化七年十一月八日歿す歳七十四赤坂松泉寺に葬る

岩瀨鷗所 蟾洲

幕府の士肥後守名は忠震號岐雲繪畫を椿山に學ぶ文久三亥年七月十三日歿す歳六十一小石川蓮華寺に葬る

岩瀨京傳 醒々齋

俗稱京屋傳藏山東庵本姓灰田氏磐瀨氏と稱す別號菊花亭文化十三年九月七日歿す歳五十六兩國回向院に葬る

磐瀨京山 涼仙

通稱利一郎京傳義弟名は百樹號は鐵筆堂安政五年九月廿四日歿

す歳九十一本所回向院に葬る法號修崑院自點(京山も篠山侯に仕へしが辭して京橋太刀賣に住し再び京傳宅に移りて印刻を業とし傍戲作をなせり天保九成年二月晦日歸七十に及び剃髮して涼仙と改め年賀の書畫會を催せり安政五年九月廿四日娘の井伊侯へ奉公せし方へ参りて一泊し夜明て更に起出す其娘いぶかりて行て見しに事きたり卒中風なりさいふ)

磐瀨京水

通稱梅作京山の男蔭繪を以て業とす慶應三年三月九日歿す歳五十二本所回向院に葬る

伊藤梅宇

伊藤仁齋の二男字重藏名長英備後阿部侯に仕ふ延享二年十月廿八日歿す歳六十二

伊藤勃海

名晃字玄朗通稱長助江戸の人太庚の門人磐城侯の侍讀たり享和三亥年四月五日歿す歳六十三淺草萬隆寺に葬る

伊藤東里

名弘美通稱延藏東所の子文化十四丑年五月廿四日歿す歳六十一私に恭敬と諡す

伊藤東涯

名は長胤通稱源藏號慥々齋主人元文元丙辰年七月十七日歿す歳六十七私に紹述先生と諡す小倉山二尊院に葬る

伊藤東所

通稱忠藏東涯の子(東涯四子あり三人は皆天す)東所八歳の時父歿せり文化元子年七月廿九日歿す歳七十七私に修成と諡す

伊藤長準 竹里

仁齋の四男通稱平藏久留米侯に仕ふ寶曆六子年九月十一日歿す年六十五麻布古川曹溪寺に葬る

伊藤潮花

號唐明堂軍談師中の識者なりき明治十三年七月廿五日歿す歳七十一(この翁至て多藝なりしが中んづく易占茶道に精しく常に卜筮を以てかたはらの業とし茶道指南をもしたり)

伊藤長衡 介亭

通稱正藏仁齋の三子書畫を能くす高槻侯の儒臣となる安永元辰年十月廿四日歿す歳八十八私に謙節先生と諡す

伊藤垣庵 宗恕

字は元務號自怡堂活所の門人京師の人越藩の文學と成る寶永五戊子年八月廿四日歿す年八十六

伊藤澹齋 悠哉

名は貞字は知量邦達の義子鳩巢門人明和元申年九月廿一日歿す歳七十一

伊藤長秋 匡山

字萬年松山天姥の門人一號執古齋天明七年八月廿日歿す歳五十餘淺草新寺町本立寺に葬る

伊藤蘭嶠 長堅

仁齋の五男字は才藏紀藩に仕ふ碩儒の聞えあり安永七戌年三月廿六日歿す歳八十六

伊東藍田 龜年

通稱金藏又天遊館金谷の門人文化六巳年四月二日歿す歳七十六駒込吉祥寺中洞泉寺に葬る

伊藤益道 子行

通稱善藏廣澤の門人號華岡安永五申年十一月廿七日歿す歳六十八下谷坂本養玉院に葬る

伊藤固庵 才庵

平安の人正徳元辛卯年正月十四日歿す歳七十一京極西光寺に葬る

伊東燕晋 詞苑

通稱仙右衛門伊藤派講釋師の祖天保十一年子十二月十日歿す歳八十

伊東燕凌

二代目なり本姓漆畑稱新助初代燕凌の門弟初め凌雨と云へり安政二卯年七月十五日歿す歳五十五深川浄心寺中玉泉院に葬る法號智泉院燕凌日譽 辭世「醉さめの、これや、この世に秋の水」

伊藤錦里 鳳陽

通稱宗二龍洲の男洛の錦小路に居住す依て錦里と云ふ越藩に仕へ安永元辰年三月九日歿す歳六十三私に文格と諡す京極大雲院に葬る

伊藤 儀 好義齋

字邦達長門の人仁齋門人澹齋の父享保十二年九月三十日歿す歳七十一高輪泉岳寺に葬る

伊藤信徳 梨梯園

通稱助左衛門號竹丈子松永貞徳に従ひて俳諧を能くす元祿十一

丙寅年十月十三日歿す歳六十六(信徳は新町夷川に住す祖翁許すに徳の字を以す翁歿して後山本西武に従て道を學ぶ武歿後高瀬梅盛を師とす又東武に往返し蕉翁に親むむこ深し徳は酒數斗を飲む「雨の日や門提て行杜若」といふ句を蕉翁に贈れり)

伊藤仁齋 維禎

字源吉後に避るこ有て名を維禎字源佐と改む平安の人寶永二乙酉年三月十二日歿す歳七十九小倉山二尊院に葬る私に謚して古學先生と云ふ

伊藤松軒 倚松庵

通稱次太夫歌及び書を能くす寛政六寅年十月晦日歿す歳八十六青山梅窓院に葬る武者小路實岳卿の門人なり

伊藤自然 白華園

名是益寛政四十年八月廿日歿す名は信順卿は字なり文化十四年九月廿三日歿す歳四十七日白臺蓮華寺に葬る

伊藤順卿 板溪

名は信順卿は字なり文化十四年九月廿三日歿す歳四十七日白臺蓮華寺に葬る

伊藤若冲 斗米庵

名汝釣字景和平安の人初め狩野家を學び後光琳の筆意を習ふ寛政十二年申九月十日歿す歳八十五深川石峰寺に葬る

伊藤弘齋 古義堂

稱壽賀藏一號東里弘化二巳年八月十四日歿す歳四十七

市野三右衛門 光業

字子暉江戸の人家世商估にて富巨万を重れ神田伏見町に住す寶曆十辰年十一月十一日歿す歳三十五東本願寺中眞福寺に葬る(此人學を好て太宰春臺に従ひ經義に通じ篤實を以て著る家藏の書三萬卷あり尤西漢以上の事實に博識なり常に客を愛し文士を招致し有志者に遇へば學業の資錢を出して其欲する處を遂成しむ)

市野三右衛門 光彦

字子邦迷庵と號す不忍池瀧とも號せり子暉の族人にして嗣子と成る佐久間町四丁目に住す天保十一年七月二日歿す歳七十餘淺草本願寺塔中眞福寺に葬る

一陽軒素外 玉池

本姓池田氏文政六未年二月八日歿す歳九十今戸慶養寺に葬る法號起倫院物先素外居士

一碗亭玄武

本姓神谷氏號麟甲醫を業とし白山に住す寛政十四年正月十九日歿す牛込濟松寺中芳正院に葬る

一色時棟 雲溪

平安の人字子績俗稱市之進伊豫松山侯の儒臣享保十巳年十月十日歿す歳七十六

市場通笑 橘雫

名は寧一字子彦俗稱小平次鹽町に住すもこ經師屋にして戯作を好めり文化九申年八月廿七日歿す歳七十四淺草新寺町祝言寺に葬る法號覺具法念

一立齋廣重 立齋

通稱安藤徳兵衛幕府の小吏なり歐川豐廣の門人にして浮世繪を能くす安政五年九月六日歿す歳六十二淺草松山町東岳寺に葬る

市川與左衛門 隆禮

文久二戌年閏八月七日歿す歳六十八

市川鶴鳴

通稱藤兵衛字八子熊耳の門高崎藩の儒士後多門と稱す寛政七卯年七月七日歿す歳五十七西の窪光明寺に葬る

市川小左衛門 寬齋

名世寧字子靜號半江漁夫安達文仲が詩社に入り後富山侯に抱へらる上毛の人文政三辰年七月歿す歳七十二日暮里本行寺に葬る

市河三亥 米庵

通稱小左衛門字孔陽號山林堂三亥の稱は文永八亥の年亥の月亥の日を以て生れしに依て也米元章の書法を能くして大名あり安政五年七月十八日歿す歳八十日暮里本行寺に葬る法號文廣院米庵日儀

市川恭齋

米庵男天保四巳年六月廿七日歿す歳三十八

入江太華 千里

名貞字駿通稱幸三郎南溟の子元文三年五月五日歿す歳僅に十八日谷常林寺に葬る

入江南溟 子園

通稱幸八名忠圍徂徠門人居名滄溟閣武州の人明和二乙酉年五月廿八日歿す歳八十八下谷常林寺に葬る

入江 貞 北海

通稱興右衛門出羽の人南溟の義子と成伊賀侯に仕ふ寛政元己酉年五月十九日歿す歳七十六下谷常林寺に葬る

入江皆助 寧

字子道入江北海の男なり文化九年正月十九日歿す下谷常林寺に葬る

犬塚唯助 印南

名遜字退翁姫路藩士文化十四年閏十一月十二日歿す歳六十四駒込十方寺に葬る

犬井乾峯

延享三寅年十月四日歿す歳三十四

犬井貞恕 一囊軒

俗稱次郎兵衛名重次雅髪して貞恕と改む京四條東洞院に住す元祿十五午年三月四日歿す歳七十五上鳥羽邑實相寺に葬る(貞恕はもこ越前敦賀の人なり始め乾と書す貞室門人萬治の比江州大津に寓居す一とせ「いまだ遠くは延びじ落人」といへる前句に「道ばたにいきりこそたて馬の糞」と附けてより大津の馬糞と云ふ名を得たり)

五十嵐俊明 穆翁

吳氏字方篤號孤峰越後新潟の人
初め狩野家を師とし後俊梁階又
張平山に學びて畫風一變す本姓佐野故有て五十嵐と云
ふ三子あり二子を佐野に復せしむ天明元丑年八月十日
歿す歳八十二

伊賀平藏 風山

字武貫勢州桑名の世臣後濃州加納
侯に仕ふ享保三戌年九月七日歿す
歳七十五志州鳥羽淨安寺に葬る

板垣宗愴 眞庵

名短字長徳水戸光圀卿の臣にて醫
家なり元祿十一寅年六月九日歿す
淺草金龍寺に葬る

板倉安右衛門 帆邨

名安字美仲復軒の長子南郭
門人なり延享四卯年六月廿
四日歿す歳三十九雜司ヶ谷法明寺に葬る

板倉帆丘

俗稱富尾彌一耶名重隆寶永二年七月十七
日歿す歳七十七

板倉九右衛門 復軒

字慨叔木下順庵門人享保十
三申年四月廿三日歿す歳六
十四雜司ヶ谷法明寺に葬る

板坂卜齋 春如

別號意齋甲斐の人儒醫なり明暦元
乙未年十二月廿二日歿す歳七十八
淺草寺中醫王院に葬る林信篤撰の碑は修善院にあり

(卜齋は淺草砂利場の邊に文庫を建て和漢の書籍を藏
め之を淺草文庫といへり)

伊丹鬼貫

平泉氏本姓一島通稱三郎兵衛伊丹の人にて
俳諧の大家なり號槿花翁元文三年閏八月
二日歿す歳七十八攝州伊丹墨染寺に葬る

磯谷正卿 滄洲

通稱與左衛門正卿を名とす尾張の
人享和元酉年十二月廿日歿す歳六
十八尾張名古屋常徳寺に葬る

五松鶴林 鶴林翁

通稱次右衛門出羽國米澤の人近
衛流の書を能くす後菅家の筆法
を學べり依て菅原姓并法橋を賜る文化十年十月廿八日
歿す歳七十一淺草東門跡寺中徳本寺に葬る

泉 豊洲

名長達字伯盈號遊文館通稱斧太郎文化六巳
年五月六日歿す歳五十二淺草光明寺に葬る

泉 目吉 守一

俗稱吉兵衛號香齋本郷一丁目居
住す續浮世繪類考に始め古等琳門
人後狩野探信の門に入り守の字を許さると云ふ文化十
二年十二月五日歿す本郷無縁坂講安寺に葬る

稻葉華溪 貞隆

通稱兵吉寛政十二年十二月廿七日
歿す歳五十五淺草新堀端西福寺に
葬る

稻葉正信 默齋

通稱又三郎閨齋門人土井侯儒臣た
り寛政十一年十一月朔日歿す歳六

十八上總成東元昌寺に葬る

稻葉迂齋 正義

俗稱十左衛門佐藤直方の門人なり
肥前唐津の人寶曆十辰年十一月十
日歿す歳七十七駒込龍光寺に葬る

稻掛棟隆

伊勢松坂の人本居大平の實父寛政二申年
四月七日歿す歳七十一

稻垣長章 白叟

通稱茂左衛門春臺門人大野土井の
臣にて儒醫たり白嵩とも號す世に
龍渚白嵩觀海金峰を太宰門の四天王と云ふ安永六酉年
六月十一日歿す白山妙清寺に葬る

稻垣東山

名は長和字惠明通稱茂助流芳園とも號す東
奥の人にして白叟の義子となる寛政三亥年
十二月十三日歿す歳四十九白山妙清寺に葬る

稻津祇空 青流

難波の人號空閑人又竹筍山人享保
十八丑年四月廿三日歿す歳七十一
相州箱根に終る同所早雲寺に葬る(祇空も詩文を能
くす後諸國遊歴の序宗祇墓前に於て落髮祇空と改む)

稻毛官右衛門 屋山

名直道字聖民號燕々居篆刻
家なり文政五年七月十三
日歿歳四十八(此人讀州高松の人柴野栗山と同郷なり
郷里に栗屋山といふあり屋山栗山共に此山名をとりて
號せしたれども二人昇沈の程格別なり)

稻生魚彦

通稱茂右衛門楫取氏常州香取の人眞淵の門
人天明二寅年三月廿三日歿す歳六十同郡牧
野村觀福寺に葬る

稻生若水

江戸の人名は宜義字は彰信醫道を見宜翁に
學びて加州侯より三百石を賜ふ庶物類纂一
千卷を著す皆自筆なり紅葉山に納む正徳五未年七月六
日歿す歳六十一洛東迎稱寺に葬る

隱元禪師

名隆琦明人承應二年來化して黃檗宗萬福寺
の開基たり普照國師と賜號す延寶元丑年四
月三日寂す歳八十二

允明齊惺々 迪甫

名古氏二代享保十乙巳年四
月七日歿す歳六十一淨福寺
に葬る

祐天大僧正

名愚心號顯譽奥州岩城郡新妻村西村善
内男寛永十九壬午年正月元日生る幼名
三之助檀通上人の弟子となる享保三戌年七月十五日寂
す歳八十三

伊能忠敬 東河

通稱三郎右衛門後勘解由と改む號
樂天翁又樂天樓忠敬は下總伊能に
生る若年の比江戸に出高橋東岡の門に入り曆術及測量
を學ひ寛政十二年閏四月測量御用となり北陸道東南沿
海地圖取調翌年二月恩賞を賜ふ文政元戌寅年四月十三
日歿す淺草源空寺に葬る明治十六年二月廿七日遺功を

賞表し贈正四位たり有功院と贈號す

伊能頼則 藁村

一號梅宇通稱三左衛門下總香取郡佐原の人にて國學家なり初め神山魚貫門人後小山田與清を師とせり明治十年七月十一日歿す歳七十三同郡牧野村觀福寺に葬る

生玉琴風 如羅架

大阪の人後江戸に來て蕉翁に學ひ後寶井其角に従ふ享保十一丙午二月五日歿す歳五十九押上春慶寺に葬る

生田檢校

正徳五未年六月十四日歿す歳六十

活井舊室

號活々坊江戸の人世の人天狗坊と稱す明和元年十一月廿八日歿す歳七十二西門跡地中覺證寺に葬る

今村 亮 了庵

近代漢方醫の大家にして漢學を能くす山縣大貳の裔なり明治二十三年一月十三日歿す歳七十七谷中天王寺に葬る

今井宗久

本姓高宮氏出羽守氏高の嫡紹鷗の門人にて抹茶の技を能くす剃髮して大藏卿法印に叙し文祿二年八月歿す歳七十四

今井宗董

宗久男帶刀左衛門久胤と稱す剃髮して宗董と號す茶法を宗久より傳ふ寛永四卯年四月十一日歿す歳七十六

今井昆山

名兼規字子範信州の人安永五申年十月十九日歿す歳六十嶺南寺に葬る

今井弘濟 魯齋

通稱藏之亟名將興承應元十月生れ元祿二巳年正月十二日歿す歳三十八本郷六丁目喜福寺に葬る

今井蜀山 柳靜

文化十二年三月廿三日歿す

今大路道三 一溪

曲直瀬氏翠竹庵と號し法印に叙せらる醫道の大家なり永正四卯年九月十八日京に生る文祿三年正月四日歿す歳八十九

今大路悠山 源秀

平安の人にて醫家なり中林竹洞の門人嘉永三酉年十一月六日歿す歳六十

今枝文節

名榮齋字允明號竹庵又令齋平安の人天明五年九月廿日歿す歳六十八洛西回向院に葬る

池西言水 紫藤軒

通稱八郎兵衛名則好號風下堂俳人なり南部の人始江戸に出て檀林の黨に交り後京師に上り室町榎木町に卜居す一歳木枯の句を吐てより其名四海に轟く晩年に及び自ら落下童と稱す享保四亥年九月廿四日歿す歳七十三京極誠心院に葬る

池野大雅堂 霞樵

通稱嘉右衛門後秋平字貸成又號九霞山樵平安の人貨殖家なりし

が其業を惡み避て書工となり秋平と云池勒と號す沈無名を愛し自ら無名と改む其質雅にして聊も利に趨らず諸道に達して頗る奇人なり(名家全書に別號三岳道人と云京師の人書を祇南海及柳里恭に學ひ後倪雲林伊孚九に倣じて山水人物風韻尤高く超越の妙處に至る云々)享保八年五月八日生れ安永五申年四月十三日歿す洛の舟岡淨光寺に葬る

池田彌十郎 迂齋

名鄰字德郷書家なり文化七年二月十三日歿す白山蓮華寺に葬る

池田孤村 三倍

號煉心窟又舊松軒畫家なり慶應二年寅年二月十三日歿す歳六十六本所押上大雲寺に葬る

池田孤山 寒松庵

名清彌通稱左門始通玄庵一點と號す茶人孤峰の門下臺司傳授の高足たり文化十三年九月十八日歿す年六十四

池田英泉 一筆庵

通稱池田善次郎後里介と改む號溪齋小説家にして畫を能くす嘉永元申年八月廿六日歿す歳五十七四谷福壽院に葬る辭世「色どれる五色の空に法の道こゝろにかゝるくまどりもなし」

生月鯨太左衛門

肥前平戸の産にして玉垣額之助門弟角力なり身丈七尺三寸嘉永四亥

名兼規字子範信州の人安永五申年十月十九日歿す歳六十嶺南寺に葬る

通稱藏之亟名將興承應元十月生れ元祿二巳年正月十二日歿す歳三十八本郷六丁目喜福寺に葬る

文化十二年三月廿三日歿す

曲直瀬氏翠竹庵と號し法印に叙せらる醫道の大家なり永正四卯年九月十八日京に生る文祿三年正月四日歿す歳八十九

平安の人にて醫家なり中林竹洞の門人嘉永三酉年十一月六日歿す歳六十

名榮齋字允明號竹庵又令齋平安の人天明五年九月廿日歿す歳六十八洛西回向院に葬る

通稱八郎兵衛名則好號風下堂俳人なり南部の人始江戸に出て檀林の黨に交り後京師に上り室町榎木町に卜居す一歳木枯の句を吐てより其名四海に轟く晩年に及び自ら落下童と稱す享保四亥年九月廿四日歿す歳七十三京極誠心院に葬る

年五月廿三日瘡毒にて死す歳廿四本所竹町天祥寺に葬る法號晴光院巨海生月居士

池永道雲 一峯

名榮春書家なり元文二巳年七月廿九日歿す歳六十二淺草誓願寺に葬る

池守秋水 鳥足園

本姓太田氏通稱儀右衛門名龍字潜夫小倉侯に仕ふ古學の儒家なり嘉永元年七月廿三日歿す歳七十一本妙寺中惠雲院に葬る

伊佐半々庵 幸塚

延享二年丑六月十一日歿す歳六十二茶道に聞えし人なり

伊澤辭安 蘭軒

名は信恬字は澹甫號は姑射山人又三養堂福山侯の醫士伊澤長安の男なり儒學は泉豐州に學ぶ文政十二丑年三月十七日歿す澁谷長谷寺に葬る

石橋眞國

號は稽古樓俗稱茶屋七助江戸町奉行附腰掛茶店の主人なりしが國學を以て知らる安政二卯年歿す忌日未詳

石原正明 蓬堂

通稱喜左衛門尾州の人保己一檢校の隣人文政四年巳正月七日尾州名壽屋に歿す歳六十二

石王安兵衛 黃裳

名は明誠號は寒軒三宅尙齋門人安永九子年正月廿一日歿す歳八

十洛東眞如堂に葬る

石川一夢

俗稱會津屋佐兵衛塗物商にして牛込神樂坂に住す軍談師となり始め一口云ふ安政元寅年九月廿一日歿す歳五十一品川新宿の某寺に葬る法號、顯幼庵一夢禪定門、辭世一夢一ツやぶれて蝶の行くへかな

石川豊信 秀葩

俗稱糠屋七兵衛小傳馬町に住し旅人宿を業とす六樹園雅望の父なり天明五巳年五月廿五日歿歳七十五淺草黒船町正覺寺に葬る(豊信は浮世繪師西村重長に従ひて繪を學び寶曆の頃紅繪を畫きて名譽ありき性質温和謹直にして酒樓に登らず娼門に入らず然れども男女の風俗情態を寫すに至て頗る眞に迫りて遊園に通ぜし者の如くなりきぞ)

石川勘介 柏山

羽州の人京都に來り佐々木志津摩に學び書を以て業とす享保六年台命に依り六諭衍義大意を書す歿年六十八歳なりき忌日未詳

石川六樹園 雅望

通稱糠屋七兵衛後五郎兵衛と改む字は子相、五老又蛾術齋と號す小傳馬町三丁目旅人宿糠屋七兵衛畫名石川豊信が五男にして寶曆三年正月十五日神田明神下に生る幼名清の助天明の末七兵衛と改む始佐竹侯の用達津村三郎兵衛

石川清澄

石川雅望の男なり天保五年四月十五日歿す歳四十九四ツ谷北寺町永昌寺に葬る

石川丈山 重之

俗稱嘉右衛門號詩仙堂又六六山人天正十一年正月九日生る三河の人駿府にて御小姓役を勤め祿五百石を食む元和の役御使番を勤めし時衆に抽んで唯一騎忍ひ出で、敵の首を取り功名せしかど軍令を犯せし罪により御勘氣を蒙り武士を放れて比叡山の麓一條寺に住し寛文十二壬子年五月廿三日歿す年五十九洛北一條寺に葬る法名高貞院詩仙泰善大居士

石川疊翠軒 總誼

通稱左金吾三千石を領す三田古川町に住し松樹を愛す藏書數多の聞え高し天保十二丑年五月某日歿す歳三十八

石上改上 不至齋

名尹字予在江戸の人天保五年四月十八日歿す歳七十三淺草報恩寺地中惠念寺に葬る

石田梅巖 興長

通稱勘平丹波桑田郡東縣村に生る延享元年甲子年九月廿四日歿す年六十京師鳥部山に葬る此人心學を創唱せし人なり

石田 篤 醒齋

通稱鍵屋半兵衛江戸の人天保五年八月七日歿す年四十

石田新助 牛渚

名は雄國字は器之備前岡山の世臣江戸に來り春臺の門に入る安永五申年二月廿六日歿す歳六十一

衛涼菴(和書を讀て和歌を能くす)に就いて學ぶ此後狂歌を好みて蜀山に従ふ狂名を宿屋飯盛と稱す文化の頃馬喰町邊の宿屋共公事に出でたる旅人を長く止むる事に付て咎められたる時六樹園も所を拂はれ變名して五郎兵衛と名のり四谷内藤新宿に居りしが其宅を子清澄に譲り與へて其邊の裏通り上ヶ池と云所に隱居したり夫より程經て靈岸島本湊町中村屋梅太郎(清澄が男六樹園の孫也)が家に寓居し紙など商ひたり文政十一年眞顔と共に京都より宗匠號免許有り文學の才狂歌師にはすぐれたり其著雅言集覽は世益多し都の手ぶり杯文才を見るに足る天保元寅年閏三月廿四日歿す歳七十八淺草黒船町正覺寺中哲相院に葬る

石川麟州

向井三省の門人にして小倉藩儒眞如堂と號す寶曆九卯年閏七月十三日歿す歳五十三

石川安貞 香山

字は順夫尾州鳴海の人尾州侯の儒臣なり文化七年十二月二日歿す歳七十五鳴海の端泉寺に葬る

石川晃山 髻髮客

字士晃宗助と稱す下野國都賀郡川村の人谷文晁の門人なり後備中國倉敷に止る明治廿年十二月二日歿す歳四十九

石川梧堂 龜甫

名は總明字は錫我一號知秋菴書家なり嘉永五年正月四日歿す歳六十餘

石田幽汀

名は叔明京師の人能く幽禪の畫を模す天明五巳年五月廿五日歿す

石田未得 乾堂

通稱文左衛門、未得は江戸の人、故ありて相州に隠れ後再び江戸神田鍋町に住し後京に上りて令徳に親み貞徳の門に入る俳諧のみならず狂歌をも善くせり慶安中吾吟我集を著してより其名顯高しと云ふ寛文九巳酉年七月十八日歿す歳八十三淺草誓願寺に葬る法名自性院未得

石田未琢 良堂

未得の男通稱要之助居所父と同じ元和二壬戌年三月廿日歿す歳七十才淺草誓願寺に葬る法名隆法院未琢

石塚豊芥子 豊亭

通稱鎌倉屋十兵衛からしやと云ひ集古堂と號す文久元酉年十二月十五日歿す歳六十二該博家なりき淺草報恩寺中惠念寺に葬る法號釋豊芥

石塚崔高 雪堂

名は士堅文化四卯年二月七日歿す高輪大圓寺に葬る

石作駒石 士幹

通稱貞五郎信州山村の臣にして書家なり寛政八辰年正月十四日歿す歳五十七

石井狸谷

天保十二丑年十二月十日歿す年五十八

石井五橋 暮四

通稱源右衛門石舞庵又五橋翁と號す俳人なり享保十九年寅二月二十

石井了珪 菊水亭

連歌々學を以て法橋に叙せらる天保十三寅年正月十七日歿す歳六十

石井彌五兵衛 三朶花

名は收房州の人水府に仕ふ享保九辰年九月廿五日歿す水戸神崎寺に葬る

石井左司馬 子彭

文化九申年八月廿九日歿す歳七十五上州館林善長寺に葬る

石井潭香

名は徽言字は告、松前の藩士なり明治三年五月朔日歿す歳六十一上野山下高巖寺に葬る

石野廣通 通翁

通稱平藏幕府の旗本にして食祿三百石從五位遠江守と稱す和歌を冷泉爲村卿に學び故實舊式を伊勢貞丈に問へり初め御膳奉行又御納戸頭に轉じ後佐渡奉行となる此時佐渡事略の編あり又御普請奉行勤役中上水記を著述せり此他の著書澤蘆集重陽日記等あり寛政十二申年五月廿一日歿す歳八十三牛込萬昌寺に葬る

石島正猗 筑波

通稱與右衛門常州筑波下に生る依て筑波山人と號す寶曆八寅年八月十七日歿す歳五十一駒込養昌寺に葬る

西久保大養寺に葬る(貞丈は幕府の旗本にて兄の時までは千石を領せり享保十一年六月十五日兄貞陳天死す然るに八月に至り舊家の故を以て格別に恩召され相州舊領の内にて三百石を貞丈に下され寄合席となる延享二年九月十三日御小姓組に入る天明四年二月三日年老を以て小普請入仰せ付られ金二枚を賜はる同年三月十一日致仕麻布に住せり)

ゐの部

井伊半三郎 四娟

名は萬字は大年弘化四未年六月五日歿す歳六十一

井原西鶴 二萬翁

別號松壽軒亦難波俳林と稱す大阪館屋町に住す元祿六癸酉年八月十日歿す行年五十二大阪八丁目寺町誓願寺に葬る法名仙皓西鶴

井波浪花 應々山人

越中井波瑞泉寺の住職にして應心院と號す向井去來の門に入て俳諧を能くす元祿十六年未十月九日歿す歳三十二同寺に葬る

井部香山 五華山人

越後の人萬三郎と稱す畫工春木南華の師なり嘉永四亥年八月廿一日歿す麻布右京坂報土寺に葬る

飯田東溪

名は忠厚字は裕然左仲と稱す元文三年三月廿九日歿す歳七十九淺草稻荷町本藏寺に葬る

飯田 良 雲臺

字は君貞飯田藏人の後にして彦根侯の儒臣なり寛政六寅年八月廿五日歿す歳五十八淺草本藏寺に葬る

飯田規文 謙齋

字は巨卿大華と號す百川の男にして書家なり安永二巳年六月二日歿す歳五十八芝西久保青龍寺に葬る

飯田百川 規濤

通稱源四郎細井廣澤の門人にして書家なり明和四亥年十二月廿日歿す歳七十四西久保青龍寺に葬る

飯塚純次郎 畏齋

名は道茂伊豫の人なり安永七戌年七月廿三日歿す歳廿四

飯室近右衛門 天目

名は武仲字は偉文江戸青山の人勢州侯の儒員なり寛政三戌年三月十日歿す歳六十六谷南寺町戒行寺に葬る

伊勢海五太夫

角力年寄初柏戸と云明治十九年三月三日歿す歳六十餘深川萬徳院に葬る

伊勢貞丈 安齋

通稱平藏伊勢貞益の次男國典故實に精通して著書數部あり天明四辰年五月二十八日歿す(公儀の届けは六月五日)歳七十

井戸甘谷

通稱勘右衛門名は慈鳩集の門に入り儒を學ぶ幕府先手與力なり寛延三年七月十七日歿す日暮里正蓮寺に葬る

井戸廣川 九如

名は弘梁號董九如又痴齋平助江戸の人畫を以て本業とも清人沈詮の風を學ぶ山崎薫烈の父なり享和二戌年七月廿三日歿す歳五十九

井川雪下園 鳴門

名は貢稱源兵衛文化二丑年十二月廿五日歿す坂本長光寺に葬る

猪飼敬所 彦博

弘化三年十一月十日歿す歳八十六伊勢津の龍津寺に葬る

居初貞六堂 乾峯

二世なり明和七寅年四月廿七日歿す歳四十七

居初雲峯

都塵舎又年々翁寛延元年辰十二月十八日歿す歳七十一

井上竹溪

名元繼字養安京の人元文三年八月十六日歿す歳七十洛の妙連寺に葬る

井上直記 毅齋

名天覺字先民四明の孫岡山藩士弘化三巳年九月四日歿す歳五十五落合村泰雲寺に葬る

井上南臺 子存

名堪通稱新藏常陸の人金峨の義子幕府の儒官と成る寛政十年十月十四日歿す谷中感應寺に葬る

井上蘭臺 通熙

通稱嘉膳備前の人林鳳岡門岡山藩儒にて四明の父なり寶曆十一巳年十一月廿七日歿す歳五十七落合村泰雲寺に葬る

井上蘭澤

名逸通稱新右衛門太宰門人天明元丑年六月十四日歿す歳六十四白山妙清寺に葬る

井上正鐵

本姓安藤氏眞鐵の二男足立郡梅田村に住して神道の一派を開く天保十四卯年五月廿四日伊豆三宅島へ遠島七ヶ年在島の後嘉永二年二月十八日歿す歳六十一

井上眞白

易占及刀鎗術を善くす嘉永二戌年十一月二日歿す歳七十八

井上玄徹 靈叟

本姓田谷氏周防山口の人醫師なり延壽院玄朔門東福門院を診し奉り効有て交恭院法印の號を賜ふ貞享三年四月十九日卒す歳八十五

井上文曜 東塢

平安の人元文二巳年九月五日歿す歳四十一洛國本寺に葬る

井上文雄 元眞

田安侯の臣號歌堂又調鶴、岸本由豆流に學ぶ明治四年十一月八日歿す歳七十六谷中玉林寺に葬る法名文雄院歌先明道、辭世「老果て命惜しとはおもはれど死ぬるさいへばかなしかりけり」

惟然坊

廣瀬氏號辨慶菴俳道に遊ぶ濃州關の人寶永七庚寅年五月廿一日歿す

猪瀧天遊 閑齋

名世美通稱良平萩原大麓門人儒を業とす天保二卯年六月十八日歿す歳六十一小石川圓生寺に葬る

はの部

梅里山人 梅里

陶氏字は仲已瓦方御用達にして山水畫を善くす松林山人の門弟なり寛政十年六月廿八日歿す歳六十二本所中の郷成就寺に葬る

賣茶翁 柴山

名元昭號高遊外又月海寶曆十三未年七月十六日歿す歳八十八

梅鱗菴 五璉

安永八亥年九月六日歿す歳七十六小石川一音寺に葬る

梅滴齋 鶯居

伊豫松山藩士通稱奥山内記隱居して俳諧を宗とす明治廿三年八月廿五日歿す歳八十二辭世「散るさ見しまぼろし消えて花に月」

馬場董水 青海堂

名政隆春水の男明和三戌年九月廿七日歿す歳七十八市ヶ谷長昌寺に葬る

井上弘甫 義齋

名貞寛弘甫は字平安の人犬町敦素門人延享三寅年十二月七日歿す歳五十八洛西蓮臺寺に葬る

井上金峩 純郷

名立元通稱文平信州の人號考槃堂始蘭臺の門に入て學び後に一家を成し折衷學の祖と稱せらる其學漢宋諸儒の經說を取捨し善なる者に從び一家の言に專守せず故に折衷學と云ふ江戸の文學之が爲に一變し護園の學漸々衰ふるこゝ此人の斥非するに依てなり諸侯の招に應せず仕官せず又此人山水の畫を善くせり天明四辰年六月十六日歿す歳五十三芝青松寺に葬る

井上士朗 專菴

又號朱樹翁又琵琶琵琶尾州侯の醫なり常に平家を語り琵琶の技に達したり「琵琶こりてしばし心を月の雲」などの句もきこゆ文化九申年五月十六日歿す

井上四明

名仲龍字仲號佩弦堂蘭臺義子岡山侯文學文政二卯年二月廿一日歿す年九十七谷中感應寺に葬る

井上石溪

名儀備字子文儒家なり安永元辰年九月十三日歿す歳八十四根岸善性寺に葬る

井澤強齋

黒谷の人寶曆五亥年四月十二日歿す歳五十二

馬場竹坡 文安

字上恭美濃の人安政六未年十一月五日歿す歳七十七市ヶ谷柳町光徳院に葬る

馬場佐十郎 穀里

長崎の人文政五年七月廿七歿す歳三十六

馬場存義 古來菴

初名泰里號李井菴亦有君菴俳諧をよくす天明二寅年十月三十日歿す淺草誓願寺に葬る

馬場文耕 馬文耕

本姓中井氏左司馬と稱す伊豫の人後中井文右衛門と改む軍談師にして文才あり著述多し寶曆八寅年十二月廿五日四才にて刑せらる

馬場條助 春水

號青地堂寛延元辰年八月十四日歿す歳八十六市ヶ谷長昌寺に葬る
(此人元來書法を能くせり七十餘歳にて猶若年の手跡の艶有るを或人如何にして然るかと問ひしに怠らず日々書改めたりさいへりさか)

服部半左衛門 杜芳

名欽伊賀の人芭蕉門人なり享保十一年四月十八日歿す

服部仲英 元雄

攝津の人南敦の養子初め西村多門と稱す明和四亥年六月八日歿す歳五十四品川東海寺中少林寺に葬る

服部中庸 水月

本居宣長門人文政七申年二月廿三日歿す歳六十九

服部蘇門

名天遊字伯和號嘯翁通稱六藏介亭の門人明和六丑年九月十六日歿す歳四六も平安の商人にして織物を業せし也

服部嵐雪 玄峯堂

通稱作助後彦兵衛越後の人號雪中菴又不自軒黃落菴井上侯に仕ふ寶永四丁亥年十月十三日歿す駒込竹町常檢寺に葬る(一書に曰く嵐雪は淡路小槻並村の人也)

服部寛齋 保庸

通稱藤九郎木下順菴門人號龍溪享保六丑年六月三日歿す歳五十五小石川茗荷谷德雲寺に葬る文廟侍講、若き時孝子の聞えありし人

服部清助 保考

名誠之號鸞溪翁享保十四酉年十一月廿三日歿す小石川茗荷谷德雲寺に葬る

服部源八 保命

字恩恭號樽州通稱喜藏後源八儒にして書を能くす保庸の弟なり正徳元卯年二月十四日歿す歳六十五茗荷谷德雲寺に葬る

服部繁三郎 愿卿

服部南郭二男名惟恭元文五申年三月十一日十七歳にて天死す品川東海寺に葬る

服部元喬 南郭

平安の人字子選、始幸八後小右衛門と改む、號を芙蓉館主人と云天和三年十四歳にて江戸に來り後三年繪事を以て柳澤侯の臣と成り後致仕し徂徠に學で詩文を以て一時を風靡し海内に山斗たり芝赤羽に居るを以て赤羽とも號す寶曆九卯年六月廿一日歿す歳七十七品川東海寺中少林寺に葬る

服部善藏 栗齋

攝津の人名保命字左甫一號旗峰又梅園子とも云ふ村士玉水門人なり寛政十二申年五月十一日歿す歳六十五

八田知紀

香川景樹門人明治六年八月二日歿す歳七十五品川大圓寺に葬る

八田龍溪

名憲章字子漢備前の世臣寶曆五亥年七月廿一日歿す歳六十四

八田古秀 古藤

字子堂平安の人應舉門人文政五年九月五日歿す

八朶園寥松

天保三辰年閏十一月十七日歿す歳七十三

八文字舍自笑

安藤氏通稱八左衛門京鉄屋町に住す延享二丑年十一月十一日歿す歳八十

芳賀一品 靈冥堂

京の人玄益と稱す俳諧を令徳に學ぶ又書を能くし崑山と號す江

戸に出て伊勢町に住む寶永四亥年四月朔日歿す歳六十四

春田九阜

名醫字羽高號葆真庵儒にして詩文を能くす佐藤一齋門人文久二戌年二月十一日歿す歳五十二赤坂種徳寺に葬る

春田播摩 壽康堂

名永年具足師にして古實に委し寛政十二申年五月二十九日歿す歳四十八

春木南溟

名秀熙字子緝號畊雲漁者書を以て鳴る明治十年十二月十二日歿す歳八十四谷中天王寺墓地に葬る

春木南華 讀書齋

通稱扇之助南溟の男慶應二寅年六月十七日歿す

春木南湖 幽石亭

通稱門彌名鯤號烟霞釣叟、天保十亥年四月廿五日歿す歳八十一

秦 鼎滄浪

尾州の人漢學を能くす天保三辰年七月十三日歿す歳七十三

秦 源藏 星池

名其馨號菊如齋文政六未年三月八日歿す歳六十一書家なり

畠山卿八 梅園

名常操初名常保入道して梅軒と云ふ一橋侯の目付役たり古實歌學に委し文化十三年八月剃髮して金杉村に隱居す天保十二年十二月四日歿す歳七十一四ッ谷笹寺に葬る

郷八の孫故實に通ず明治十六年六月廿七日歿す

畠山如心齋

香舟軒箕山を見よ

畠山箕山

名光政明暦二申年八月廿一日歿す歳六十八

畠山隨應 牛菴

名義高光政の男元祿六酉年四月廿七日歿す歳六十九

畑 金鷄 道雲

上毛の人號觀奕道人別號燕石樓又は奇々羅と稱す文化六巳年正月廿一日歿す歳四十二

畑 銀鷄 平亭

上毛の人通稱數馬字毛義金鷄の子なり嘉永元申年五月廿日上野に於て歿す歳四十九高尾村長覺寺に葬る

畑 道意 鐵鷄

字習之號幹齋銀鷄の男なり文久二戌年二月四日歿す歳四十九上野高尾村長覺寺に葬る

秦 清次 觀阿彌

本姓服部氏初名觀世丸後三郎結崎治部と云ふ謡曲の作者なり應永十三戌年五月十五日歿す歳五十二

秦 元清 世阿彌

結崎左衛門太夫清次の男初藤若丸後三郎字宗全康正元亥年七月廿二日歿す歳八十一

秦 元雅 大圓

結崎元清の嫡男長祿三卯年十月九日歿す歳六十五

羽川珍重 三同

眞中氏名仲信俗稱太田幹五郎(太田ハ川口邑ノ舊名)號宣觀居士鳥居清信の門人寶曆四戌年七月廿二日歿す下谷池端東淵寺に葬る

塙檢校 保己一

武州兒玉郡保己村の産始め萩原宗固門人後暫く眞淵に従ふ文政四巳年九月十二日歿す歳七十六四谷南寺町安樂寺に葬る

塙 二郎 忠實

號温古堂保己一の男なり文久二戌年十二月廿日歿す歳四十九四谷南寺町安樂寺に葬る

花安松江女

平安の人歌津女と稱す寛政八辰年九月十七日歿す歳廿五鳥部山に葬る

花笠魯助 文京

本姓東條氏琴臺の實兄にて號純亭豊島新造と稱す戯作者なり萬延元申年三月二日歿す歳七十六深川靈巖寺地中に葬る法號魯鈍齡筆辭世一山の端にしら雪と見し花は根にかへりし後のほるの古ささ

英一蝶 北窓翁

通稱猪三郎後次右衛門初多賀潮湖狩野安信門人後一家を起す併號曉雲享保九辰年正月十三日歿す歳七十三、二本榎承教寺中顯乘院に葬る

英一蝶(二世)信勝

通稱長八號栗舎北窓翁長男元文二巳年閏十一月十一日歿す歳四十七深川陽嶽寺に葬る

英一蜂 春窓翁

通稱彦輔寶曆十辰年四月廿八日歿す歳六十四

英一蜂(二世)一挺

一蜂男、天明八申年六月十二日歿す西本願寺中眞光寺に葬る

英一桂

名信重北窓翁四世孫天保十四卯年十二月廿一日歿す歳八十五二本榎顯乘院に葬る法號英壽院一桂日仙、辭世「二百生きようさこそおもひじに八十五にて不時の若死」

英一舟 東窓翁

英一蝶養子長八の嗣又號潮窓通稱彌三郎名信種明和五子年正月廿三日歿す歳七十二、二本榎承教寺中顯乘院に葬る

花房九十九

名正治因州鳥取の藩士易學に達す又俳諧を嗜み雅名を百鳥園英舎と云ふ明治廿一年九月廿七日歿す歳七十一牛島弘福寺に葬る

原白隱 慧鶴

名惠鶴駿河原禪玄寺住職たり書風一流あり明和五子年十二月十一日歿す歳八十四勅諭して神機獨妙禪師と給ふ

原仲冠山

本姓小笠原號樂易道人文政四巳年四月廿一日歿す歳五十九

原松州

文政十二丑年十月十九日歿す歳五十二

原敬仲 恭胤

雙桂二男肥前唐津に生れ後古河侯に仕ふ寛政五丑年八月十一日歿す歳四十六吉祥寺中洞泉寺に葬る

原武太夫 盛和

幕府御手先與力の隱居初名寅次郎渾名原富といふ牛込清水町に住す寛政四子年二月二十二日歿す(隣の疝氣奈良柴等の著者)三味線の名人なり

原在中 臥遊

名致遠字子重平安の人有職典故に通じ畫所畫師と稱す天保酉八年十一月廿八日歿す歳八十八

原震平 古處

名震秋月侯世臣文政十亥年正月廿二日歿す歳六十一四谷南寺町西念寺に葬る

伴蒿蹊 閑田

名資芳近江八幡の人有賀長伯の門人なり國文和歌を能くす文化三寅年七月廿五日歿す歳七十四華頂山に葬る

伴州五郎 信友

若州小濱の臣本姓山岸氏、宣長翁歿後の門人にして博覧なり尤史籍に通す弘化三年十月十五日歿す歳七十四若狹發心寺に葬る

半時菴淡々 三揚

本姓松井氏其角門人號長水翁寶曆十一巳年十一月二日浪花に歿す

原冲藏 狂齋 淡路の人名公逸字飛卿後僧となり修眞と云ふ井上金峨門人、寛政二戌年四月廿日歿す歳五十六服部坂金剛寺に葬る

腹唐秋人 中井董堂を見よ

原 更山 羊遊齋を見よ

原田平入 宗貞 號無心菴石州流の茶人なり寶曆八寅年三月三日歿す歳七十一田畑興樂寺に葬る

原田吉右衛門 東岳 名直字温夫豊後の人東涯の門人天明三卯年十二月三日諸州漫遊中、中津に歿す歳五十五

原坦山 鶴巢 本姓新井氏磐城藩士後姓を改て原氏と云ふ初め蘭學を學ぶ後故有て天保十七年出家佛門に入る明治廿五年七月廿七日歿す歳七十四市ヶ谷長延寺に葬る

原雙桂 尙菴 名瑜字公瑤平安の人漢學を以て唐津侯に仕へ後古河侯に移る明和四年九月廿日歿す歳五十駒込吉祥寺中洞泉寺に葬る

す歳八十八大阪難波村瑞龍寺に葬る法號百門長水と云ふ、辭世「あさ霜や杖で畫がきし不二の山」

幡隨意院長兵衛

本姓塚本氏慶安三寅年四月十三日歿す歳三十六淺草北寺町源空寺に葬る

白幽子 白仙

姓氏不詳北白河の山中に住し常に金剛經を誦せり石川丈山の八分字は此翁に學へり云ふ寶永六五年八月九日歿す高壽にして二百餘歳に及へりぞ

羽黒謙齋 養潛

元祿十五年正月十一日歿す歳七十四

白壽坊信我

江戸の俳人本姓野村氏號道元居士文化十四年十月十六日歿す歳六十四麻布圓林寺に葬る

白水田良 箏山

名は棟字は田良其先は明人姓劉氏天明四辰年四月廿五日歿す歳六十二洛東眞如堂に葬る

羽倉外記 痴齋

名は則字は用九號可也又簡堂又蓬翁とも號す文久二戌年七月三日歿す三田臺町一丁目正泉寺に葬る

早野巴人 宗阿

號秋半亭竹雨郢又月泉其角門人東都の人寛保二戌年六月二日歿す年八十一京師に客死

林 藤坡

名は瑜字は孚尹通稱周輔加州侯儒士天保七申年七月廿五日歿す歳五十六加州石川郡大乘寺に葬る

林 幹々女 幹々

谷文晁の妻稱波滿寛政十一己未年七月廿三日歿す淺草北寺町源空寺に葬る

林 鶴梁 長孺

明治十一年正月十六日歿す歳七十三溜池澄泉寺に葬る

林 吉勝

林又左衛門子幼名吉松、稱左近衛門號俚齋、元和元年卯正月廿九日歿す歳七十三

林 長枝

諸島の男文化五辰年五月廿日歿す下谷幡隨意院に葬る

林 道春 羅山

名忠字子信明曆三丁酉年正月廿三日歿す行年七十五墳墓忍岡の別邸に在りしを元祿十一年牛込山伏町に移すといふ

林 道榮 墨痴

名應家肥前長崎の人萬治二年江戸に來り薙髮して官梅と號す又蘿山と稱す後歸りて通事と成り書法一家を成す嘉永五年十月廿二日歿す歳六十九

林 信亮

幼名又次郎後式部又字兵衛と改稱す一名戀字伯虞又勝文號松洞又稽古齋菊溪天明年辛丑閏五月十九日歿す歳七十六

林 信篤 春常

初又四郎一名戀字直民號鳳岡又整字鷄窓居橋隱亭主人の諸號あり延寶八年庚申二月廿三日家督を繼ぐ元祿四年辛未正月十三日特に命じて著髮せしめ大學頭に任じ從五位下に叙す十一年戊寅牛込數百區の地を賜ふ享保十七年壬午六月朔日卒す歳八十九私諡して正献といふ

林 信充

幼名七三郎後春察と稱す信篤の子なり側室内田氏所出字子厚一名怵、字士儻號榴淵又快堂彩雲峰復軒翼齋の諸號あり其居を松風亭と云ふ元祿二年己巳十二月始て常憲公に謁し寶永元年庚申九月十三日中興御小姓格となり四年丁亥三百苞を賜ふ享保八年癸卯二月九日職をつぎ大學頭に任ず、九年甲辰家督を繼ぐ賞賜皆父信篤の時の如し寶曆八年戊寅十一月十一日卒す歳七十八私諡して懿正といふ

林 信智

稱百助一名恣、字禹玉號退省確軒容與園白鶴觀主人の諸號あり寛保三年癸亥六月四日卒す歳五十七私に靖厚と諡す

林 信言

初泰助後内記と稱す初名信武一名愚字子恭鳳谷と號し居所を松風亭といふ信充の子享保十八年始めて謁見延享四年十二月圖書頭從五位下となり安永二年十一月廿八日卒す歳五十三私に正貞と諡す

林 信愛

稱内記信言の男一名恣字子節龍潭と號す居所を此君亭といふ寶曆十一年十二月十八日韓使來聘之扱により從五位下に叙し圖書頭に任ぜらる明和八年五月廿八日父に先たちて卒す

林 信徵

初又三郎後内記信愛男一名惠字子明號鳳潭安永三年甲午三月八日家督をつぐ天明六丙午年八月廿八日卒す正良と私諡す

林 信敬

初大吉後内記實は富田能登守次男信徵養て嗣子とす一名敬字子行號錦峰又號潤齋、天明七年三月家督をつぐ寛政五年癸丑三月卒す簡順と私諡す

林 子平 友直

本姓岡村氏海國兵談三國通覽を著はし忌諱に觸れ絶版せられし時、「親もなし妻なし子なし版木なし金もなければ死にたくもなし」と讀みて自ら六無齋主人と號せり寛政五年六月廿一日歿す歳六十二仙臺西の町龍雲院に葬る

林 永喜

名證又名信澄稱東舟號櫻墩子道春同母弟なり寛永六巳年冬刑部法印に叙せられ秩八百石を賜ふ同十五年寅八月十九日卒す歳五十四

林 天瀑 述齋

名衡字公鑑從五位下大學頭初又藏と稱し蕉軒老人と號す天保十二丑年七月十四日卒す歳七十四下總千葉郡高津村觀音寺に葬る他家より入て林家を中興したる人也

林 周助 東溟

名義郷長州の人字周文安永九子年九月廿五日歿す歳七十三牛鳥弘福寺に葬る

林 春齋

幼名吉松寛永七庚午春元服又三郎と稱す名は春勝字子和後怒と改む字之道號玉鷲峰又向陽軒葵軒夕陽軒等諸號あり十一年甲戌十月三日祝髪して春齋と稱す天和元年辛酉五月五日卒す歳六十四私に文穆と諡す

林 春徳

名守勝字子文號函三後又歛哉亭考槃堂剛訥子靜廬甚齋之諸號あり後専ら讀耕齋と號す後祝髪春徳と稱す萬治四年辛丑三月十二日疾て卒す歳三十八私に貞毅と諡す

林 春東

幼名又助、延寶四年丙辰十一月九日歿す歳二十三

林 春益

幼名源三郎後又右衛門と稱す一名懲字翼成號學軒又谷飲後名信如字利生號葛廬、延寶四年丙辰十一月十八日家督を繼ぐ享保十九年甲寅九月十五日卒す歳六十四實は高麗春澤法眼の二男なり

林 春宗

幼名吉松後又三郎名惠號鷄峰貞享二年乙丑十一月廿八日歿す歳僅に十八

林 叔勝

字敬吉稱左門寛永六巳年六月六日歿す歳十七

萩原緑野 敬齋

名承字公龍稱鳳二郎安政三辰年九月歿す歳六十二忌日未詳

萩原乙彦

本姓森語一郎十時庵の門に入り對梅居乙彦と云ふ亦二世梅暮里谷峨と改む後萩原秋巖の養子と成る小説家にして俳諧を能くす明治十九年二月廿八日甲州矢村にて歿す歳六十一

萩原英輔 大麓

字休郷名萬世廣道兼山の門人漢學家、文化八末年五月八日歿す歳六十、芝三田中寺町妙福寺に葬る

萩原宗固 貞辰

通稱七左衛門市谷本村に生るもさ鈴木氏四谷左門町萩原家の養子となり和歌を能くす天明四辰年五月二日歿す歳八十二四ツ谷南寺町本性寺に葬る

萩原秋巖

通稱只助名羣字大飛號松筠堂明治十年二月十九日歿す歳七十五谷中天王寺に葬る

萩原廣道 蒜園

通稱小平太岡山藩浪人にして鹿藏と曰ひ後鹿左衛門と改む號出石居鹿鳴草舎國學を善くす又小説をも作れり文久三年三月歿す歳五十一攝津西成郡浦江村妙壽寺に葬る

橋本市藏

通稱ハシ一刀劍鞘塗師の名人也明治十五年二月四日歿す歳六十六

林 榎雨 榎宇

名禮號塙齋又筠亭初又三郎と稱す從五位下左近將監弘化三年年十二月六日歿す歳五十五

林 諸鳥 林居子

本姓鹽瀨氏稱和助眞淵門人京橋に住す寛政六寅年八月十九日歿す歳五十餘下谷幡隨意院に葬る

林屋正藏 林泉

三笑亭可樂門人樂我と云ふ可龍亦笑三とも正三ともいひ後林屋正藏と改む怪談師の祖なり天保十三寅年二月六日歿す歳六十二

速見仁右衛門 象之

名恒則江戸の人紀府上郷安藤氏の儒官春臺門人延享元子年十二月三日歿す歳三十八

速見春曉齋 春曉

大阪北の newly 一丁目妓樓幾竹屋源兵衛春曉は畫名文政六未年五月十日歿す歳六十餘

濱村六藏 藏六

文政二卯年七月十八日歿す印刷家

濱野政隨

通稱太郎兵衛明和六丑年十月廿六日歿す歳七十四

濱松歌國

浪花狂言作者俗稱武助南水漫遊其他著書數多あり文政十亥年二月十九日歿す歳五十九大阪谷町筋天龍寺に葬る

橋本經亮 香圃

橋氏肥後守號香墓園有識故實に精し文化三寅年六月十日歿す歳四十七

長谷部柳居 眠柳居

通稱半左衛門寛延元辰年五月廿九日歿す

長谷部好齋 蘭溪

又の號調觀延享二丑年十二月廿四日歿す歳五十六本所中之郷妙縁寺に葬る

泊瀬川(遊女)歌川

越前三國出村(花街)荒町屋多七抱遊女なりしが中途にして東武に來り俳師と往來せり半にして歸り再び勤め期満ちて後雜髮して歌川と云ふ同所に庵を結び安永六酉年七月十七日歿す歳六十一

長谷川勘兵衛

戲場の道具仕掛其他小道具怪談物の工夫に妙を得たり中にも千人廻し三方せり上げ等に名高し天保十二丑年八月歿す歳六十三淺草橋場長原寺に葬る其孫長谷川勘兵衛明治二十三年二月八日歿す同寺に葬る

長谷川嵐溪

本姓阿部氏越後三條の人名重怒號謹翁慶應元丑年閏五月九日歿す歳五十二郷里寶塔院に葬る

長谷川雪洞 等運

名信行安永九子年九月五日歿す淺草崇福寺に葬る

長谷川雪堤

名宗一字松齋雪且男明治十五年六月十五日没す歳六十四淺草幸龍寺に葬る

長谷川雪旦 一陽庵

名宗秀一號嚴岳齋天保十四卯年正月廿八日没す歳六十六淺草田圃幸龍寺に葬る

長谷川保樹 壽山

通稱理平、號櫻戸主人周防岩國の藩士初め和歌を二條派に學び又眞淵景樹を折衷す明治廿三年一月九日没す歳八十二辭世「樂しさはさこそ思へ後の世も花さ紅葉の山陰にして」

芭蕉堂以長 一翁

通稱有馬菊右衛門幕府の町同心隱居して俳諧を嗜む明治三年十一月廿一日没す歳六十四青山龍巖寺に葬る

支倉六右衛門 常長

仙臺藩祖の命により慶長十八年羅馬國に使し法王に謁し八年を経て元和六年に歸朝し同八年七月朔日病死す享年五十二仙臺光明寺に葬る

支倉六右衛門 常頼

常長の長子幼稱勘三郎父没後六右衛門の稱を嗣ぐ寛永十七年三月朔日弟權四郎邪教信仰の罪に坐して切腹す享年四十二墓所同上

にの部

丹羽正伯

寶曆二申年正月四日没す歳五十三本郷丸山本妙寺に葬る

丹羽雲氣 奎仲

名晟字奎仲漢學者なれど終身娶らず僧の如し、寛政十二申年四月九日没す麻布廣尾光林寺に葬る

二條康道公

明珠院攝政俳諧を松永貞徳に學び一體を成し給ふ千丸卿と號す寛文六年七月廿八日薨す歳六十

二宮尊徳

相模國足柄柏山の人通稱金次郎、安政三年辰十月廿日没す歳七十一

西脇惣右衛門 棠園

名簡字居敬本姓高階氏丹波の人儒士天保二卯年七月廿四日没す歳六十九少石川松雲寺に葬る

西川伊三郎 吳延

通稱萩野忠次郎俗に云ふ人形遣の名人二代目伊三郎と稱す弘化三年八月十一日没す歳六十九東本願寺中教覺寺に葬る

西川如見 如軒 享保九辰年九月廿四日没す

西川祐信 自徳齋

歳七十七通稱右京初名祐助京の人號文華堂初め狩野永納門人後

土佐光祐に學ぶ自ら大和繪師と稱す寶曆四卯年九月十一日没す歳八十一

西川祐尹 得祐齋

祐信の男通稱祐藏寶曆十二年八月廿五日没す歳五十七

西依儀兵衛 成齋

名周行肥後國玉名郡の人若林強齋門人、寛政九巳年没す歳九十六

仁科白谷

備前の人弘化二巳年五月廿九日没す歳五十五播磨國印南郡今市浦正覺寺に葬る

仁科琴浦

通稱吳平字士明始め琴川文化十一戌年五月八日没す歳五十九

西村楠亭

名豫章字子風圓山應舉門人天保五年六月廿日没す歳八十

西村藪菴

通稱西村左兵衛號花柳園新吉原の坊正なりき嘉永六丑年十一月廿四日没す淺草等學寺に葬る(花街漫録を著述せし人なり)

西村重長

通稱孫三郎號仙花堂通油町に住す浮世繪師なり寶曆六十年六月廿七日没す歳六十餘

西山芳園

松村景文の門人にて繪を能くす慶應三卯年十一月八日没す歳六十二

西山宗因 梅翁

通稱二郎名豊一始め一幽後宗因肥後の人號向榮菴西翁梅花翁とも云

ふ天和二戌年三月廿八日没す歳七十三天満寺町西福寺に葬る

西山健甫

木下順菴門人名順恭本姓阿比留氏元禄辰年十月三日没す歳三十一下谷坂本養玉院に葬る

西山拙齋

名正字士雅本姓坂本氏備中の人寛政十年十月五日没す歳六十四

西澤一風

通稱正本屋九右衛門大阪心齋橋南四丁目に住す書林、元戯作を好み豊竹座の戯曲作者と云なり享保十六亥年五月廿四日没す歳六十七

西澤一鳳 李叟

通稱九郎右衛門號綺語堂又理助と稱す戯曲作者なり嘉永五年十二月廿二日没す歳五十一

西澤眞雛 鳳堂

通稱正本屋利兵衛李叟兄幼名助市天保十一年六月廿九日没す歳四十九大阪下寺町大連寺に葬る

西湍州

天保八酉年二月十九日没す歳四十二

新家春三

陶宮衛の主唱者明治二十三年六月廿七日没す歳七十七谷中天王寺墓地に葬る

新島襄

上野國安中の人幼名七五三太安政中蘭學測量航海術を修め元治元年六月米國に留學歸朝後明治七年西京に學舎を創立し同志會と云ふ明治二十三

年一月廿三日相州大磯旅舎に歿す歳四十八大坂天王寺に葬る

新見法入 通稱傳右衛門幕府の士にて御寶藏番頭たり白山御殿に住す享保二酉年三月十一日歿す歳五十五駒込淺嘉町高林寺に葬る法號一起院真心法入居士

ほの部

堀部勝女 妙海尼 赤穂義士堀部彌兵衛の女安永七戌年二月廿五日歿す歳二十六高輪泉岳寺に葬る

堀利賢 有梅 機部正號梅花散人万延元年十一月六日卒歳四十三小石川源覺寺に葬る

堀田麥水 加賀の人なり天明二寅年十月十四日歿す

堀田正敦 攝津守仙臺侯宗村が八男下野佐野城主たり寛政二年六月十日若年寄に成り文政八年四月十八日准城主に成り同九年江州堅田より舊領佐野へ所替に成り城主に任せらる天保三年正月致仕す同九月九日卒す歳七十五、澁谷祥雲寺中香林院に葬る

堀内迎光菴 雲鼓 京五條橋東千觀松片影に寓す號人なり享保十三辰年五月二日歿す歳六十四

堀内仙鶴 範齋 水間沾徳門人號國生庵又自鶴翁江戸の人京師に住す寛延元辰年閏十月廿一日歿す歳七十四大象の來りし時の句に「今や引富士の裾野の蝸牛 化笛齋」

堀山洞廷 名暢字君舒京師の人安永七戌年十月五日歿す歳三十一洛本満寺に葬る

堀正藏 南湖 名正修字身之號習齋木下順庵の女習藝州侯の儒臣寶曆三酉年三月七日歿す歳七十

堀楓亭 名貞恒字士輝安永六酉年六月廿一日歿す歳二十六京極誓願寺に葬る

壕越二三治 榮陽 始め澤村二三治寛延二年壕越に改む演劇作者なり安永七戌年二月十八日歿す歳五十八

堀杏菴 正意 藤原惺高門人江州の人字敬夫尾州の臣寛永十九年十一月廿五日歿す歳五十八芝切通金地院に葬る

牡丹花宵柏 大永七亥年四月八日歿す歳八十五

細川藤孝 玄旨 兵部少輔法印正四位兼髮して幽齋に云ふ慶長十五戌年八月二十日卒す歳七十七歌學に委しく著述多し名素岡字獨慎印刻に妙なり明治六年二月七日歿す

細川俊平 林齋 天保十四卯年十月十八日歿す歳六十五本所彌勒寺に地内龍光院に葬る

細川林谷 支旨法印男越中守忠興正保二申年十二月二日卒す歳八十三

細川忠興 三齋 通稱甚三郎字世馨南宮大湫の門人享和元酉年六月廿九日歿す歳七十

細井平洲 民徳 通稱次郎兵衛名庸號馬石山人書家四淺草北寺町天岳院に葬る別號如來山人尾州の人なり

細井竹岡 君中 通稱次郎兵衛名庸號馬石山人書家なり寛政七卯年二月十三日歿す歳八十一淺草善松寺に葬る

細井廣澤 知愼 通稱次郎太夫字公謹號思貽齋又蕉林庵に云ふ万治元戌年遠州掛川に生れ東都青山に住す儒にして書を能くせり享保二十年卯十二月廿三日歿す歳七十八武州等々呂木村満願寺中豫應院に葬る法號不孤有隣大居士

細井九阜 知文 廣澤の男通稱文三郎號澤維道人天明二寅年五月四日歿す歳七十二葬所同前

細井錦城 知雄 廣澤の孫稱左右衛門字長羽文化五辰年十月十一日歿す歳五十七同所に葬る

細井貞雄 昌阿 號詞花堂稱藤十郎元桶町に住せし桶方用達なり山本正臣の門人後本居翁の門人に成る文政六未年九月二日歿す歳五十二西本願寺中福泉寺に葬る

細井之水 成江堂 志水延清の門人稱忠右衛門寶曆十一巳年六月二日歿す歳七十三

細谷半齋 斗南 名離字麗玉稱八郎右衛門浪花の人別號太乙真人享和三亥年十一月六日歿す歳七十七

細木香以 香意 字冷和號香以山人明治三年九月十日歿す歳四十九駒込行願寺に葬る

穗積以貫 伊助 (通稱津の國屋藤次郎人呼て津藤といふ狂歌を彌生庵雛丸に學び挑江圍と云ふ後三世千種庵を繼ぐ遊里に豪奢を極め晩年零落す) 播磨の人東涯門人放羈不拘の人大阪に住し醫を業とす享保十一年年歿す

穗積元供 天也齋 名惟正字元供上毛の人、天保十

四卯年十月十八日歿す歳六十五本所彌勒寺中龍光院に葬る

本因坊算砂

碁所の元祖名は日海元和元亥年五月廿六日歿す歳六十四

本因坊秀甫

碁客なり明治十九年十月十四日歿す歳四十九本郷丸山本妙寺に葬る十八世秀甫と稱す

本多沖翁 壺山

名忠如字子璋時之助と稱す後從五位下越後守たり南郭に學ぶ安永二年三月十五日卒す歳六十本郷麟祥院に葬る彈正大彌忠篤の父なり

本多忠統 猗蘭

通稱駒之助河内西臺侯なり祖徠門人寶曆七年二月廿九日歿す歳六十六深川靈巖寺に葬る(忠統字大乾後に從五位下伊豫守と成る元祿四巳年六月十八日近江膳所城に生る延享三年隱居して拙齋と號す男子十人女子十人あり壽は雪舟派なり)

本多忠永 隨應

勢州神戸城主丹後守俳名清秀文化十四五年九月十七日卒す歳九十四深川靈巖寺に葬る辭世「雨はれて蓮に眞如の月夜哉」

本間遊清

號九江吉田藩醫字士龍別號眠雲和歌を能くす嘉永三戌年八月歿す歳七十

本阿彌光甫 空中齋

光悅男書及陶器製造に至妙なり天和二戌年七月廿四日歿す歳八十二

本目觀辰

稱權左衛門本目流二世元文元辰年七月十六日歿す小日向本法寺に葬る

本目親信

本目流手跡の祖通稱左衛門と稱す寶永元申年五月三日歿す歳五十八小日向本法寺に葬る

本目親英 隼人

初總輔關鳳岡門人字子芳又號關隼安永十五年二月三日歿す

本松齋一得

元常林寺住僧文政三辰年正月朔日歿す歳百三才淺草常林寺に葬る

本松齋一得 (二世)

通稱佐藤雲平名淨鑑幕府の人嘉永三寅年六月十四日歿す歳七十 一四谷蓮乘寺に葬る

鳳潭法師

元文三年二月廿六日歿す歳八十五

北條團水 樗堂

白眼居士才磨の門人俳諧を業とす正徳元卯年正月四日歿す歳四十九

北條霞亭

名讓號天放生通稱讓四郎志州の人文政六未年八月十七日歿す歳四十四集鴨眞性寺に葬る

豐藏坊信海 孝雄

號牛菴又玉雲八幡社僧豐藏坊住職松花堂門人又狂歌を善す元祿元辰年九月十三日歿す歳五十四

本阿彌光賀

明治廿年六月廿九日歿す谷中妙法寺に葬る

本阿彌光悅 德友齋

本阿彌光心養子號空中庵又大虛庵と云ふ寛永十四丑年二月三日歿す洛北光悅寺に葬る歳八十一刀劍鑑定を業とし又書を能くす

本阿彌長春 妙本

刀劍鑑定家の元祖京都の人文和京鳥邊野に葬る(妙本は五條家の元祖高長卿老年の庶子にして長春と云ふ後剃髮して本阿彌と號す高長卿の子長經の末子となし足利等持院將軍に仕ふ初て儒家を出て尊氏の刀劍奉行となる其子本妙其子妙大其子妙秀其子妙壽々々男子なくして足利六世の將軍普庵院義教公の近習松田右衛門三郎清信を養子とす此六世本光なり家業の巧手本阿彌中興と稱す本光の子光心始め男子なく多賀豊後守中原高忠の二男片岡二太夫が妻は妙壽が二女にして其子は本阿彌の外孫なるを以て二太夫の子次郎左衛門を養て家を嗣かしむ剃髮して光二と云是光悅が父なり織田右府に親仕す後光心に實子光利(三郎兵衛の祖)生れしかば家名を實子光利に譲り自づからは別家を立つ此れ本阿彌が家を別てる初めなり前田家の祖前田利家卿の府中に在せし時三百石を給りて家臣となる、以上本阿彌の略系なり)

穗井田忠友 標助

景樹門人駿河の人弘化四未年九月十八日歿す歳五十六洛誓願寺に葬る

北藤浮生 銀塘居

一號迦樓羅園江戸銀町に住す享保二酉年正月廿三日歿す歳四十八小日向金剛寺に葬る

木者庵湖十 老鼠

曾氏號鼠軒元文三戌年七月廿七日歿す歳六十三淺草山谷宗林寺に葬る

墨川亭雪麿 敬丹舎

越後高田の人通稱田中善三郎墨川亭月麿の門に入り書を學ぶ後戲作を兼たり安政三辰年十二月五日歿す歳六十白金臺町九丁目妙縁寺に葬る

甫喜山景雄

明治十七年四月五日歿す歳五十七始めて活字を以て我自刊我書を發行せり

の部

米庵牛吞

號牛放庵、米仲の門人寛政四子年三月五日歿す歳七十

平秩東作 東蒙山人

立松氏字子玉號嘉穗庵名は懐之俗稱稻毛屋金右衛門尾州の

人元内藤新宿旅籠屋後烟草商寛政元酉年三月八日歿す
歳六十二市谷善慶寺に葬る法號釋宗專

編無爲 貞鎮 通稱五十嵐定右衛門萬治元成年三月十
三日歿す歳八十四(墓所一覽云依田貞
鎮號編無爲居士稱伊織明和元年三月十七日歳六十六に
して歿す府中善明寺に葬る)

この部

鳥羽僧正覺猷

醍醐天皇第六の皇子西宮左大臣高明
公四世の孫宇治大納言隆國九子なり
保延六年申九月十五日寂す歳八十八山城國鳥羽に居す
因て鳥羽僧正といふ

鳥羽屋三右衛門

四代目杵屋六左衛門弟子初名文五
郎中興の名人なりき仔細有て中頃
東武線太夫となり後三右衛門と改む明和四亥年二月廿
七日歿す歳五十六

土橋亭りう馬 龍馬

俗稱彌太郎元祖龍生門人にて
落語家なり始めりん馬後二代
目龍生後りう馬と改め植木店に住す嘉永四年亥六月十
日歿す歳五十三淺草寺中常林寺に葬る

遠坂文雍 雪堂

稱庄司號十友園谷文晃門人嘉永五
子年七月廿日歿す歳七十
名半藏浪花の儒者又書畫を能くす
忍項寺梅谷の門文政元子年正月廿
五日歿す歳七十二

魚屋北溪 葵園

名辰行號拱齋俗稱岩窪金右衛門始
め狩野養川院門人後北齋の門に入
る家業生魚を鬻ぐ仍て氏を魚屋と改む故に鯉魚を畫く
に妙を得たり嘉永三年歿す歳七十一青山千駄谷立法寺
に埋葬す

鳥取大武 鳴卿

通稱鳥取幸右衛門名謙文化九年八
月六日歿す淺草南泉寺に葬る
舊幕府旗下高二千五百石初名耀藏
後甲斐守に任す其後斷絶す明治六
年十月三日歿す駒込吉祥寺に葬る墓表隆清鳥君之墓と
あり

鳥居清信(元祖)

俗稱庄兵衛父を庄七清元といふ難
波町に住して浮世繪の一派を開く
享保十四年七月廿八日歿す淺草寺町法成寺に葬る

鳥居清倍(二世)

俗稱庄助清信男寶曆十三未年十二
月二日歿す歳五十八淺草寺町法成
寺に葬る

遠田澄庵

松平三河守抱醫安政五年七月三日奥醫師に
召出され二百俵三人扶持下さる明治廿二年
七月廿九日歿す雜司ヶ谷旭町本立寺に葬る

遠山荷塘 一圭

一圭は越後の人京都妙心寺の僧た
りしが長崎に至り墮落して清朝の
俗語を覚え江戸に來り本所表町横町に住めり一人比丘
尼を具したり是は彼が妻なり長崎妓家の女なりとぞ是
を連てかじこを走りしにや知らずされど容儀もよから
ず殊に一圭より年越て見えたり月琴を弾くこは其比
丘尼に學びたりとぞ西廂記を講じ所々に行て小説をよ
めり亦職人を雇て月琴提琴を作らせ崎陽より舶來品を
取よせたる由云て望む人に賣りぬ才子にて小説は我も
の如くいひ説きしかど往々誤しこ有り表札には荷
塘と書きて號を苗氏の如くにしてたり天保二卯年七月朔
日歿す歳三十七淺草稱念寺に葬る

遠山景晋 樂土

從五位下左衛門尉前名金四郎天保
八酉年七月廿二日卒す行年八十八
本郷丸山本妙寺に葬る

遠山左衛門尉 景元

從五位下高五百石景晋男天保
十一年三月より十四年二月迄
北町奉行を勤む弘化二年三月より嘉永五年二月迄南町
奉行再勤慶應四年辰八月廿六日卒す行年六十餘

鳥居清滿(三世)

俗稱半三清信の次男始め三味線渡
世後畫師と成る天明五巳年四月三
日歿す歳五十一淺草寺町法成寺に葬る

鳥居清長(四世)

通稱新助後市兵衛關氏清滿門人本
材木町に住す新場の清長といふ文
化十二年六月五日歿す歳六十四墓所未詳

鳥居清滿(五世)

三代目清滿の孫然れども清長に學
び始め清峰と云ふ文化十二年五代
目清滿と改む明治元辰年十一月廿一日歿す歳八十二淺
草寺町(今南松山町と改)法成寺に葬る

鳥居清滿(六世)

五代目清滿男明治廿五年八月十九
日歿す歳六十一淺草南松山町法成
寺に葬る

豊田長敦 形外

通稱重三郎號摺齋服制故實に委し
明治九年一月三日歿す歳七十四谷
中天王寺墓地に葬る

豊田天功 松岡

通稱彦二郎水戸の人名亮漢籍國典
に通す元治元子年正月廿二日歿す

豊竹若太夫 梁塵軒

豊竹派の祖竹本義太夫に學び
始め竹本采女太夫後豊竹若太
夫と改む享保十六年九月受領して豊竹越前少掾重恭と
云ふ明和元申年九月十三日歿す歳八十四大阪中寺町本
經寺に葬る

豊島豊洲 稱周吉名幹字子卿後終吉本姓中岡文化十一
成年十一月七日歿す歳七十八牛込原町幸國
寺に葬る

豊島佳風 有紀堂 號才老稱平次右衛門佛人にて江
戸堺町に住す才慶門人享保十二
申年十二月十四日歿す歳四十九谷中大雄寺に葬る

戸田可靜 瑞雲園 松本應隨の兄號松軒京に住す天
明五巳年十一月六日歿す歳五十
八

戸田欽堂 大垣侯の三男五歳の時分家戸田阿波守養子
となりて其の家を嗣く放蕩にして落魄し小
説戯文を綴りて世を渡りぬ明治廿三年八月十日横濱に
て歿す歳四十一駒込蓮光寺に葬る

戸田茂睡 露寒軒 名恭光居所の號をかくれが、又
梨本さもいへり堂上歌學の古格
を論破せし人なり寶永三戌年四月十四日歿す歳七十一
淺草森下町金龍寺に葬る

戸塚彦助 沼津侯の臣柔術家なり明治十九年四月十五
日歿す歳七十四千葉胤住寺に葬る

吞舟軒箕山 幻々齋 通稱藤木七郎左衛門名成庸號
了因居士又如幻齋別號遮莫堂
京の人寶永元申年六月廿一日歿す歳七十七辭世「かり
の世に地水火風をもどすなりこれにて五輪の差引はなし」

中にも河豚を畫くに妙手たり又禪學を善くす享和二戌
年十月三日寂す歳七十七同寺に葬る

藤堂梅花 巴陵の男畫家弘化元辰年三月七日歿す歳七
十六谷中坂町臨江寺に葬る

藤堂巴陵 通稱勝右衛門名良鼎號木壽伊賀侯臣江戸に
生る畫を能くす寛政九巳年十月廿九日歿す
歳七十九谷中臨江寺に葬る

桃 道隆 東園 號浮葉菴寶曆七丑年十一月廿八日
歿す歳五十五牛島弘福寺に葬る

藤堂凌雲 名良驥字千里梅花の男畫家明治十九年十一
月三十日歿す歳七十八谷中坂町臨江寺に葬る

東條文藏 一堂 上總の人號士毅安政四年巳七月十
三日歿す本所番場妙源寺に葬る法
號知音院古微日勒居士

東條琴臺 吞海堂 東條亨哲三男幼名幸藏後文左衛
門名耕字子藏明治十一年九月廿
七日歿す歳八十四谷中天眼寺に葬る

藤 貞靖 本姓藤井氏京の人明和八酉年八月十九日歿
す歳六十八内野看清寺に葬る

東花坊支考 瑟々庵 別號獅々庵又野盤子美濃人姓
渡邊各務氏を稱す俳諧俳文に
長す享保十六亥年六月七日歿す歳六十八

(箕山俳諧を貞徳に學び又好て戯作をなす其著色道大
鏡は六十餘州の花街を巡遊し年を積む事三十餘年にし
て成れりぞぞ)

東方旗山 祖山 名望字滿彌加賀の人文化十四年六
月廿五日歿す歳六十六

滕 木石 名桓字子虎通稱嘉一兵衛姫路藩士徂徠門又
熊耳に從學す寛政九巳年六月十日歿す歳四
十八

滕 南豊 名襲字公錦扶搖と號す佐伯毛利侯の庶子熊
耳に學て詩を能くす天明六年七月某日歿す
歳五十七

桃林亭東玉 玉整 本姓阿部稱桃次郎初號太統軍談
の風を一變せし中興の祖なり天
保八年春大坂に登り大に流行して所の者東の玉なりと
て東玉と名くさ云嘉永二酉年八月十九日歿す歳六十四
柳島本性寺に葬る法號智光遠道、辭世「人は友達ど
もがむかへにて浄土の席をうつさこたへよ」

東里山人 鼻山人 通稱細川浪次郎幕府の與力麻布
三軒家に住す戯作は京傳門人號
九陽亭後奇方傳授屋となる安政五年三月廿五日歿す
歳六十八

東海和尚 不豚 常州の人鈴木直右衛門男水戸壽昌
山祇園寺の住職幼少より畫を好み

東蝶樓欣堂 壽仙 神田白壁町質屋にて稱貞次郎號
向榮樓又欣堂閑人後狂言作者と
成り寶田壽助と改む天保九戌年二月十九日歿す歳四十
二

藤菴太半 明治二十年三月十六日歿す歳六十六

東西庵南北 剗脚師にて始め本所竹町に住す通稱朝
倉力藏後に藤八と改む後芝金杉に移れ
り戯作を好みて著書もあり文政十亥年七月歿す

董 九如 廣川 本姓井戸稱平助名弘梁字仲魚號翠
軒幕府の士なり畫を宋紫石に學ひ
後一家を成す著色鳥墨竹尤妙なり享和二戌年七月廿三
日歿す歳五十九淺草法養寺に葬る

殿村守親 櫟亭琴魚を見よ

德本上人 紀州日高郡志賀谷柳村の農、田伏三太夫の
子廿七歳にして出家し同郡往生寺大圓に從
ひ剃髮し德本と稱す文化十五寅年九月廿七日寂す年六
十一巢鴨一行院に葬る清淨菩薩現身如來と謚す「我庵
は草履のうへに笠の下杖を柱と墨染のそで」の歌人口
に膾炙す

獨步庵超波 清水氏稱長兵衛江戸の人俳師貞佐の門
人もと味噌商なりしが志有て俄に髪を
削り家の紋巴と長兵衛の長の字を合せ長巴と稱す後超

波と改ま元文五申年七月廿七日歿す歳三十六阿部川町
稱念寺に葬る

獨立天外 天外一間人

明人始め戴笠字蔓公と稱す
明の亂を避けて來化し
隱元に隨ひ僧と成る書法を玄岱に受く詩文醫を善す寛
文二十二年十一月六日歿す歳七十七

徳力龍淵

名は夏彌字子靜通稱十兵衛恭軒の男安永六
酉年二月八日歿す日暮里南泉寺に葬る

徳力恭軒 有隣

名良顯字原稱十之丞讚州高松の人
評定所儒者元文三年五月十日歿
す日暮里南泉寺に葬る

土佐光吉

從五位下泉州堺に住す慶長十八年五月五日
卒す歳七十五

土佐光芳 大藏少輔

寶永七年從六位上に叙し元文
四年十一月彈正忠に任す延享
十三年八月落髮法名常寛明和九年八月廿七日歿す歳七
十三

土佐光成 左近將監

正保三年十二月廿日生元祿元
年五月從五位同六月刑部大輔
に任す宮中書所寶永七年三月廿一日卒す歳六十五

土佐光則

寛永十五寅年正月十六日卒す歳五十六

常盤津文字太夫(三代)

兼太夫の實子幼名林之助文
化四年十一月小文字太夫と改
め市村座へ出勤(時に十六歳)同十二年文字太夫と改
む文政三卯年十一月朔日歿す歳廿八稱念寺に葬る

常盤津兼太夫(二代) 惠橋

二代目文字太夫の弟始
め大和太夫天明七年兼
太夫と改む二代目文字太夫跡目後見の事より不和とな
り寛政十一年十月より吾妻國太夫と改め一派を初む芝
居へ出勤流義の段物となりしは大方此兼太夫に始る大
橋に住して大橋兼太夫と云は是なり享和二戌年六月十
六日子細有て横死歳四十八

常盤津兼太夫(三代) 芝中

二代目兼太夫取立始綱
太夫文化六年九月三代
目兼太夫と改む本芝の魚賣まぐる兼太夫と云ふ是なり
文化十一年七月廿七日歿す歳五十四(廿六夜に蟹を
食して夫が爲に死すといふ)

東美土印 狼唄窟

富氏名敦吉從五位上通稱左近將
監京東山に住む俳文一家を成す
文政二卯年九月十七日歿す歳五十九

富尾似船(二世)

名は重隆號蘆月庵又似空軒五條堀川
の人寶永二年酉七月十六日歿す歳七
十七

土佐光信 刑部大輔

始め左近將監將軍義政に奉仕
し從五位に叙す大永五年五月
廿日歿す歳九十二

土佐光起 左近將監

元和三年十月廿三日生る剃髮
して法名常照といふ貞享十二
年四月十六日法眼に叙す元祿四年九月廿五日卒す歳七
十五

土佐光祐 右近將監

初名光高元祿元年十二月正六
位下に叙し右近將監に任す寛
永七年七月九日卒す歳三十六

戸崎十太夫 淡園

稱五郎太夫名允明字哲夫常陸の
人金華門人致仕の後淨嚴と號す
文化三寅年十一月十四日歿す歳八十三集鴨東福寺に葬
る

常盤津文字太夫(初代) 文中

京都寺町に生る佛具
商文右衛門と云ふ宮
古路國太夫門弟となり享保廿一年江戸へ下り豊後掾養
子宮古路文字太夫と改む元文元年正月市村座へ初て出
勤是常盤津の祖なり安永十年十二月朔日歿す歳七十三
麻布廣尾祥雲寺に葬る

常盤津文字太夫(二代)

初代文字太夫門人始め常盤
津鐘太夫後兼太夫と改む寛
政十一年七月八日歿す歳四十四淺草阿部川町稱念寺に
葬る

富田泰州

近江の人香川景樹門人天保十一年五月廿
五日歿す歳五十

富塚隆一 靜盧

名信易字子直仙臺侯の儒臣享保七
寅年十月四日仙臺に於て歿す歳六
十

富永君巖

名正翼字長南明和三戌年十一月十一日歿す
三田聖坂稱讚寺に葬る

富谷休團 龜翁

伊豫松山の人嘉永三戌年九月十二
日歿す歳八十二白銀正源寺に葬る

富本豊前太夫(初代) 豊洲

俗稱福田禪司宮古路文
字太夫門人品太夫後師
と絶縁して富本と改む明和元申年十月廿二日歿す歳四
十九淺草專修院に葬る

富本豊前太夫(二代) 豊翁

初代の實子幼名馬之助
後午之助安永九年豊前
太夫と改む受領して豊前掾と云ふ文政五年午七月十七
日歿す歳六十右同寺に

富本豊前太夫(三代) 豊珠翁

二代目の養子通稱善
太郎藝名初午之助後
豊前太夫其後豊前掾又豊珠翁と改む明治十三年八月十
三日歿す歳七十二右同寺に

富本豊前太夫(四代) 豊洲

三代目豊前太夫の實子
幼名保太郎後豊志太夫

又四代目豊前太夫と改む明治廿二年九月七日歿す歳六十右同寺に

土肥鹿鳴 名貫雅通稱秀太郎因州鳥取の臣文化十三子 廿二月十三日歿す歳七十三西久保金地院に葬る

土肥霞洲 允伸 名元成稱源四郎白石門人號松巖寶 曆七十五年八月十四日歿す歳六十五 市谷長延寺に葬る

土肥默翁 自觀 號堪齋又自觀居士稱左仲享保十一年四月廿九日歿す歳六十七市谷長延寺に葬る

ちの部

千葉茂右衛門 芸閣 名玄之秋山玉山門人江戸の人 後古河侯に仕ふ寛政四十年十一月七日歿す歳六十六千駄木總禪寺に葬る

千葉周作 名成政淺利又七郎の門北辰一刀流の一派を成す水戸侯に仕ふ安政二卯年十二月十日歿す淺草誓願寺に葬る劍術に於て二男榮次郎も名人の聞えありしが文久二戌年正月に歿せり

千代倉蝶羽 知足の男俳人なり寛保元年酉十一月十二日歿す歳六十五

如羅架琴風 浪花の人始女羅架享保十二未年二月七日歿す歳五十九本所押上春慶寺に葬る

陳元贊 字義都號既白山人明朝の人天正十五年渡來歸化す寛文十一亥年六月九日歿す歳八十五尾州名古屋建中寺に葬る

千種有功卿 千種有條卿二男歌道に秀づ安政元寅年八月廿八日卒す歳五十八

千種庵恒海 通稱山中要助書林也狂歌を嗜みて梅霜解と號す文化八未年四月廿六日歿す歳五十一淺草今戸稱福寺に葬る

茶屋宗古 細川三齋門人元祿六酉年十二月十七日歿す歳七十五

致曲菴逸志 笠家逸志とも云ふ號素竹軒又半局菴延享四卯年五月廿七日歿す歳七十三淺草報恩寺中高徳寺に葬る

知恵ノ内子 元の木網の妻俗稱通女狂歌を嗜む文化四卯年五月十八日(六月廿日トモ)歿す歳六十三深川正覺寺に葬る

地黄坊樽次 茨木春朔を見よ

千柄菊旦 日本橋西川岸の坊正清右衛門と云享和元酉年二月二日歿す歳七十二淺草南龍院に葬る

近松半二 本姓穂積氏千前軒門人戯曲の作多し剃髪して半二坊天明二寅年二月某日山科にて歿す歳五十八

近松徳叟 雅亮 浪花坂町の娼家大榭屋と呼べり若年にして近松半二の弟子と成り後歌舞妓作者と成る伊勢音頭の仕組より立作者となり近松徳三とも云ふ文化七年十二月廿六日歿す歳五十九

近松門左衛門 信盛 本姓杉森氏幼名平馬號集林子長州萩の人肥前唐津近松寺に遊學す後京師に上り近松門左衛門と名乗り淨瑠璃作者と成る享保十九年十一月廿一日歿す歳七十二大阪寺町法妙寺に葬る

千代春道 板下書にて橋本徳瓶と云ふ馬喰町に住み義太夫稽古本の板下尤能と傍戲作を爲し浮世喜樂とも云へり文政八酉年十一月三日歿す

千代倉知足 照軒 號蝸廉亭尾張鳴海の人通稱勘左衛門寶永元申年四月十三日歿す歳六十六

りの部

李由法師 湖東平田村光明遍照寺住職亮隅上人と云ふ俳諧を能くす寶永二酉年六月廿日遷化歳四十五

綠亭川柳(初代) 前句附川柳點の祖淺草新堀阿部川町里正通稱柄井八右衛門寛政二戌年九月廿三日歿す歳六十三淺草新堀龍寶寺に葬る

綠亭川柳(五代) 本姓水谷氏俗稱金藏代々佃島に住す魚御用漁師四代目川柳の門人始めごまめと云ふ安政五年八月十六日歿す歳七十三西本願寺に葬るみめぐりの碑に「和らかくかたく持ちたし人心」

綠亭川柳(六代) 五代目川柳の子俗稱金次郎後金藏狂名田作り明治十五年六月十五日歿す歳六十九西本願寺に葬るみめぐりの碑に「つまらぬさいふはちいさな智恵袋」

笠々亭仙果 初代仙果門人通稱篠田久次郎と云ふ初め万石亭積丸明治十七年三月三日歿す歳四十八廣徳寺地中に葬る 挿花師なり享和三亥年十二月十七日歿す歳八十八

笠翁齋亂鳥 本姓板倉氏幼名金次郎又万太郎とも云ふ後通稱坂本屋新七始め酒買後小間物

商又書估ともなりしが乾坤坊良齋の弟子となりて紀ノ海音と名のり講談の席にも出でたり後柳亭種彦の門に入て種員と改む安政五年八月廿一日歿す歳五十二深川靈巖寺地中安禪寺に葬る

柳亭種彦 足薪翁

通稱高屋彦四郎幕府の旗本二百俵を賜る名知久號愛雀軒亦諺紫樓狂名柳の風成作名初め三彦後種彦と改む天保十三寅年七月十八日歿す(實は十三日)歳六十赤坂一ツ木浄土寺に葬る

柳亭種彦(二世) 仙果

通稱高橋彌太郎尾州熱田神宮神官名廣道戲號笠亭仙果號狗々山人初代高屋種彦の門人にて自から二世種彦と稱せしが初代の親戚及び同門中より故障出て種彦の名を止められ種秀と改む慶應四辰年二月九日歿す歳六十三本所東盛寺に葬る

柳亭種彦(三世) 藍泉

本姓高島通稱瓶三郎幕府の坊主衆淺草七軒町組屋敷に生る畫を高橋波藍に學びて藍泉と云ふ戲作を好み始め轉々堂と號す明治十八年十一月十八日歿す歳四十八淺草松葉町正定寺に葬る

柳風庵 一雪

椋梨氏稱三郎兵衛京の人高瀬梅盛の門人一號牛露庵延寶八申年九月二日歿す歳六十

ぬの部

沼尻收平 龍涯

字其章關其寧の門人書家文政五年七月十五日歿す歳七十五本所彌勒寺に葬る

貫名海屋

名菴字子善晚年菘翁通稱泰次書畫共に善くす文久三亥年五月六日歿す歳八十六

をの部 附

小畑良卓 詩山

名行簡號眞隱明治八年亥七月四日歿す

小原新助 淳齋

本姓伴氏名正貞字季忠寶永七寅年閏八月八日歿す歳六十一洛東稱迎寺に葬る

小林歌城 元雄

號雲衣堂舊稱田兵衛其の祖は大坂の役に功ありて八百石を賜はる歌城に至り和歌を嗜みて名を知らる文久二戌年二月八日歿す歳八十五淺草西福寺に葬る

小濱子洋 樸齋

名大海安政二卯年三月十四日歿す歳六十四

柳前齋 蒼狐

通稱喜平次又號五千堂明和三年十一月六日歿す歳五十五駒込徳性寺に葬る

龍公美 草廬

通稱彦次郎伏見の人字君玉又號吳竹翁彦根侯儒員寛政四子年二月二日歿す歳七十九

劉東閣

元祿八亥年九月十八日歿す歳六十三

劉龍門

通稱宮瀨三右衛門紀州の人名維翰字文翼號龍門山人明和八卯年正月四日歿す歳五十三高田玄國寺に葬る

劉安生 壽山

名元育字元毓號長養齋諸葛監門人畫を業とす寛政二戌年三月九日歿す麻布古川曹溪寺に葬る

梁象水

寛政八辰年正月廿九日歿す歳七十六

葎菴鼠六

文化十三年八月廿八日歿す年五十七

葎雪菴午心

文化十四丑年正月廿一日歿す

越智鳳臺

名通貞字子章二樂子安永七戌年六月五日歿す歳四十八本所中の郷成就寺に葬る

越智二樂

名通順字子玄明和三戌年四月廿四日歿す墓所同上

越智正球

本姓曲直瀬氏醫家享保十三申年十二月十三日歿す歳八十五麻布天真寺に葬る

小川破笠 笠翁

名觀號夢中庵又卯觀子通稱平助俳名宗字江戸桶町に住す後津輕侯に仕ふ延享四年六月三日歿す歳八十七畫は一蝶の門にて一蟬と云ふ

小川萍流

初名布淑薙髮して萍流と號す小澤蘆菴門人文政三辰年二月廿七日歿す歳六十五

小河保壽 中臺

號鶴巢山人天明三辰年九月六日歿す歳七十牛込善國寺に葬る

小河仰栗 天門

名寛字仲栗長崎の人中津州門人寶曆十一巳年六月十三日歿す歳五

小川立所 成章

字伯達伊藤仁齋門人稱茂七郎平安の人元祿九子年七月十七日歿す歳

小川泰山

名信成字誠甫通稱藤吉郎天明五巳年五月廿二日歿す歳十七小石光岳寺に葬る(藤吉

耶は相州の人泰山は相州大山の事にして人々大山の奇童と呼し故に自ら號せり五六歳の比より敏慧にして書を讀むことを好み十歳にして經史を誦すること既に遍し其父之を喜て江戸へ携へ北山の門に學はしむ平生史類を讀むことを好み其の解しかたきものを研究し解説數萬言を著したり此人若し存在せば一代の儒宗なるべしと有識者之を稱して惜めりぞ

小川直記 華山 號圖南嘉永二酉年八月三日歿す歳五十八白銀立行寺に葬る

小川弘齋 稱茂輔名成材立所弟享保三戌年三月八日歿す歳六十八

小川松民 明治廿四年五月三十日歿す歳四十八谷中天王寺墓地に葬る

小川秀藏 算易 北總の人数學星象に精し文化三寅年四月二十八日歿す葛飾郡明玉山寶泉寺に葬る

岡西惟中 一時軒 初一有俳句は西山宗因門人望一に醫を學ぶ又書をよくす元祿五申年八月十日歿す歳五十四

岡 德藏 鳳鳴 名は德字肅夫平安の人油小路に住す東所門人天明元丑年八月十一日歿す歳七十廉節と私諡す

岡部白駒 龍洲 字千里通稱太中播州の人蓮池侯儒官明和四亥年十一月八日歿す歳七十六洛東迎稱寺に葬る

岡部左太夫 稠朶 名盛賢號千仞武州多摩郡の人士井侯儒臣算術に精し明和六丑年七月廿四日歿す歳九十一牛込長源寺に葬る

岡 林竹 名義道字勃海號即翁稱三右衛門元文元辰年六月廿四日歿す歳六十六淺草寺町宗安寺に葬る

岡 鶴汀 名壽卿字元齡通稱惣左衛門文化八未年正月十八日歿す歳七十六麻布本村長興山に葬る

岡田半江 米山人の男名肅字子羽稱字左衛門儒にして書畫を能くす弘化三年二月八日歿す歳六十五

岳 太仲 東海 名融字子陽號白雲樓足守侯文學享和三亥年二月廿三日歿す

岡田盤齋 磯波翁 名正利通稱左近跡部光海門人神道學者なり近江の人江戸下谷に住す延享元子年六月十五日歿す歳七十八淺草新寺町行安寺に葬る

岡田平次郎 樗軒 本姓立野氏通稱伊勢屋平次郎號老樗軒又讀老庵墓所一覽の編者

岡田米仲 號八樂菴明和三戌年六月十五日歿す深川六間堀惠然寺に葬る

岡田米山人 名國字士彦稱彦兵衛浪花の人文政元寅年八月九日歿す歳七十五

岡田寒泉 泰齋 通稱清助字子強村士玉水門人文化十四丑年八月九日歿す歳七十一

岡田閑林 通稱石輔號梯陸嘉永二酉年十一月七日歿す歳七十

緒方蘭阜 名修字叔明東奥桑折人伊達信夫二郡の地に於て該社の學を唱ふるは此人に始る寶曆十辰年正月廿七日歿す歳四十四

緒方光琳 方祝 尾形主馬の男名惟富號長江軒稱市之五十六京都妙顯寺地内日蓮宗本行院に葬る(光琳は父尾形宗謙に從て畫を學び既にして山本素程の門に遊び其技大に進む後安信如慶等の筆意を參酌し遂に一家の法を開き號して青々齋と云ふ姓の字樣を改めて緒方と書す京都市中に住し廬舖を開き詩繪を以て業となし雁金屋と稱す晩年専ら繪畫に従事せり父は本阿彌光悅及兒島宗眞門なり)

尾形乾山 通稱新三郎號深省又紫翠散人又習靜堂光琳兄寛保三亥年六月二日歿す歳八十一坂本善養寺に葬る

緒方洪菴 名章文久三亥年六月十日歿す歳五十四近世蘭醫學大家

岡田宜純 享保六丑年九月八日歿す小石川傳通院中常樂院に葬る

岡田宜汎 字彦愛宜純の子なり寛延三年十一月十七日歿す小石川傳通院中常樂院に葬る

岡田新川 名宜生稱彦左衛門尾州の人號甘谷一號朝陽寛政十一未年三月廿四日歿す歳六十三

岡田彦助 南嶽 號煌亭下總の人字秀三天保九戌年四月十日歿す歳四十七

岡松良安 元文元辰年十二月九日歿す歳七十二洛鳥部山に葬る

岡村不卜 一柳軒 石田未得門人稱一郎右衛門元祿四未年四月九日歿す歳六十餘本所報恩寺に葬る

岡井碧菴 東阜 名泰字定叟林鳳岡門人元祿十一年寅七月廿五日歿す歳七十三高輪東禪寺に葬る

岡井郡太夫 嵯洲

名孝先字仲錫黃陵の弟高松侯儒官徂徠門人明和二年九月七日歿す高輪東禪寺に葬る

岡井孝祖 黃陵

通稱彦太郎字伯錫東臯長子享保三年四月廿三日歿す歳五十三高輪東禪寺に葬す

岡井郡太夫 赤城

名鼎字伯和嵯洲子享和三亥年三月廿二日歿す高輪東禪寺に葬る

岡 林竹

名義道字勃海號即翁稱三右衛門元文辰年六月廿四日歿す歳六十六淺草宗安寺に葬る

岡安喜三郎

始め松永仙四郎長唄の名人文政四巳年四月八日歿す歳六十二

岡安喜美太夫

始め富士松登喜太夫元治元年三月廿六日歿す歳六十八

小笠原一甫

名長和稱理左衛門明和七年十一月廿六日歿す牛込大信寺に葬る

小笠原 仲冠山

原冠山を見よ

小笠原祇尹 槿花坊

名長堅一號此花仙寛政十二申年四月五日歿す半込原町大信寺に葬る

岡 三鳥 丹前舍

通稱岡芳右衛門名長盈字哲甫近藤金之丞臣文政十一年歿す戯作者始め馬琴を師とし後三馬に従ふ

岡崎彭齋

名信好字師古稱平太郎龍草廬門人京師の人天明七年三月廿六日歿す歳五十七鳥部山に葬る

岡崎屋勘六 勘亭

中村座手代戲場看板等の書法を改めて今の如くせし始は此人なり文化二五年二月三日歿す歳六十一淺草田原町清光寺に葬る

小島 果

肥前大村の人工學士にして史學に涉り日本食志日本災異志の著あり明治廿五年十月三十日歿す青山墓地に葬る

岡島冠山

名璞字玉成一字明敬稱彌太夫長崎の人享保十三年正月二日歿す年五十五洛東清光寺に葬る (冠山通稱彌太夫後に援之改む林鳳岡門人長崎の人壯年の時譯官を以て長州侯に仕ふ後致仕して京師に講説し華音に精なるを以て聞ゆ晩年に至て稗官の學を以て徒に授く我邦に於て水滸傳兩漢演義等の院本を讀むものは冠山より始る江戸に在ては徂徠に寄寓す)

岡 秀竹

名義篤稱權平林竹男元文三年四月廿七日歿す歳三十九淺草寺町宗安寺に葬る

岡本半助 宣就

初名正武號喜菴又無明道人彦根侯國老茶道和歌書を善くす明曆三酉年三月十一日歿す歳八十三

岡本豊彦 司馬

字寧彦號鯉喬畫家松村吳春門人弘化二巳年七月十一日歿す歳六十八

岡本保孝

甲斐守正四位下に叙す加茂祠官和歌を嗜み殊に能筆の名高し文政元寅年四月十九日卒す歳六十八

岡本保孝 况齋

通稱勘右衛門又縫殿助博學高識しかも隱君子なり著書算にたへす皆隠れて世にあらはれず惜むべし明治十一年四月五日歿す歳八十二淺草松山町東國寺に葬る法名榮壽院殿德温賢良

岡本啓迪院 玄治

法印正保四亥年四月廿日卒す歳六十餘麻布廣尾祥雲寺に葬る

岡本玄珠

玄治男法眼に叙す貞享元年九月十二日歿す歳五十九廣尾祥雲寺に葬る

岡本文彌 文壽軒

山本土佐撥門人一流を語り出し文彌節と云ふ今諸流に此節付を用ふ元祿七戌年正月十一日歿す歳六十二大阪下寺町稱念寺に葬る法號清譽淨鑑信士

岡本胡保

保考の子正四位下甲斐守に叙任す書博士と號す天保七申年七月廿四日歿す歳六十三

岡本三右衛門

南蠻シ、リヤ人伴天連なり貞享二丑年七月廿五日歿す歳八十四小石川戸崎町無量院に葬る (岡本三右衛門は南蠻シ、リヤの中パレルモと云所の者にて伴天連なりシヨセイフ、カウコといひ寛永廿年未五月黒田右衛門佐の領分筑州ヤキヲ島に漂着せり故に領主より一應尋問したるに切支丹宗を弘めんと日本へ渡航したりと答へしが直に長崎奉行山崎權八郎へ送り渡され同年七月十三日江戸へ着し宗門奉行井上筑後守預りて傳馬町の獄屋に入れ夫より筑後守宅へ移して糾問し段々説法ありければ改心して日本の宗門に歸依し是迄耶蘇宗の諸人を傳導する控杯逐一白狀に及びしかは上にも神妙に被思召岡本三右衛門と名を下され耶蘇教穿鑿の手引者として山屋敷に置かれ年々銀子壹貫目と月俸十口を賜はりたり抑も岡本三右衛門と云ふ名前は其頃御徒の士に岡本三右衛門と云ふ者ありしに罪ありて刑せられしを以て上意にて此姓名と刀脇差等迄賜はり召仕の男女等付せられ又豆州三崎西町の某刑せられしを以て其妻を三右衛門に下さる其後貞享二年丑七月初旬發病し牢獄醫石尾道歸藥石を興へしも其功なく同月廿五日申の下刻行年八十四歳にて死去せり同人は山屋敷に在る事四十三小石川戸崎町淨土宗無量院の所化玄秀と云者來りて屍を昇去り

茶昆して寺に葬れり其妻も元祿八年七十四歳にて歿せり此他南甫(入満人)壽庵(支那廣東)二官(安南)三人の墓も無量院にあるよしなれど所在定がならず

岡本秋暉 秋翁

通稱祐之丞小田原藩士廣間番たり歟形憲齋の門人にて花鳥を畫くに妙を得たり文久二戌年九月四日歿す歳七十八青山教覺院に葬る

岡本氏足

初名氏祥後氏足に改む加茂祠官正四位下近江守書博士に任す天保十一年四月八日歿す歳五十一

岡本晋翁

通稱慎助號秋青堂天保十亥年四月廿三日歿す歳六十三

岡本子晋 東郭

名元貴佐竹侯の臣儒官を兼天明七未年十一月十二日歿す歳六十三秋田城西天徳禪寺に葬る

岡本省亭 花亭

名成字子省號豐州老人近江守詩歌を能くす嘉永三戌年八月廿七日歿す歳八十三四谷寺町安樂寺に葬る

男谷燕齋

通稱精一耶名思孝字君則天保十一年六月十八日歿す歳六十四

岡 清兵衛 重俊

江戸和泉太夫の淨瑠璃金平本の作者京操の作もあり貞亨四卯年七月歿す

小田海僊 海仙菴

名胤字巨海百谷と號す稱良平長門の人平安に出吳月溪に學び後一家を成し文久二戌年閏八月廿四日歿す歳七十八

小田穀山

文化元子年六月六日歿す歳六十五

小田村伊助 廓山

名望之字公望山縣周南門人長州侯に仕ふ周防三田尻の人明和三年八月廿二日歿す歳六十四

小田切圖南

名翼字萬里稱東次郎天保十二辛丑年五月歿す

小田切土佐守 直年

從五位下寛政四年正月十八日北町奉行文化七年十二月廿六日加増五百石元高三千石勤役廿々年文化八未年四月廿二日卒す年六十九

小野隆菴 飛鳥

名常建號飛鳥山人太田南畝門人狂歌師寛政五丑年八月晦日歿す歳八十一

小野重賢 帖園

又の號樓帖園京の人天保五年正月十四日歿す歳五十九

小野蘭山

名職博字以文號朽瓠軒京の人通稱喜内文化七年正月廿七日歿す歳八十二淺草誓願寺に葬る此の人物産の學を以て江戸に聞え寛政十年九月七十歳にて京より江戸に召され翌十一年七月廿八日御納戸格にて初て御目見被仰付三十人扶持被下之

小野お通

元和二辰年三月五日歿す歳五十八

小野梓 東洋

共存同衆創起者翻譯著述多し明治十年一月十一日歿す歳三十五谷中天王寺に葬る

小栗宗丹 自溪

足利家の臣周文の門に入り後一家を成す墨畫に妙なり相國寺に寓す寛正五申年正月九日歿す歳六十七

小栗百萬 伽羅菴

稱次右衛門安永七戌年六月十六日歿す歳五十四西本願寺中覺性寺に葬る

小山田與清 松屋

名與清字文儒號知非齋弘化四未年三月廿五日歿す歳六十五深川靈巖寺に葬る(與清は武藏國小山田の郷士田中本孝の次男なり天明三年三月生る幼名寅吉後寅之助又仁右衛門と改む享和三年九月見沼通船方高田氏養子となり庄次郎與清と云後字を正に改む後茂右衛門又六郎右衛門號を玉河亭又樂山堂後に松屋と改む別號報恩舎と云亦

報國恩舎とも云ふ書を集めて擁書會と名付く漢學の師は古屋昔陽和學の師は村田春海なり

小倉鹿門

名實廉字廉平尙齋子長州侯の侍讀と成る安永五申年十月二十日歿す歳七十四

小倉政義 三省

名克江州の人土佐侯に仕ふ谷時中門人南學の祖とす承應三年七月十五日歿す歳五十一

小倉尙齋

名貞字實操長州侯儒官元文二巳年十一月三十日歿す歳六十一萩府泉和寺に葬る

小山元純

弘化二巳年正月二十四日歿す歳三十四淺草報恩寺地中專念寺に葬る

小澤蘆菴

通稱帶刀名玄仲號觀荷堂冷泉爲村癩門人歌學に秀づ元龜山侯の臣享和元酉年七月十一日歿す歳七十九北白川心性寺に葬る

小澤卜尺

通稱太郎兵衛號孤吟又吟叟寶曆元未年九月三十日歿す淺草誓願寺に葬る

小澤得入

本船町坊正通稱利右衛門號詞文寶永六巳年十二月二十四日歿す歳九十四淺草誓願寺に葬る

小澤蘭江

名政敏字叔道稱多門天明七未年八月十三日歿す駒込浩妙寺に葬る

尾崎伴右衛門 敬孝

名廣安東都の人書を以て業す。天明六年五月二十五日歿す。歳五十七。増上寺地中常照院に葬る。

尾崎雅嘉 春陽軒

通稱春藏。字有魚。號春の屋。別號羅月。國學を善くす。文政十亥年十月三日歿す。歳七十三。浪花繩口春陽軒に葬る。

荻原近江守 重秀

初名彦次郎。祿三千七百石。元祿三年一月二十一日被召出。後御勘定頭。正徳二年九月十一日免職。正徳三巳年十月二十五日卒す。歳五十六。谷中長明寺に葬る。

荻野八百吉 梅鳩

名長字元亮。號蛇山。病夫。本姓小野氏。天保十四卯年五月十九日歿す。歳六十三。本所中の郷成就寺に葬る。

荻野喜内 鳩谷

名信敏。號天愚。字孔平。一號草鞋大王。又萬石君。文化十四丑年四月朔日歿す。歳百十。下谷泰宗寺に葬る。雲州の世臣幼年の時、徂徠の門に入。後遂に儒臣と成。喜内家世々藩の番師たり。秩三百石を食む。此人博物宏覽を事とし、種々の奇行あり。衆技に旁通し、殊更に醫術を能くし、衛生の説を唱ふ。江戸にて品題の書を著し、神社佛閣に小札をはりて、千社詣でなど稱する。こゝ此人より始る。是天明の末頃と云ふ。又繼竿に刷毛を付て、數丈のたかきに用ふる。こゝも此人の工夫なり。

古の學を唱へて一時を風靡す。文章は李王の修辭を宗とし、英才多く其門に輻湊して其學風を補翼す。然れども好奇の僻有て後世誹譏する者多し。

荻生青山 義俊

字彦卿。通稱是三郎。後惣七郎と更む。北溪の子評定。儒官と成る。享和元年西五月十七日歿す。同寺に葬る。

沖 冠岳

明治九年七月廿五日歿す。

鴛田青峨 六盤仙

水間沾徳門人。東都茅場町に住す。享保十五戌年十月十三日歿す。

沖 淵泉 一峨

字子仰。號靖齋。後靜齋。鳥取藩士。安政二卯年八月十一日歿す。麻布六本木光專寺に葬る。

追手風喜太郎

角力年寄。慶應元丑年閏五月四日歿す。駒込海藏寺に葬る。法號鐵翁。玄心。

小關三英 篤齋

名好義。初名貞吉。出羽庄内に生る。後岸和田藩の醫員と成り。三英と改む。天保十亥年五月廿三日自殺。歳五十三。

荻生方菴

名敬之。字景明。徂徠の父醫を業とす。本姓物部氏。寶永三戌年十一月九日歿す。歳六十七。三田長松寺に葬る。

荻生北溪 物觀

名觀。字叔達。號玄覽。道人。惣七郎と稱す。徂徠の弟にして幕府に奉仕す。寶曆四戌年正月廿日歿す。歳八十二。三田長松寺に葬る。

荻生鳳鳴 順卿

名天祐。字順卿。惣右衛門と稱す。金谷の男先職を襲ふ。此時迄徂徠隱宅牛込赤城に住せしか。市谷大番町に移る。文化四年十二月十六日歿す。同寺に葬る。

荻生道濟 金谷

號金谷老人。稱平三郎。後右衛門と更む。徂徠兄伯達か男にて徂徠の嗣と成る。郡山侯に仕ふ。後物頭に進む。著書頗る多し。安永五申年七月廿九日歿す。歳七十四。三田長松寺に葬る。

荻生徂徠 茂卿

本姓物部氏。名雙松。通稱惣右衛門。號讓園。享保十二未年正月十九日歿す。歳六十三。三田長松寺に葬る。(父を方菴と云。憲廟の侍醫なり。徂徠は寛文六年二月廿六日江戸番町に生る。五才にして能く字を識り。延寶七年三月父方菴事に座して南總に竄せらる。徂徠從ひて移る。然れども僻地に在りて苦學し。元祿三年御赦にて江戸に歸る。遂に大儒となり。柳澤侯に聘せられ。祿五百石を賜り。編修惣裁となり。大城にも屢々召されしなり。我邦慶元以來の儒風爰に於て一變し復

附 札

大石千秋 梅嶺

通稱清藏。字子順。和歌を能す。明治元年十二月十九日歿す。歳五十八。伊豆非山本立寺に葬る。

大石千引 星廬

名貞見。稱傳右衛門。鳥山侯の臣。千陸門人。今樣歌琴歌の作多し。天保五年九月十三日歿す。歳六十五。芝西應寺町法泉寺に葬る。千引は龜井戸の湯屋の主也。

大石眞虎 靱屋

尾州名古屋の人。幼名小泉門吉。後大石門太。又衛門七と改む。天保四巳年四月十四日歿す。歳四十二。名古屋大須眞福寺に葬る。

大塲寥和

咫尺齋。萬里亭。寶曆八寅年正月廿五日歿す。歳八十三。

大塲景明 南湖

稱大次郎。曆數の學に精し。天明五巳年五月廿三日歿す。歳五十。余駒込浩妙寺に葬る。

大畑春國

野々口隆正門人。明治八年十二月十七日歿す。歳五十八。

大橋宗桂

寛永十一戌年三月九日歿す。歳八十。二本榎常教寺に葬る。(將基の名人なり)

大橋宗桂 (二世)

万治三千年九月廿五日歿す歳四十八、二本榎常教寺に葬る(初名宗古後父名をつぐ)

大橋重保 龍溪

甲斐の人式部卿天保二酉年二月四日歿す歳六十四相州鶴沼邑空乗寺に葬る

大橋重政

龍溪男幕府書吏(所謂御右筆と稱す)稱長左衛門寛文二十二年閏六月晦日歿す歳五十五相州鶴沼村空乗寺に葬る(大橋長左衛門は松花堂の門人にて文字の形を其まゝに用ひて自然に自己の形になし得たり)

大橋重雅

通稱大橋長平岩城平侯に仕ふ文化十酉年八月八日歿す歳五十四淺草西福寺地中存心院に葬る

大橋長廣 柿園

通稱九右衛門宣長門人嘉永四亥年三月五日歿す歳六十四

大橋順藏 訥庵

名順字周道文久二成年七月十二日歿す歳四十八石碑は谷中天王寺に建つ

大西椿年 楚南

通稱行之助字大壽號運霞堂嘉永四戌年十一月六日歿す歳六十餘淺草寺地中金剛院に葬る法號楚南堂椿年居士

太田南畝 蜀山人

名覃字子紹通稱直次郎後七右衛門號杏花園又巴人亭遠櫻山人竹羅山人南極老人始め狂歌の號を四方赤良といふ文政六未年四月六日歿す行年七十五小石川白山本念寺に葬る(南畝は寛延二巳年三月三日生れ牛込甘崎町後小日向金剛寺下又駿河臺太田姫稻荷の向へ移り住す初め賀邸先生に學び後觀海先生に從學す明和十年御徒組へ出勤寛政六年聖堂學舎へ出同八年支配勘定に轉じ同十一年大坂銅座へ出役同十二年竹橋御書物調文化元年長崎出役同五年房總出役同七年職を辭す)法號杏華園心逸日休辭世「時鳥鳴つるかた身初松魚春と夏との入相のかれ」

太田才佐 錦城

名元貞字公幹號多稼老人春草翁柳橋釣叟矢倉潛夫等の號あり文政八酉年四月廿三日歿す歳六十一谷中一乗寺に葬る(錦城は加賀の人其父樫田氏を冒せるを以て本氏に復す若年の時京師に赴き伊藤東所皆川淇園に學び後年江都に至りて山本北山の弟子と成り塾に寓す幾もなく議論の異なるを以て辭し去る此時同塾は山中天水大島贊川林藤坡等なり此四子後自ら一家をなす才佐始は吉田侯に聘せられ五十人糧を受く晩年に本國より吉田侯に請て儒員とす秩祿三百石を賜る)

大伴大江丸

號舊國浪花の人蓼太門人文化六巳年三月十八日歿す

お茶の局

飯田筑後守の女寛永十四丑年正月廿二日歿す歳八十三

大沼枕山 熙々堂

通稱捨吉名益友字直公詩人、元御書院番與力明治廿四年十月一日歿す歳七十四谷中瑞輪寺に葬る

大沼竹溪

文政十亥年十二月廿四日歿す年六十四三田藥王寺に葬る

大岡越前守 忠相

初名忠右衛門後能登守又越前守寶曆元未年十二月十九日卒す歳七十五三田聖坂功運寺に葬る

大淀三千風 吞空

號無不非軒寓言堂三十にして佛門に入り東往居士鳴立澤西行庵を再建し寶永六年四月四日行脚に立出て首途の遺言に曰く此日定命期なりと遂に其行くへを知らず

太田澄元 太洲

字子通號崇廣堂書并墨竹畫に巧み本草學に通す寛政七卯年十月十二日歿す歳七十五本所押上大法寺に葬る

太田持資 道灌

備中守資清男幼名鶴千代丸源六郎右衛門大夫備中守後從五位號伯舟亭又靜勝軒文明十八年七月廿六日上杉定政の爲に害せらる年五十五

大谷永庵

京の人歌書とも能くす名業廣法印に叙せらる安永九千年七月十一日歿す歳八十二洛東定信院に葬る

大館高門

本居宣長門人天保十亥年十二月三日歿す歳七十四

大高坂清助 芝山

名季明號一峰居士谷時中門人士佐の人正徳三巳年五月二日歿す歳五十四澁谷長谷寺に葬る

大竹麻谷

名之濫字之瀉大内閣室門人通稱榮藏寛政十年正月廿七日歿す歳七十二

大竹斧八 蔣塘

名培字達夫號心靜堂安政五午年三月十六日歿す歳五十八

大植宗木

寛永七午年九月十八日歿す歳六十四

大塚同菴

稱八郎後峰郎と改め又同菴を名とす西洋砲術家を以て聞こゆ安政二卯年五月晦日歿す歳六十一

大塚嘉樹 蒼梧

字子敏通稱市郎右衛門有職故實を以て稱せらる享和三亥年六月廿九日歿す歳七十三本覺寺に葬る

大塚孝威

字子儀字善助子祐弟清水家に仕ふ享和二戌年六月十二日歿す年八十服部坂道榮寺に葬る

大塚子祐 名孝緯稱大助物北溪門人田安世臣寛政四子
年七月十八日歿す歳七十四服部坂道榮寺に
葬る子祐の碑文樂翁公の作にて學術を此人に受し由を
云へり

大槻磐水 玄澤

名茂實字子煥陸奥の人一關藩醫文
政十亥年三月晦日歿す歳七十一高
輪東禪寺に葬る(玄澤初め同藩建部清菴に就きて阿蘭
陀の外科術を學び安永七年三月江戸に來り杉田元伯の
門に入る此時年廿二天明三年九月蘭學階梯成る同六年
五月仙臺本藩の醫員と成り文化八年五月幕府翻譯局に
出仕す十一月將軍に謁し白銀二十枚を賜る官祿は三百
石なり文政五年幕府より月俸五口を賜りぬ)

大槻盤里 玄幹

名茂禎字子節號不錦書屋磐水の子
天保八酉年十二月十三日歿す歳五
十三高輪東禪寺に葬る(玄幹は磐水長男享和元年長崎
に遊學し中野柳園に從び和蘭の語格句法を受く三ヶ年
にして江戸に歸り文化九年蕃書和解の命を蒙り父と共
に天文臺に奉仕せり是より先文化三年堀田正敦に隨ひ
暇夷地に巡行す同十三年多年講究の力を以て蘭學階梯
の缺を補ふ是を和文蘭法書の始とす)

大槻磐溪 清崇

通稱平治字子廣號鴻漸老人又愛古
樓磐里弟明治十一年六月十三日歿
す歳七十八高輪東禪寺に葬る

大久保一岳

通稱秀太郎名好述安政六未年十一月十
日歿す歳五十四芝天徳寺地中寶陽院に
葬る

大久保一翁 石泉

名忠寛徳川家臣祿五百石幼名三
布郎後志摩守右近將監又伊勢守
越中守明治十七年七月子爵を賜ふ明治二十一年七月三
十一日卒す歳七十二青山墓地に葬る

大久保今助

常州茨城郡龜作村農明和七年江戸に出
づ天保五年二月四日歿す歳七十八本
願寺地中に葬る

大久保恪堂

號花牆連々畫家明治二十二年十一月十
六日歿す歳五十五谷中玉林寺に葬る

大久保甲東

名利通贈右大臣明治十一年五月十一日
薨す年四十七

大久保長之助 鷺山

名教知字學海高田藩の儒員嘉
永四年八月歿す歳五十五

大久保業

一翁の息鐵道技手たり明治廿三年七月七日
岩手縣下松川の架橋檢分の際乗船覆りて溺
死

大窮詩佛 天民

通稱柳太郎號詩聖堂又瘦梅天保八
酉年二月十一日歿す歳七十一淺草
新寺町光感寺に葬る(天民は常陸の人江戸に出て、下

大槻清準 嘉永三戌年正月十七日歿す歳七十八

大槻俊齋 久文二戌年四月九日歿す五十七

大内熊耳

名承裕字子緯稱忠太夫奥州三春の人唐津侯
に仕ふ徂徠門人安永五申年四月廿八日歿す
歳八十下谷廣徳寺に葬る(熊耳先は百濟國明帝太子餘
琳聖子より出たり故に餘を以て姓とす)

大野權之丞 忍軒

幕府小十人青標紙殿居袋を著述
して罪を得丹波綾部邸に幽閉中
天保十二丑年九月十一日歿せり

大野鏡州

天保十三寅年正月十二日歿す歳六十一

大野松齋

出羽秋田の人初京の新宮の門に入後坪井信
道の門人と成り又長崎に行きモンニツキ氏
種痘術を學び其後種痘積善社長たり明治廿一年七月十
七日歿す歳七十谷中天王寺に葬る

大野秀和 炭瓢齋

一號集和又相水翁江戸の人正徳
四年八月十三日歿す歳六十四

大國隆正 佐紀之屋

野々口隆正とも稱す初號天柱
山人石見津和野の士和歌國學
をよくす明治四年八月十七日歿す歳八十麻布市兵衛町
長泉寺に葬る(野々口参照)

谷練堀小路に住し薙髮して天民と稱す詩人にて洒落な
る此人の上なし近時墨跡を賞する人多し殊に墨竹に長
して其風韻高きこそ世の畫家の及ぶ處に非ず男大窪兼
助名謙字自牧號有山と云秋田侯に仕へて教授なりき明
治十八年詩佛の亡骸相州藤澤驛東坂戸町三百拾五番地
大窪甲子郎方へ改葬)

大久保彦左衛門

名忠教寛永十六卯年二月廿九日歿
す白銀立行寺に葬る

大倉穀 笠山

號義邦中林洞門人笠置の人嘉永三戌年
正月二日歿す歳六十六

大藏謙齋 龍河

名讓字仲謙號桐陰弘化元辰年七月
朔日歿す歳八十八

大熊宇田右衛門 民中

享保六丑年六月廿二日歿
す歳五十本所番場妙源寺
に葬る

大串平五郎 雪蘭

名元善字子平元祿九子年十二月
十二日歿す歳三十九谷中養泉寺
に葬る

大屋裏住 萩の屋

通稱大須美孫右衛門文化七午年
五月十一日歿す歳七十七深川法
禪寺中南龍院に葬る狂歌師たり(裏住は坂本町二丁目
更紗屋孫右衛門と云後金吹町中井新右衛門の家守と成
る故に狂名大屋裏住と號す寛政元年中納言定家卿御遠

忌の節追福の爲會集の折の狂歌「鶯も蛙も同じ歌仲間
経讀むもあり唯泣くもあり」の一首堂上に聞え悉くも
萩の屋の號を賜る寛政二年八月六十一才の時新よし原
大文字屋の樓にて酒宴の上遊女禿藝者等七十余人に一
割つゝそらせて落髮したる奇人なり

大矢白鶴 蘆隱軒

初名虎竹老後薙髮して高辻清香
菴に住し號を自茅齋と稱す延享
三寅年九月廿七日歿す歳七十九

大藪錢塘

名良興稱久右衛門明和四年七月廿二日歿
す歳六十四淺草實相寺に葬る

大町敦素

名質字正淳京師の人仁齋門人享保十四酉年
十一月十日歿す歳七十一京東眞如堂に葬る

大江蘭田 東陽

名維翰字伯祺一字文學通稱久川玄
藩京の人天明八申年五月八日歿す
歳三十四久保天徳寺地中不斷院に葬る

大江廣海

村田春海門人國學をよくす天保五年六月
廿三日歿す歳六十六京東鳥部野に葬る

大江成美

稱伊豫守從四位上號君山大炊家の門天保二
卯年九月廿四日歿す歳八十六

大郷浩齋

名博須信齋死後の嗣子安政二卯年七月六日
歿す伊皿子長應寺地中正壽院に葬る浩齋子
名穆明治十四年六月五日歿す歳五十二

大郷信齋 學究

名良則字伯儀稱金藏林門儒道學を
以て鳴る弘化元辰年十月十四日歿
す芝伊皿子長應寺塔中正壽院に葬る法號信良院恭謙日
達居士

大崎則房 雉屋

通稱傳四郎万延元申年四月十日歿
す歳六十

大鹽平八郎 後素

大坂町奉行組與力字子起天保八
酉年三月廿七日自害の上焼死す
歳四十二

大鹽齋渚

名良字子顯通稱與右衛門春臺門人天明五巳
年七月十日歿す歳六十九淺草幡隨院中智白
院に歿る(下谷池の端に住し炭薪を賣買し富巨萬を
なす春臺の著述半は此人の校刊に成る 晩年小梅村に
移る)

大島贊川

名維直字無害越中の人加州侯の儒員天保九
戌年閏四月廿九日歿す歳七十七加州石川郡
大乘寺に葬る

大島芙蓉 印聖

名孟彪甲州高梨の人自稱して高を
氏とす初平安に住し後江戸に來る
天明四辰年四月廿四日歿す歳六十三篆刻鐵筆尤巧也小
石川無量院に葬る

大州屋吉右衛門 修業堂

藝州の産城下西町に私
立の學校を建て貧民の

奥田總四郎 蘭汀

名士亨字喜甫號三角老人東涯の
門人伊賀侯に仕ふ天明三卯年五
月四日歿す歳八十一

奥田尙齋 李仙樓

名元繼播州の人那波魯堂の弟
文化四卯年八月十三日歿す歳七
十九

奥貫正助 友山

名正彌字伯雅相州久下戸村土豪な
り錦江に學て郷里に教授す天明七
年三月歿す歳八十

奥村宗榮

名則政字子得號牡軒寶曆三酉年九月十日歿
す歳五十七河東見性寺に葬る

奥村政信

通稱本屋源六通油町に住す號芳月堂又丹鳥
齋觀妙浮世繪師明和五年二月十一日歿す
歳七十九(美成の名譽往來には明和元申年七十九歳と
有り)

奥山右膳 藤共進

字子樹華嶽と號す又嘯月樓彦根
の世臣東臯門人詩を能す寛政元
年酉九月歿す歳六十二

隱岐米史 四時堂

初名如牛後阜澄と改め又米史と
更む延享四卯年十二月廿七日歿
す歳四十四

輩を教授す寛政五丑年八月十六日歿す歳六十三田中興
禪寺に葬る(廣島侯の用途町人にて號南濱といふ)

大森甘古齋 杖信

大森漸齋男寶曆六年十一月廿
九日歿す歳五十八

大森宗勳

平安の人尺八の名人寛永三寅年四月十日歿
す歳五十六

大森漸齋

石川丈山門人名秀祐稱安右衛門平安の人寶
永二酉年三月三十日歿す歳八十二

大菅中叟

安永七戌年正月四日歿す歳六十九

大菅蘭澤

文化十一戌年十一月十五日歿す歳六十一

乙二坊

號松窓奥州白石片岡侯祈願所の修驗者にて俳
諧をよくす文政六未年七月九日歿す

落合直澄 楨舎

國學に精し明治廿四年一月六日歿
す雜司谷墓地に葬る

織田道八

織田有樂齋六男元和六申年九月卒す歳三十
九建仁寺中正傳院に葬る

織田有樂齋

信長公弟茶人元和七酉年十二月十三日
卒す歳七十五右同寺に葬る

恩田啓吾 鶴城

名延頌字大雅享和四子年二月十六
日歿す歳六十六駒込龍光寺に葬る

生沼喜内 蘭臺 名は頼字は子行江戸の人秋澹園門人喜連川侯の儒官寶曆十辰年十月十六日歿す歳四十八牛込松原寺に葬る

わの部

和智九郎右衛門 東郊 名君實字士華長州の世臣山縣周南の門人關西の第壹等と稱す明和二年六月廿三日歿す歳六十三

若林寛齋 又號強齋淺見綱齋門人享保八卯年五月三日歿す歳四十五

和田宗淳 名長鈍號襲明文化四卯年四月廿九日歿す白銀正源寺に葬る

渡邊東河 名彭通稱文平北越の人東阜の門人にて書を能くす文化十二年六月廿五日歿す歳五十二淺草北寺町祝言寺に葬る

渡邊幸庵 通稱清左右門正徳元卯年七月廿四日歿す歳百三十

渡邊存泰 弘堂 平安の人並河天民の門人通稱新藏寶曆十辰年十一月九日歿す歳七十七洛蓮臺寺に葬る

渡邊小華 渡邊華山二男俗稱舜治名諧字韶卿明治廿年十二月廿九日歿す歳五十三谷中天王寺墓地に葬る

渡邊赤水 通稱忠藏字伯顯支對男天保四己年十月廿九日歿す歳五十八廣尾光林寺に歿る

度會園女 智鏡 岡西惟中妻伊勢山田に生る後冠里侯の北堂に仕ふ俳諧をよくし書に巧みなり享保十一年四月廿日歿す歳七十四深川靈岸寺地中念佛堂に葬る辭世「曙の空はうつ、か阿彌陀佛」

(墨水消夏録に云正徳の頃園女三十本の櫻を深川八幡境内に植之を歌仙櫻と云又園女句集跋に伊勢渡會斯波一有の妻中頃難波に住て芭蕉の風にすがり俳諧に名高く今深川の園女醫は夫の術を傳へ筆はもろこしをひれる云々後佛に入り智鏡といひ頭をまるめまん中を十筋ばかり剃のこせしけ唯一の昔を思はれたるなるべし云々)

度會造酒 鶴溪 名未茂伊勢山田嗣官仁齋門人享保十八丑年七月十九日歿す歳五十九

王寧 宇 五雲 長壽院と稱す別號柴竹居もと清朝人なり寶永四亥年十一月廿八日歿す歳四十四三田小山大乘寺に葬る

和氣行藏 尙古 字古道號柳齋又尙古老人嘉永六寅年四月廿六日歿す歳七十七深川寺

渡邊如山 定固 通稱五郎天保八酉年七月十二日歿す歳二十一

渡邊 覺 通稱伊右衛門本姓戸田氏茂睡の男和歌をたしむ雜書に渉る天明二戌年十一月三十日歿す歳四十淺草金龍寺に葬る

渡邊湊水 鋤雲軒 名從號隨菴稱甚藏支對の父畫を能す明和四亥年八月三日歿す歳四十八廣尾光林寺に葬る

渡邊南岳 圓山應舉門人平安の人字維石文化十四年正月廿四日歿す歳四十七

渡邊 登 華山 名定靜字子安號全樂堂天保十二年十月十一日自殺歳四十九三州田原城南城寶寺に葬る

渡邊玄對 松臺 名瑛通稱又藏湊水の男後薙髮して内田玄對と改む文晁門人文政五年歲四日四日歿す歳七十七廣尾光林寺に葬る

渡邊壽菴 千歲逕 名正淳延享四卯年十二月廿日歿す歳五十四牛込横寺町正定院に葬る

渡邊始興 通稱求馬平安の人尾形光琳門人寶曆五亥年七月廿九日歿す歳五十三

町増林寺に葬る

脇田赤峯 名順通稱郷右衛門書を能くす文化五辰年十二月十九日歿す麻布今井町圓林寺に葬る

脇坂丸々 汐留亭 名安董天保十二年二月七日歿す歳六十余青山青源寺に葬る

鷺津宣光 毅堂 通稱戈助字重光一號泉橋外史明治十五年十月五日歿す歳五十八谷中天王寺に葬る

かの部

何 文國 佐々木文山門人書を業とす明和五子年四月九日歿す歳六十七三田臺町藥王寺に葬る

街 萬里 名風號大塊山人稱貞藏武州の人本姓辻氏寛政六寅年六月十日歿す歳四十八淺草黒舟町正覺寺に葬る

海保漁邨 名元備字順輝一字郷元通稱章之助上總武射郡北清水村の人業を太田錦城に受け後別に

一格を構ふ慶應二年九月十八日歿す歳六十九本所石原普賢寺に葬る

垣内東阜 全菴 名仲凱字希八紀伊の人仁齋門人奥平侯に仕ふ享保十七子年十一月二日歿す歳五十三

川西成藏 文淵

棚倉の文學明和九辰年六月十五日歿す白山妙清寺に葬る

河邊白鶴

川邊御橋の男若年にして繪事に巧なりしか
明治廿五年二月三日廿四歳にて天死

河邊清意

明治二巳年五月廿八日歿す歳六十八淺草本
然寺に葬る

川路左衛門尉 聖謨

明治元辰年三月十五日將軍の大政奉還に憤る所有て拳銃を以て自殺す年七十二辭世「雪に折る、松さなるも武士のこのてかしばのふたおもてすな」池の端七軒町大正寺に葬る（川路聖謨は富士見御寶藏番内藤吉兵衛長子故有て御徒組川路氏を嗣ぐ初め彌吉と稱し後三右衛門と改む文化九年十六歳の時始めて支配勘定留役助々に出勤夫より寺社奉行調役後御勘定組頭の時二百俵と成又同吟味役となり小普請奉行に進み左衛門尉と稱す奈良奉行に轉し大坂町奉行となり五百石を給ふ其後御勘定奉行後西丸御留守居となり隠居す）

川勝雲堂

號吹松菴享保十五戌年五月七日歿す歳七十

川上越白

安政四巳年九月晦日上州植田にて歿す歳六十九江戸谷中安立寺に葬る

川上冬崖

西洋法畫家明治十四年五月三日歿す

京へ歸る碑銘京傳に作りしむ文は略す定廻か著作の睡語小録出版後に語を餘と改む價十匁宛の由此書なかば我らも著作せしものなりと云々

河鍋洞郁 曉齋

俗稱周三郎土井侯藩士號狂齋曉齋と改む初め井草國芳の門に入り後前村洞和に従へり長じて狩野洞白の門弟と成る明治廿二年四月廿六日歿す歳五十九谷中瑞林寺地中正行院に葬る

河原遜齋

通稱熊五郎紀州の人文政八酉年十二月廿七日歿す歳四十五

河原子昌 中臺

名保壽東都麴町に住す天明三卯年九月十一日歿す歳七十麻布善福寺に葬る

河原井保壽 鵲巢

通稱大坂茂兵衛牛込に住す藥店なり字子昌號中臺書を烏石に學び後一家をなす亦漢畫を善くす天明三卯年九月十一日歿す年七十牛込神樂坂善國寺に葬る

河村通顯 酣墨齋

通稱新五兵衛享保五子年八月廿二日歿す年五十七相州巨福山に葬る

川上宗壽

號眉山弘化元辰年八月十五日歿す歳六十八

川上太白

如心齋門人號孤峰又圓頓齋蓮花菴とも云ふ尤茶技に秀づ文化四卯年十月四日歿す歳九十三谷中安立寺に葬る辭世「借用申地水火風返上申今月今日妙々が妙なる法に生れ來て又妙々が妙に死にゆく」

河田八之助 屏漱

名興字猶興號藻海後廻齋安政六年正月十五日歿す歳五十七表向三月廿六日麻布深廣寺に葬る

河竹新七 能進

狂言作者堀江勘次門人始竹三郎寛政七卯年三月十四日歿す歳四十九淺草新寺町唯念寺地中南松寺に葬る

河竹默阿彌

吉村默阿彌を見よ

河津祐之 湯谷

名吉甫寛保二戌年十二月十四日歿す本郷元町教安寺に葬る

河津周平 山白

名定廻字子彦平安の文化四卯年十月十七日歿す淺草妙音寺に葬る（曳尾菴の我衣に我領店に居る河津周平後薙髮改定廻好古の癖有り書畫鑑定を能くし後には骨董家共江戸の雅君子入集ひ大に繁昌したり去年（文化三年）六月領店へ來る頃より今年七月に至りて十倍の勢ひなりし八月下旬より傷寒にて十月十七日（文化四年）終焉をさる淺草池の妙音寺に葬る妻は初七日に髮を剃榮廻尼と云ひ

川村孫八郎 華陽

名榮壽字萬年江戸町年老井上金哦の門人天明四辰年八月十九日歿す歳四十九

河村塔二郎 益根

尾州の人秀根の男號乾屋又乾堂國學を名古屋に唱ふ文政三辰年十一月二日歿す歳六十四

河村元東 滄州

本姓太田氏伊勢山田の人仁齋門人醫を以て綱吉公に仕ふ字子果寛保四年五月十三日歿す歳七十七谷中感應寺に葬る

河村平太夫 瑞賢

元和四年二月十五日伊勢度會郡未宮庄に生る初名七兵衛後十右衛門號瑞軒寛永七年江戸に出づ元祿十二卯年六月十六日歿す歳八十三四谷新宿天龍寺に葬る鎌倉建長寺にも墓碑あり

川井與左衛門 東村

名興字正直浪華の人山崎關齋門人延寶五巳年十一月三日歿す歳七十七

河 怒齋

安永八亥年二月九日歿す歳三十七

河野春明

法眼安政六未年十二月十七日歿す歳七十三本所龜戸龍眼寺に葬る

川窪要人 蘭涯

名信古字好古文久元酉年四月十四日歿す歳四十九牛込天徳院に葬る

河口三八 靜齋

名子深字穆仲室鳩巢門人號葦山寶曆四戌年十二月十六日歿す歳五十二麻布六本木善學寺に葬る

河曲一峯 葛仙翁

號田泉舍江戸神田に住し俳諧をよくす勢州山田に歸りて享保十巳年九月十五日歿す歳八十

川崎重恭

通稱源三幼名勇次郎平田篤胤門人天保三卯年七月三日歿す歳三十五

川北温山

稱喜右衛門號春風樓嘉永六丑年正月四日歿す歳六十一

蒲坂松阜

天保五年七月七日歿す歳六十青山慈光寺に葬る

河合宗悟 曾良

信州の人始宗吾、芭蕉門人寶永六丑年十月廿三日豐前勝本にて歿す

河合來々 五湖菴

初名湖貫浪花の人安永九千年九月十七日歿す歳五十四

河合安右衛門 元仲

享保十四酉年九月四日歿す歳六十四

河合寸翁 隼之助

名道臣又號白水姫路侯世臣祿三千石を賜ふ天保十二丑年六月歿す歳七十五仁壽山麓梅が岡に葬る

加藤良白

文久二戌年八月五日歿す歳七十二谷中玉林寺に葬る

加藤貫阿 方圓居

名既明字士文諱諧は朝隱柳居門人畫は綾足門元伊勢の人享保五年始て大岡忠相組與力と成り天明七未年正月十三日歿す歳七十一市ヶ谷上寺町宗泰寺に葬る

加藤美樹 又 字万伎

眞淵の門號靜舍江戸の人稱に勤番中安永六酉年六月十日京の二條にて歿す歳五十七三條三寶寺に葬る

加藤眞菅

尾州の人明治二十二年二月廿八日歿す

加藤謙齋

享保九辰年正月歿す歳五十七

加藤原松

狸々庵寛保三年正月五日歿す歳五十八

加藤文麗

伊豫守名泰都從五位下號藤豫齋天明二寅年三月五日卒す歳七十七廣尾光林寺に葬る

加藤枝直

初名爲直江戸町奉行南方與力通稱又左衛門號芳宜園又當世庵天明五巳年八月十日歿す歳九十四本所回向院に葬る

加藤遠塵齋

狩野玉燕門人佛畫を能くす文化七午年九月十九日歿す歳七十七

樺島萬年

名公禮字世儀通稱勇八一號石梁と云筑後の人文政十亥年十二月歿す歳七十四

河本公輔

本姓三宅氏備前岡山の人季鷹門人天保三辰年六月十八日歿す歳五十八

加保茶の元成 宗園

新吉原京町娼家大文字屋市兵衛本姓村田氏安永元子年十一月六日歿す歳六十余淺草本行寺に葬る(初代は勢州川曲郡上箕田村農松本某男也)

鶏冠井令徳

通稱九郎右衛門初良徳後令に改む陀隣軒と號す松永貞徳門人延享二寅年三月三日歿す歳六十八

楫取魚彦 茅生庵

本姓稻生氏茂右衛門下總香取の人加茂眞淵翁門人天明二寅年三月廿三日歿す歳六十

加藤盤齋

稱濱五郎松永貞徳門人延寶二寅年八月十一日歿す歳五十四

加藤千蔭

枝直の男通稱又左衛門號芳宜園又耳梨山人逸樂窩江翁等の號有り眞淵門人近世和歌の名人と稱せらる文化五辰年九月二日歿す歳七十二本所回向院に葬る

加藤千浪

通稱彌三郎號萩園岸本由豆流に學ぶ明治十丑年十一月十日歿す歳五十九

加藤守行 遠澤

會津侯に仕へ始茶坊主榎木良悦に學び後狩野探幽の門に入り百石賜はり繪師と成る享保十五年十月歿す歳八十八池上本門寺に葬る(探幽の門四天王の内所謂四天王は久隅守景鶴澤深山桃田柳榮加藤守行なり)

狩谷宗珮 超花亭

通稱三右衛門字九層號武陵茶を不自に學ぶ天明八年眞臺司皆傳明道和尚嗣法たり寛政元酉年六月十九日歿す歳四十五下谷天龍寺に葬る

狩谷掖齋 望之

通稱津輕屋三右衛門字卿雲天保六未年閏七月四日歿す歳六十下谷天龍寺に葬る(掖齋實は書林青雲堂高橋與惣兵衛男なり)

香川冬嶺

明和五年六月廿五日歿す

香川景柄 黃中

景平の男徳大寺家に仕ふ稱梅月堂文政四巳年十一月九日歿す歳七十七洛東聞名寺に葬る

香川景樹

黃中義子因州鳥取の人本姓荒井氏從五位下肥後守號桂園又東鳩亭天保十四卯年三月晦日歿す歳七十四同寺に葬る辭世「ひさすちに命まつまの春の日はいよ／＼なかきものにぞありける」

香川景新

宣阿男號梅泉堂元文辰年十一月廿三日歿す同寺に葬る

香川景平

景新男寛政元酉年四月八日歿す歳六十八同寺に葬る

香川容所

安永七亥年五月四日歿す歳二十六洛二尊院に葬る

香川太仲 修徳

伊藤東涯門人秀菴と號す又一本堂播州の人醫を以て鳴る寶曆五亥年二月十三日歿す歳七十三

賀川子玄 玄悦

江州の人京に住して醫を業とし古方を唱ふ後産科を發明し一時に行はる是賀川流の祖也安永六酉年九月十四日歿す歳七十八私に景定先生と諡す

賀川子啓 玄迪

出羽の人本姓岡本氏子玄が嗣となり京に住す後阿波侯に抱へらる安永八亥年十月廿一日歿す歳四十一

香川宣阿彌

名寔眞號梅月堂周防岩國の人清水谷實業卿の門人歌道に深し享保廿卯年九月廿三日歿す歳九十洛聞名寺に歿る

加賀の千代

福島千代を見よ(ふの部)

加々美櫻塙

甲斐山科山王神職信濃守源光章と稱す三宅尚齋門人天明二寅年五月廿九日歿す年七十二

荷田在滿

通稱東之進春滿姪後義子となる號仁良齋平安の人江戸に来て國學を以て鳴る寶曆元未年八月四日歿す歳四十六淺草金龍寺に葬る

荷田春滿

羽倉齋宮と稱す又蚊田に作る洛南一の宮祠官國學中興の祖元文辰年七月二日歿す歳六十九洛南阿里山に葬る

荷田御風

字子玄稱東藏在滿義子初冬滿天明四辰年八月十六日歿す歳五十七淺草金龍寺に

片山北海

通稱片山忠藏越後の人名猷字孝秩大坂に住居す寛政二戌年九月廿二日歿す歳六十八

片山兼山

名世璠字叔懸稱冬藏上毛片山の人秋玉山の門人天明二寅年三月廿九日歿す歳五十三芝三田中寺町妙福寺に葬る

片山小左衛門

享保十三辰年六月廿日歿す歳三十九谷中瑞林寺中是立坊に葬る

片山寸長

名邦教號百草庵俳諧を嗜む寶曆十一巳年六月廿七日歿す本郷丸山本妙寺に葬る

片桐石見守 宗關

從五位下源貞昌石州流茶道の祖也延寶元丑年十一月二十日歿す歳六十九

片桐蘭石

名隱號泊然又處翁支對の門人文政二卯年七月廿六日歿す歳六十一麻布廣尾天現寺に葬る

片岡左内 可匡

通稱文之進初名云仙茶禮に精し元文辰年正月九日歿す歳五十八品川加來寺に葬る

片岡秀民

新吉原見番主俗稱大黒屋庄六寛政二戌年七月四日歿す歳六十四淺草山谷廣徳寺に葬る

片岡寛光

稱周輔號都子園佐久間町里正にて和學は春海門人天保九戌年正月十五日歿す傾城が窪蓮久寺に葬る法號高演院顯隆日蓮

片倉小十郎

名景綱伊達家の忠臣元和元卯年十月四日歿す歳五十九

荷田民子 蒼生

於民と稱す在滿女天明六年二月二日歿す歳六十五淺草金龍寺に葬る

荷田惟徳

字子馨稱東之進御風の義子本姓藤井氏文政十亥年二月七日歿す歳六十三同寺に葬る

荷田信美

羽倉氏正五位下豊前守洛南稻荷祠官小澤蘆菴門人文政十亥年十一月廿九日歿す歳七十八

香田正宣 堪忍軒

初名明水後人于一號自衰翁俳諧をたしめり享保三戌年五月十二日歿す歳五十八

勝兵助

初龜山爲助狂言作者四代目鶴屋南北長女の聲と成り勝兵助と改む文政十一年八月廿一日歿す歳四十二深川寺町信行寺に葬る

勝儀藏

四代目南北男始三代目薪水門弟坂東調藏後鶴十郎と改む文化十二年役者を止め深川仲町へ直江屋十兵衛とて子侍屋を出す文政十年作者と成る天保元年十二月十七日歿す歳五十九本所押上春慶寺に葬る

勝川春好

春章門人俗稱傳次郎長谷川町に住し後遁世して麻布善福寺に寓す文政十亥年六月歿す麻布善福寺地中に葬る

勝川春亭

勝川春英門人號松高齋又勝汲壺和泉町に住し後馬喰町二丁目に移る文政三辰月八月三日歿す歳五十一

勝川春英

本姓磯田氏號九德齋春章の門弟狂書に長し九德風と云文政二卯年七月廿六日歿す歳五十八東本願寺地中善性寺に葬る

勝川春章

勝川春水門人俗稱祐助號旭朝又井西と云浮世繪の妙手たり始當谷に學ぶ寛政四子年十二月八日歿す歳六十七淺草西福寺に葬る

勝井源八郎

勝浦周藏とも云中仙堂浦和の産狂言作者鶴屋南北門人後立作者と成る文政十一年八月廿一日歿す歳五十一淺草日輪寺地中安稱寺に葬る

桂川甫筑 大和の人平戸侯の醫寶永元年十一月召され
て幕府の醫官と成り延享四卯年十月九日歿
す歳八十七白銀上行寺に葬る

桂川甫賢 名國寧字清適號翠藍弘化元辰年十二月六日
歿す歳四十八

桂川甫周 名國瑞字公鑑號月池老人文化六巳年六月廿
一日歿す歳五十六白銀上行寺に葬る

桂川柳窓 文政十亥年五月廿五日歿す歳五十八白銀上
行寺に葬る

桂山義樹 彩巖 林鳳岡門人通稱三郎兵衛寛政二巳
年三月廿一日歿す歳七十二淺草新
堀感光院に葬る

桂 金溪 信州上田儒官文化八未年十一月廿九日歿す
歳七十二

桂 直行 歸一堂 書法一家を成す天保五年十月
廿五日歿す歳六十四

桂 秋齋 南嶺 初名義俊通稱多田兵部始進藏寛延
三年九月十二日歿す歳五十三洛
東本妙寺に葬る

葛飾北齋 戴斗 本姓中島氏幼名時太郎後鐵三郎又
八右衛門始春朗又宗理此他數號有

柄井川柳 綠亭川柳を見よ(りの部)

神戸定之 元祿十三辰年九月六日歿す歳五十

菅 茶山 菅茶山を見よ(すの部)

神田道伴 名定盤神田定恒道禱の男寛延二巳年十一月
十七日歿す歳七十八(神田家は世々有職故
實に精しくして書畫の鑑定を業とす初祖道禱は古筆の
門人たり)

神田道智 宗菴 稱六右衛門初祖道禱の男寛文二寅
年九月朔日歿す歳四十九

神田道禱 (二世) 神田家の始祖にして有職典故に精
しく又古筆の流を汲みて書畫の鑑
定をも業とせり明暦元未年四月八日歿す歳七十六

神田道禱 (二世) 名定恒稱喜兵衛道智の男にして祖
父の名を嗣ぐ正徳元卯年七月廿九
日歿す歳七十九

神田道禱 (三世) 名定武道伴の男安永二巳年正月四
日歿す歳六十四

神田菴厚丸 御普請方請負神田鍋町に住す文政十二
丑年十月廿一日歿す

神波即山 詩書共によくせり明治廿四年一月二日歿す
谷中三崎町天龍寺に葬る

香月牛山 名則眞號髮翁筑前の人貝原益軒門人中津侯
に仕ふ元文元辰年三月十六日歿す歳八十五
小倉城東菴教寺に葬る

金子金陵 名允圭字璋谷文晁門人文化十四丑年二月九
日歿す芝伊皿子長應寺に葬る

金井鳥州 萬古翁二男上州佐位郡鳥村に生る安政四巳
年正月十四日歿す歳六十二

金谷英藏 玉川 名英字世雄松崎觀海門人紀州侯世
臣寛政十一未年十一月七日歿す歳
四十一高田亮潮院に葬る

金森宗和 重近 稱飛驒守長重男茶人千道安門人
明曆二申年十二月十六日卒す歳七
十三

唐衣橋洲 通稱小島源之助字温之後謙之號醉竹菴田安
家の臣狂歌中興の巨擘享和二戌年七月十八
日歿す歳六十赤坂一ツ木淨土寺に葬る法名心眼院曉開
譽聞

辛島鹽井 天保十亥年二月廿三日歿す歳八十六

烏丸大納言 光廣公 藤原光宣卿の男寛永十五寅年
七月十三日薨す歳六十四

感和亭鬼武 通稱前野曼助小笠原侯の臣後浪人して
淺草聖天町に寓居し戯作を業とす文化
十五年二月廿一日歿す歳五十九

神野忠知 通稱長左衛門東武の士俳諧を能くし世人白
炭の忠知と云ふ延寶四辰年十一月廿七日自
殺歳五十二辭世「霜月やあるはなき身の影法師」

岸 駒 佐伯岸駒を見よ

勘 亭 岡崎屋勘六を見よ

神澤杜口 其甥 大坂の人京町奉行附與力通稱神澤
與兵衛號其甥庵翁草二百卷の著あ
り寛政七卯年三月廿七日歿す歳八十六

高嵩 谷 高を見よ(たの部)

高齋精一 單山 名有常字子恒明治廿三年六月十三
日歿す

交 五町 娛遊 質渡世伊勢屋某の子俗稱磯八吉原
幫間即ち男藝者の始なり役者の身
振をなし亦落語も上手なり寛政七卯年四月二日歿す歳
五十下谷坂本英信寺に葬る法名高顯院名譽壽樂五町居
士辭世「卯の花も道は迷はじ西の宿」

質渡世伊勢屋某の子俗稱磯八吉原

幫間即ち男藝者の始なり役者の身

振をなし亦落語も上手なり寛政七卯年四月二日歿す歳

五十下谷坂本英信寺に葬る法名高顯院名譽壽樂五町居

士辭世「卯の花も道は迷はじ西の宿」

狩野祐勢 正信

稱大炊助相州小田原の人東山殿近習始四郎二郎法眼伯信天文十八酉年四月廿一日卒す歳九十七

狩野永仙 元信

義政公近習大炊助幼名四郎二郎越前守に任す剃髮して永仙と號す古法眼是なり永祿二未年十月六日卒す歳八十五京都妙覺寺に葬る善巧院稱性日剛大居士江戸深川淨心寺にも墓あり

狩野松榮 直信

元信三男俗稱源七民部少輔剃髮して松榮又五榮と號し法眼に叙す文祿元辰年十月廿一日卒す年七十四京妙覺寺に葬る

狩野永徳 重信

松榮長男信長公に仕ふ幼名四郎後秀吉公に仕へ法印に叙す天正十八寅年九月十四日卒す歳四十八

狩野右京進 光信

永徳男法橋に叙す桑名より慶長七年江戸に召さる慶長十三申年六月四日勢州旅中に卒す歳四十四

狩野山樂 光頼

木村長光の男稱修理亮豊公の命にて畫を狩野永徳に學び遂に父子の約をなす法橋たり寛永十二亥年八月四日卒す年七十七

狩野右近 孝信

永徳二男初め高信元和四戌年八月三十日歿す歳四十八

狩野守信 探信

圖書探幽長子享保三戌年十月四日卒す歳六十六

狩野洞春 福信

洞雲男初義信又政信享保八卯年十二月十二日卒す上野護國院に葬る

狩野永叔 主信

安信義子實は壽信男號澹然居士享保九辰年六月七日卒す歳六十

狩野如川 周信

常信長子稱右近法眼刑部卿享保十三申年正月六日卒す歳六十五

狩野隨川 岑信

常信二男友清稱織部寶永五年二月三日卒す歳四十七

狩野榮川 古信

周信男法眼に叙す享保十六亥年正月九日卒す歳三十六

狩野永眞 憲信

永叔男初永信後季信祐清英信父享保十六亥年九月十七日卒す歳四十一

狩野隨川 甫信

岑信男號青柳齋稱郡次延享二丑年七月七日卒す歳五十四

狩野祐清 英信

憲信男號如滴齋法印に叙す寶曆十三未年六月廿一日卒す歳七十三深川淨心寺に葬る

狩野常川 幸信

隨川甫信男明和七寅年八月十九日卒す歳五十四

狩野探幽 守信

孝信長子宮内卿法印に叙す元和元年駿府にて神君の御影奉畫(于時十四歳)延寶二寅年十月七日卒す行年七十三池上本門寺に葬る

狩野之女 雪信

清原氏孝信の女初名之信天和二酉年四月廿九日歿す歳四十

狩野主馬 尙信

孝信二男初名一信號自適齋慶安三年四月七日歿す歳四十四

狩野永眞 安信

孝信三男休伯の號稱右京號牧心齋寛文二年法眼に叙す貞享二丑年九月四日卒す歳七十三

狩野縫殿助 山雪

山樂の義子號蛇足軒通稱縫殿助慶安四卯年二月十二日卒す歳六十三

狩野休伯 長信

松榮四男左衛門法橋號休伯承應三年十一月十八日卒す歳七十八

狩野洞雲 益信

後藤松隆男探幽義子法眼に叙す稱澗友軒後別家す元祿七戌年正月八日卒す歳七十一上野護國院に葬る

狩野養扑 常信

尙信男右近後主馬號古川叟耕寛齋法眼後法印に叙す正徳三巳年正月廿七日卒す歳七十八

狩野洞庭 興信

安永三年正月廿日卒す

狩野榮川院 興信

榮川古信男寛政二戌年八月廿六日卒す歳六十二

狩野閑川 昆信

常川男寛政四子年九月二日卒す歳四十二

狩野永徳 高信

祐清英信男寛政六寅年十二月廿五日卒す歳五十六

狩野洞春 美信

元仙男寛政九巳年二月廿八日卒す上野護國院に葬る

狩野養川院 惟信

榮川典信男號玄元齋法印に叙す文化五辰年正月十三日卒す歳五十六

狩野融川 寛信

閑川の男、腹切融川と云文化十二年三月十九日子細有て自殺す歳三十八

狩野伊川院 榮信

養川院の男法印に叙す文政十一年十月八日卒す歳五十四

狩野素川 彰信

壽石賢信男號太玄齋幼名仙二郎文政九戌年十月二日卒す歳六十四本所法恩寺塔中法泉院に葬る中國院法印日限居士(素川始彰信後章信其畫に狩野素川筆と歎したまへ)太玄齋

素川さも書く五十歳以後狩野章信と習す安永九年三月一日將軍御目見同年十二月廿七日家督寛政十二年三月晦日隠居時に三十五歳

狩野守道 探信 探收の父天保六未年九月五日卒す 歳五十一

狩野晴川院 養信 伊川院男弘化三年五月十九日卒す 歳五十一

狩野守眞 探淵 探信守道男嘉永六丑年九月十四日 歳四十九

狩野守經 探原 探淵守眞男慶應二寅年十二月廿日 卒す 歳三十八

狩野勝川院 雅信 晴川院男明治十二卯年八月八日 卒す 歳五十七

狩野内膳 重郷 狩野松榮門人號一翁元和二辰年四月三日歿す 歳四十七

狩野勝玉 照信 貞信男勝川院雅信門人明治廿四年一月十六日歿す 歳五十二本所小梅村本法寺に葬る

狩野永惠 立信 伊川院法印男狩野祐清養子幼名熊五郎號晴雪齋安政四巳年十二月法眼たり明治廿四年一月廿九日歿す 歳七十八池上本門寺に葬る

狩野祖曾 秀信 通稱新右衛門始秀家と云松榮又永徳に學ふ元和三巳年十二月十日歿す 歳六十三

狩野素川 信政 祖西子明曆四戌年四月十五日歿す 歳五十二

狩野芳厓 明治廿一年十一月五日歿す 年六十一谷中長安寺に葬る

狩野晏川 皆春齋 眞信子伊川院榮信に學ぶ幕府十八家の内なり明治廿五年十一月廿日歿す 年八十四谷中了院寺に葬る

岳太仲 東海 名融號白雲樓參州の人餘熊耳に學び芝新錢座に住す享和三亥年二月廿三日歿す 歳六十九

岳英藏 清暉 名之浩字子蕩唐津臣餘蘭室門人寛政十年正月十七日歿す 歳七十二西久保光明寺に葬る

覺禪房胤榮 南都寶藏院主寶藏院流槍術の開祖慶長十二年正月二日歿す 歳八十七

蒲生飛彈守 氏卿 正四位下蒲生賢秀男會津城主慶長元年二月七日卒す 歳四十四紫野昌林院に葬る

蠣崎波響 天保三辰年六月廿二日歿す 歳六十三菅原氏通稱眞伴蒿蹊門人天保十亥年十一月三日歿す 歳六十三洛南八幡郷に葬る

垣本雪臣 名大機字眞宰本姓松本氏書を能くし七草菴と號す慶應二戌年十月九日歿す 歳八十三深川寺町心行寺に葬る

龜 交山 名長興字禪龍號善身堂井上金銭に從て學ぶ後酒間に放浪す故有て官途に絶し誓て權貴の門に至らず文政九戌年三月九日歿す 歳七十三淺草今戸稱福寺に葬る

龜田文左衛門 鵬齋 名長興字禪龍號善身堂井上金銭に從て學ぶ後酒間に放浪す故有て官途に絶し誓て權貴の門に至らず文政九戌年三月九日歿す 歳七十三淺草今戸稱福寺に葬る

龜田三藏 綾瀨 鵬齋義子名長樟字木王嘉永六丑年四月十四日歿す 歳七十六同寺に葬る

龜山窮樂 號曳尾俗稱六藏後久兵衛洛西の人孝子の聞えありて俳諧を好み寶曆八寅年二月九日歿す 歳八十三洛東双林寺に葬る

龜井南冥 道載 名魯筑前の人物門の儒文化十二戌年三月二日歿す 歳七十二

神谷東溪 通稱彌六名謙字仲卿文化二丑年八月廿七日歿す 歳六十二淺草幸龍寺に葬る

蒲生君平 秀實 稱伊三郎山本北山門人號修靜菴宇都宮の人文化十一戌年七月五日歿す 歳四十七谷中臨江寺に葬る

鏑木梅溪 通稱彌十郎名世胤字君冑長崎の人畫家なり享和三亥年正月二日歿す 歳五十四、三田長運寺に葬る

鏑木溪菴 通稱卯三郎川勝侯の臣名徳胤明治三年九月廿五日歿す 歳五十二

加古川周藏 願言 名周之字周藏播州加古川の人文化十四丑年九月十一日歿す 白山心光寺に葬る

葛西健藏 因是 名質字休文大坂の人平澤鳩山の門人文政六未年四月六日歿す 歳六十二

笠家逸志 號素竹軒又半局菴致曲菴延享四卯年五月廿七日歿す 歳五十八淺草法恩寺地中高徳寺に葬る

笠家左簾 江月の人半局菴逸志門人安永八亥年十一月廿三日歿す 歳六十六下谷山下啓運寺に葬る

笠間巨山 破笠門人享和二戌年三月廿日歿す 歳六十七

柿沼山舟 山岳 字君起上毛の人安政六未年三月十五日歿す 歳八十五

神谷幸吉 藍水

名定令算數の學に精し文化八未年正月十二日歿す小石川西岸寺に葬る

神谷轉 友鷺

仙石家々來友鷺は普化僧となりたる時の號なり天保六年四月廿六日召捕られ同十二年一件落着同十四卯年十月廿六日歿す歳五十芝三田永隆寺に葬る法號善法院忠岳清雄

神谷玄武 白山老人

寛政十年正月十九日歿す牛込濟松寺中芳心院に葬る

神谷英藏 玉水

名英字世雄松崎觀海門人紀州侯世臣寛政十一未年十一月七日歿す歳四十一高田亮潮院に葬る

柏木如亭

名咏子永日通稱門作又號晚晴小普請方御大工棟梁也市川寛齋門人文政二卯年七月八日歿す歳五十七

鹿島探春 守房

日向の人號東郊齋安永七戌年七月廿八日歿す西久保天德寺に葬る

貝原存齋

篤信兄元祿八亥年十二月十日歿す歳七十四

貝原好古

通稱市之進號損軒篤信の姪存齋の子篤信の嗣となる元祿十三辰年五月廿三日歿す

よ の 部

淀屋个庵

號言當通稱傳内狂歌を嗜みて名を知られぬ寛永二十年未十二月五日歿す歳五十六七

淀屋辰五郎

名重當元祿十五年四月三十日歿す

依田竹谷

名瑾號凌寒道人又三谷菴壽人天保十四卯年四月七日歿す歳五十四

依田貞鎮

通稱五十嵐定右衛門依田氏を冒す號編無爲居士伊織と稱す明和元年申三月十七日歿す歳六十六武藏國府中善明寺に葬る(以上墓所一覽による一説に万治元年とす)

依田豊前守 政次

幕府の旗下稱平次郎延享三年御小納戸たり寶曆二年三月和泉守に任す御作事奉行に轉じ同六月豊前守となる明和三年正月三百石加増同六年八月又三百石加増都合千石大目附に轉じ天明三卯年七月十四日歿す歳八十一牛込保善寺に葬る

米川義兵衛 操軒

山崎闇齋門人京の人名貞字幹叔延寶六年八月十九日歿す歳五十四

米川貞藏 文濤

嘉永四亥年正月廿三日歿す歳八十二篆刻家なり

貝原益軒 篤信

筑前の人通稱久兵衛福岡侯世臣正徳四年八月廿七日歿す歳八十五

甲斐の徳本

長田徳本を見よ(なの部)

加茂眞淵 縣居

岡部氏通稱衛士遠州の人享保十八年京の春滿に學び寛延三年江戸に來り田安家の臣と成る明和六年丑十月晦日歿す歳七十三品川東海寺中少林院に葬る

鴨 祐之

本姓梨木永祐卿男正三位下鴨神主神道を垂加ふ學ぶ日本逸史四十卷の編あり享保八卯年五月廿九日卒す洛西遠寺に葬る

加茂季鷹 雲錦

本姓山本氏正四位下安房守天保十三寅年九月十八日卒す歳九十一

春日局

初名阿福齋藤利三女稻葉正成に嫁す後將軍家光の乳母となり三千石を賜ふ後從二位に叙す寛永廿年九月十四日歿す歳六十五湯島麟祥院に葬る仁術了儀尼大姉と諡す

春日龜敬齋 龍州

名政紹字了卿對馬の人中山淨山に學ぶ平安に講説す安永五申年二月九日歿す歳七十一

羊遊齋 更山

原氏俗稱久米次郎詩繪を善くす弘化二年十二月廿四日歿す歳七十四本郷無縁坂講安寺に葬る

横井千秋

名宏時通稱十郎左衛門尾州藩士本居宣長翁の門享和元酉年七月廿七日歿す歳六十四尾州祖父江村永張寺に葬る

横井也有 暮水

通稱孫兵衛號又野有とも書く尾州侯世臣にて食祿千石を領す俳句俳文に名高し天明三卯年六月十六日歿す歳八十二尾州海西郡藤瀬村西音寺に葬る

横田如圭 復庵

號盤礴居士字大復如圭又汝圭に作る畫家なり天保十三寅年六月十八日歿す歳七十八

横田俊益

字三友號何來元祿十五年正月六日歿す歳八十三會津大宛山に葬る

横山一郎 儋人

名樵古賀精里門人文化七辰年九月十六日歿す歳六十七音羽稱名寺に葬る

横山桂子 月の屋

横山平馬女通稱みち號月の屋本間游清に學ひて歌を能くす安政二卯年八月廿日歿す歳五十六(此の人のよめる「月前紅葉」あかね哉月すむ夜半に散紅葉がつらの花のこゝ

ちのみして「右の歌長こき邊の御聽に達し自今月の桂
子と稱すべき由仰せ下されたりといふ」

横山由清

桂子義子國學典故に精し明治十二年十二月二日歿す谷中天王寺墓地に葬る

横山南郊

名潤字仲徳博覽雜書に渉る寛政十一未年十一月五日歿す歳五十三牛込二軒寺町法正寺に葬る

横山雲南

名仲祥一號鼈通稱祥介畫家なり明治十三年四月廿八日歿す歳六十七

横山華山

松村吳春の門人名一章後岸駒の畫風を學ぶ天保八四年三月十七日歿す歳五十四

横山九三 陶宮

通稱三之助號春龜齋陶宮術を主唱す嘉永六丑年八月十三日歿す歳七十五音羽蓮光寺に葬る

横山清暉

慶應元年九月二日歿す丸山安養寺に葬る

横谷宗珉

友常號遜庵通稱長次郎宗與養子家世々彫刻を業とす享保十八丑年八月六日歿す歳八十三東本願寺地中等覺院に葬る

横谷玄圃 藍水

名友信六才にして痘を病み明を喪ふ十七にして南郭に詩を學び後蘭亭が門に入る安永七戌年十一月廿九日歿す歳五十九

吉田意安

名宗桂慶長十五戌年四月十七日歿す歳五十三(或説宗桂天文年中天龍寺策彦と典に明に行き明主の病を療し名を得たり元龜三年に歿す)

吉田一帆齋

一刀流擊劍の名人文化八未年閏二月十日歿す歳七十牛込神樂坂上善國寺に葬る

吉田長叔

名成徳號駒谷幕府先手同心馬場兵右衛門三男叔父醫吉田長肅の家を嗣ぐ文政七申年八月十日歿す歳四十六加州金澤東岳寺に歿る(長叔は始土岐長元門後桂川甫周に學ぶ文政七年夏金澤老侯在國病に罹り急に召す即日立越後高田にて疾にかゝり強て金澤にいたる三日目に死す)

吉田林庵

水府侍醫名宗山享保六丑年三月四日歿す歳八十七谷中大雄寺に葬る

吉田了以

角倉了以を見よ(すの部)

吉田坦藏 篁墩

漢宦字學生常陸の人考據學の祖寛政十年九月朔日歿す歳六十八谷中大雄寺に葬る(東條琴壺云余が近世の人にて畏服せしは吉田坦藏なり故ありて久しく佐々木氏を稱し佐々木坦藏と呼べり其父常陸の人にて水府の醫官なり坦藏始めは醫に志有て江戸に來り處々飄泊し遂に井上金嶽

横谷盛次 宗與

名友周通稱治兵衛京の人にて後藤門人彫刻に名高し寛文中江戸に下り元祿三年十二月十七日歿す東本願寺中等覺院に葬る

餘吾古庵

儒にして醫を兼ね元祿八亥年五月十九日歿す歳八十駒込土物店龍光寺に葬る

與謝蕪村

初名長庚字春惺谷口氏攝津西成郡の人俳諧をよくす又始め彭百川に従ひ後一家をなし畫名を謝寅といふ天明三卯年十二月廿九日歿す歳六十八一説丹後與謝の人因て與謝を氏とす又の號三果大坂天王寺村に住す墓は一乘寺村金福寺に在り

吉雄耕牛

稱幸右衛門後幸作家世々和蘭陀通詞を役とす解體新書に序したる此人なり寛政十二申年八月十六日歿す歳七十七

吉益東洞

名爲則字公言安藝の人稱要助儒醫なり安永二巳年九月廿二日歿す歳七十二

吉岡重繼

彫刻師なり正保元申年正月廿四日歿す歳七十三

吉川惟足

號湘山隱士又視吾堂古典を研究し神道に一派をなす元祿七戌年十一月十六日歿す歳七十九

吉川五明 小夜庵

文化六丑年十月廿六日歿す

に從て學べり學成て水府を去り江戸淺草馬道に僑居し教授して業せり生涯他の儒者の如く聞達を求めず又官に就くを欲せず其故に世人の知る者少なし今の高名の大家太田錦城龜田鵬齋中村佛庵屋代臨池市野觀叟など皆其誨督を受し程の事なり學術は古屋普陽など、同趣にて古學をなせとも清人の考據を尊崇して學問か至て手強し從來鑑識の有る人にて古書畫より百の器物なさに至る迄能く目利を爲し古道具を賣買する商估は近世の目利者さて疑似の物は鑑識を請しとなり故に書肆古書畫などを商ふ者は佐坦など、呼て誰も知らぬ者なし近世の人々の宋板のもの元板のものさ古代影本杯を珍重せる事は篁墩より開けたり

吉田素庵

角倉素庵を見よ(すの部)

吉田和三 南陽

名寛字栗卿阿波の人文久二戌年八月廿七日歿す歳七十八麻布宮村町長支寺に葬る

吉田蘭香 東牛齋

畫を以て業せり寛政十一未年六月九日歿す四ッ谷全長寺に葬る

吉田陸奥大掾 冠壽

始吉田東九郎後三代目吉田冠二木偶師なり明治五年正月五日歿す歳六十二

吉田甲夫 雨岡

江戸町興力通稱源藏名桃樹號繁岐
落髮して時雨が岡に居す依て時
雨園とも云享和二戌年十一月九日歿す歳六十六日暮里
南泉寺に葬る

吉田冠二 (元祖)

人形遣ひの名人天明五巳年十一月
十二日大坂に歿す歳六十二

吉田冠二 (二世)

始め桐竹紋三郎享和二戌年五月十
五日歿す歳五十七

吉田彌一

寶曆三酉年四月廿六日歿す歳三十二河東常
念寺に葬る

吉田文魚

淺草藏宿大和屋興兵衛謂ゆる十八大通の首
長一號大通散人寛政十二申年四月十九日歿
す歳六十八淺草田圃長國寺に葬る

吉田文吾 文操齋

始め吉田國五郎人形遣ひの名人
なり文政十亥年八月廿五日歿す
年五十五淺草妙經寺に葬る

吉田希賢

東都儒員享保十六亥年十二月十九日歿す二
本榎承教寺に葬る

吉田子方 圓齋

名平寛政六寅年二月廿八日歿す根
岸善性寺に葬る

吉田慎齋

名訥言字子敏水戸の儒醫享保十巳年九月十
三日歿す歳四十九谷中大雄寺に葬る

吉村島女 島水

河竹默阿彌二女柴田是真翁門人明
治廿二年十一月廿四日歿す歳廿八
淺草門跡添地源通寺に葬る

吉村默阿彌

二世河竹新七俳名其水通稱吉村新七五
代目鶴屋南北門人始勝諺藏後に斯波普
輔と改め晩年古河默阿彌と稱す明治廿六年一月廿二日
歿す歳七十八淺草門跡添地源通寺に葬る

吉井雲鈴 摩詰菴

一號吹簫軒俳人寛保四年二月
五日歿す歳七十八

吉野 (遊女)

實名登代佐野紹益の妾なる寛永廿未
年八月廿五日歿す法名唱玄院妙蓮日性
内野新地立本寺に葬る歳三十一(諸書に寛永八年六月
廿二日法號本融院妙供と有るは紹益の本妻なり吉野の
歿年紹益三十三才の秋也)

芳野金陵

名世育字叔果號純字通稱憲三郎後立藏下總
葛飾郡松崎村の人父は醫なり綾瀨に學び後
儒官となる明治十一年八月五日歿す歳七十七

吉見定丸 紀の定丸

通稱吉見儀助名義方幕臣狂歌
仲間に入て始め野原雲介と云
天保十二丑年正月十六日歿す歳八十三本郷元町三念寺
に葬る昇進院平生日勤敏翁辭世「狂歌師もけふあす
かさなりにけり紀の定丸もさだめなき世に」

吉田寅次郎 松蔭

長州の人名矩方字義卿號二十一
回猛士安政六未年十月廿七日刑
死小塚原回向院に骸を葬る

吉田熹六

明治廿四年十月三十日歿す歳三十二谷中墓
地に葬る

吉田清成

始め太郎と稱す明治廿四年十月十三日歿す
歳四十七青山墓地に墓る

吉永升菴 寂紫

長崎の人蘭醫の祖明曆二年十月七
日生る本性菊池氏寛文十一年五月
稻葉正則の召に依て江戸に出て本所猿江に住す享和二
十年卯三月十七日歿す歳八十、三田寺町勸喜院佛乘寺
に葬る

吉村孝敬

吉村孝文の父圓山應舉門人天保七申年七月
十六日歿す歳六十八

吉村觀阿 物外

芝丸屋町に住す通稱丸屋善右衛門
剃髮して白醉庵觀阿號苦樂菴嘉永
元申年六月十九日歿す西本願寺地中福原寺に葬る

芳邨義助 銀臺

名衡字子雀相州厚木の人始徂徠門
後南郭に學ぶ延享元年七月朔日
歿す歳四十二

吉住小三郎 喜鳳

攝州住吉の産初名仙次郎六代目
杵屋喜三郎門人寶曆三酉年七月
十六日歿す歳五十五(秀鶴日記天明七年の條に云吉住
小三郎とて中村座立唄なり六代名人杵屋喜三郎は中山
の唄を彈申候立唄なく右吉住小三郎と名付て立唄に仕
候小三郎の小の一字なる由中山と付申度候へ共代々の
者故に吉住と申候小三郎は住吉の誕生に候故文字を返
して吉住と改め申候云々)

たの部

大梅居大梅

通稱小島酉之助號梅外下野人天保十二
丑年五月廿九日歿す歳七十淺草寺地中
修善院に葬る辭世「七十やあやめの中の枯尾花」

大白堂桃隣 桃翁

伊賀上島の人享保四年亥十二月
廿三日歿す

大綱和尚

大徳寺四百三十五世名宗彦万延元申年二月
十五日寂す歳八十九

大道槐洲 士燮

仙臺人蘭學に精し號自然堂嘉永元
申年九月五日歿す歳四十四

大道寺孫九郎 友山

幼名勇太郎號知足軒靈岸島に住す享保十五戌年十一月二日歿す歳九十二愛宕下青龍寺に葬る(友山は寛永十六年二月七日越後村上に生る貞雄云友山壯年前浪人して万治寛文の頃北條安房守氏長門人となり軍術を修練し岩淵と云へる處に寓居す此時會津大守松平肥後守源正容朝臣に奉仕し其後退隱して寶永の頃麻布に寓居す殊の外不自由の躰なりしが其後松平越前家に招かれ臣と成り靈巖島の屋敷に居り爰にて終る此子孫彼家に在り(とぞ)

大黒龜二郎 梅陰

白子幸太夫實子嘉永四未年五月十三日歿す歳五十五本郷元町與安寺に葬る

大黒屋庄六

片岡秀民を見よ

大文字屋市兵衛

加保茶の元成を見よ

田端松軒

俗稱計右衛門號樓霞安政四巳年二月歿す

俵の船積 大湊舍

本姓大竹氏通稱高濱屋三左衛門と云東都小網町に船積の間屋を業とす依て狂歌の號とせり亦俳諧を善す俳名を法六菴寛哉と號す文政三辰年十月歿す淺草鳥越西方寺に葬る辭世「まめで居た恩を報するほうろくのわれも終には元の土くれ」

谷 一齋

名松字宣貞號已干土州の人元禄八亥年三月十九日歿す歳七十一淺谷長谷寺に葬る

谷 麓谷

名本備稱十二郎本教の男にて文晁の父文化六巳年九月五日歿す歳八十一淺草寺町源空寺に葬る

谷 立笨 斗南

名立眞字太公又梅花長者井上金峨門人醫にして詩を能くす天保六未年三月廿八日歿す歳六十四

谷川士清 淡齋

名昇士清は字なり伊勢の人世々醫を業とす山崎派の神道を學び又和歌は有栖川家の門人となる國史漢籍に通ず安永五申年十月十日歿す歳七十伊勢刑部村福藏寺に葬る

谷 垣守

秦山の長子幼名荒藏後丹四郎土州の人寶曆二申年三月三十日歿す歳五十五高知城北秦泉寺に葬る

谷風梶之助 守胤

本姓増田氏幼名與四郎寛政七卯年正月九日歿す歳四十八高輪東漸寺に葬る(谷風は奥州宮城郡霞目村の産寛延二巳年八月八日生る明和四年十九才にして相撲となり秀の山と名乗る後伊達ヶ關と改め安永五年二月谷風梶之助守胤と號す寛政元年酉十一月廿九日之下開山となりて横綱免許角力年中行事に八年の間三都中にて組合貳百

谷 文二

文晁男幼にして奇才あり號津所嘉永三年五月十一日歿す歳三十九淺草源空寺に葬る

谷 榮子 紅藍

洞齋妻號菅伴天保三辰年十二月四日歿す歳五十三

谷傳右衛門 本教

一日文治父を親徳と云その先江州世士號恭節寶曆二申年七月十七日歿す年六十四淺草源空寺に葬る(谷氏は郡代官の小吏なり此人地方の事に精通し諸國郡代及び縣令等の吏務に益するこゝ極て多し褒美を給るこゝ數度著述は田園類説二卷同附錄四卷縣令須知六卷聽訟須知一卷地方一様記辨解二卷皆寫本を以て行る官より命じて田安府に附られ司計となる麓谷其職を襲ふと雖も錢穀の事を厭ひ入江北海に學て詩を以て聞ゆ井上金嶽山本北山等の説を喜び常に交たり)

谷 時中

谷宗慶の男名素有儒にして書を能くす慶安二丑年十二月三十日歿す歳五十二

谷 重遠 秦山

通稱丹三郎土州の人山崎闇齋門人旁ら神學に通ず享保三戌年六月三十日歿す歳五十六

谷志夫子 秋香

中田榮堂の妻名舜英字小香文晁の妹天保三辰年五月十六日歿す歳六十一山下慶雲寺に葬る

貳拾番此中にて十一番負に頭取預り無勝負廿七番勝百八十三番と云身の丈六尺三寸重さ四十八貫目腰めぐり七尺余)

谷口樓川

號無事菴天明二寅年十一月廿九日歿す淺草本願寺に葬る

谷口多膳

字子春寶曆四戌年四月廿五日歿す駒込瑞泰寺に葬る

谷口胤祿

從六位上式部大丞文政九戌年十二月二日歿す歳五十七

谷口月窓

號痴絶菴勢州山田寂照寺月遷の門人名世遠字孟泉江戸に出て芝高輪に住す慶應元丑年四月十三日歿す歳九十二

谷口蕪村

與謝蕪村を見よ

谷文一郎 文一

文晁義子號痴齋文政元寅年三月八日歿す歳三十六淺草寺町源空寺に葬る

谷文五郎 文晁

麓谷の男號寫山樓又畫學齋薙髮して文阿彌天保十二丑年十二月十四日(表向廿五日)歿す歳七十八淺草源空寺に葬る

谷 文中

明治九年十一月廿八日歿す歳五十四又六十とも聞く淺草源空寺に葬る

立原甚太郎 杏所

名任字遠卿水戸に生る祿二百五十石を賜ふ風流好事書畫を能くす天保十一年五月廿日歿す歳五十三江戸小石川に住す駒込海藏寺葬る

立原甚藏 蘭溪

本姓佐久間氏水戸の人彰考館員翠軒父明和七寅年十二月廿四日歿す歳四十八

立原甚五郎 翠軒

名万字伯時號此君堂又東里水戸の人文政六未年三月十八日歿す歳八十駒込海藏寺に葬る

橋 常樹

遠江國城飼郡平尾村廣幡八幡の祠官號岡の舎壹岐守と稱す眞淵門人寶曆十二年十一月十九日歿す歳七十五

橋 南谿

宮川氏名春暉稱石見介伊勢の人博識能文北窓瑣談東西遊記等の著者なり男を春徳と云ふ文化二五年四月十日歿す

立花貞庵 孤岳

名省字伯勤奥州二本松の人天保五年十月二日歿す歳七十二淺草新寺町東岳寺に葬る

橋 守部

初名庭鷹通稱北島元輔號池庵伊勢の人國學を能し江戸に出て鳴る嘉永二酉年五月廿四日歿す歳七十牛島長命寺に葬る

高林方朗

本居宣長門人弘化三年十二月十四日歿す歳七十八

田川鳳朗

號自然堂弘化二巳年十一月廿八日歿す歳八十四谷中天王寺に葬る

高橋一庵

名群稱仁輔仙臺の人天保九戌年七月十七日歿す歳四十五

高橋與市 女護島

名閔慎字正卿稱八丈島屋、歳十才にて島を出で廿八にて學に志し東江源鱗の門に入る文政五年十二月十三日歿す歳七十四本願寺塔中に葬る

高橋作左衛門 東岡

名至時字子春號梅軒文化元子年正月五日歿す歳四十一淺草寺町源空寺に葬る(東岡は明和元年十一月大坂上本町に生る安永七年十二月父元亮の後を嗣て大坂御定番同心となり曆學に志し豊後の麻田剛立に従ひ其奥を極む寛政七年三月江戸に召され天文方手傳と成る同年十一月四日更に天文方を命ぜられ改曆の主任と成る又傍地理測量御用を兼取調中歿す東岡の子文景保初名作助化元年三月三日家督仰せ付けられ先業を継ぎ天文方となり作左衛門と改む文化十一年二月御書物奉行兼勤仰付らる然る所蘭人シーホルトより蘭書を請ひ得たる返報に本邦の地圖を遺したる事發覺し文政十一年十月十日

橋 守國 素軒

本姓檜林氏名有稅大坂の人始め狩野探山守見門人師と絶交して後一家を爲す寛延元辰年七月十九日歿す歳七十

立羽不角 千翁

岡村不卜門人通稱山崎定之助號虛雲齋又南々舎松月堂薙髮して法眼に任し自ら千翁と呼べり寶曆三酉年七月廿一日歿す年九十二西本願寺地中淨勝寺に葬る

立羽壽角

不角二男號千松堂明和六丑年二月十五日歿す西願本寺地中淨勝寺に葬る

館 柳灣

本姓小山氏名機字樞卿又號古錐子通稱雄二郎越後の人後幕府の徒士と成る詩を以て鳴る弘化元辰年四月十三日歿す歳八十三牛込横寺町長源寺に葬る

館 俊藏 霞舫

柳灣の男字昆陽號小嶺畫人嘉永六年正月廿八日歿す寺同上

田 龍溪

寶曆五巳年七月廿一日歿す歳六十四

達摩屋語一 蛙麿

本姓岩本氏號花の屋亦無物閑人前名伊三郎明治元辰年七月十八日歿す歳五十二赤坂一ツ木淨土寺に葬る

高 頤齋

名玄融玄岱男別號高頭齋明和六丑年正月五日歿す歳八十牛込原町經王寺に葬る

高橋宗恒

京師大内の有職家正四位下雅樂頭御厨子所預たり寶永三戌年十二月廿四日卒す歳六十七

高橋宗直

御厨子所正四位上若狹守有職の記録を著し號て寶石類書と云ふ二百余卷あり天明五巳年正月廿四日卒す歳八十五宗恒の孫なり

高橋杏村

明治三年五月四日歿す

高橋庄左衛門 牛嶼

名延國寛政十年七月廿三日歿す淺草八軒寺町玉宗寺に葬る

高橋慎省

平安の人明和五子年正月十五日歿す歳五十二洛東極樂寺に葬る

高 良齋 輝淵

名淡字子清德島藩の醫文政十年獨逸醫學を修め眼科を以て開業す文政十二年正月獄に下る後赦されて福島に歸る後大坂に出で弘化三年九月十三日歿す歳四十八大坂南谷妙光寺に葬る

高尾 (遊女) 京町一丁目三浦屋四郎左衛門抱生園下
野園下鹽原鹽釜村農長助女幼名いち承
應元年三浦屋へ抱へらる万治三年高尾と成り享保元申
年十一月十五日病死歳七十七仙臺荒町佛眼寺に葬る

高 葛坡 石島筑波門人名峻號伊齋稱嘉右衛門安永五
申年八月八日歿す歳五十三洛東佛光寺に
葬る

高田與清 小山田與清を見よ(をの部)

高田吉次 伊賀國伊賀郡白檉村に生る通稱又兵衛寛文
十一亥年正月廿三日歿す歳八十三

高田敬輔 隆久 初稱徳右衛門近江の人狩野永敬に
學び後法眼に叙す寶曆五年某月日
歿歳八十二(近世逸人畫史に高田敬輔は江州日野杉の
上の人製薬を以て活業とす幼にして畫事を好めり因
て水口侯に仕ふ侯狩野永真をして是か師たらしむ後故
里に歸省して此業愈つとむ善畫の聞えあり其寫す處富
士峰及鮎魚鯉魚等を珍玩とす後降福寺古禪和尚に畫の
法を學へり竹隱齋眉間毫翁の號あり男を三經と云)

高津野坡 本姓志田通稱半次郎後彌助越前の人始め江
戸三井兩替店に勤む芭蕉の門號無名菴元文
五申年正月日向國遊歴中歿す歳七十八

高井蘭山 名伴寛字思明稱文左衛門芝伊皿子に住す幕
府與力小説演義類の著頗る多し天保九戌年
十二月廿三日歿す歳七十七白銀戒法寺に葬る

高野長英 瑞阜 本姓後藤氏幼名悦三郎後郷齋高野
家を繼く蘭醫吉田長叔の門に入り
長英と改む嘉永三年十月晦日自刃す歳四十七

高野惟馨 蘭亭 名勝明字子式通稱文之助後香之進
徂徠門人百里の男十七才にて明を
失ひ詩を以て知らる寶曆七丑年七月六日歿す歳五十五
鎌倉圓覺寺中松濤館に終れり

高野春華 名鎌字君素通稱惣右衛門天保十亥年二月廿
三日歿す歳六十九

高野百里 電堂 名勝春字文館號佛諧舍堂江戸の人
享保十二年五月十二日歿す歳六
十二大川端東江寺に葬る

高山北溟 名尙賢稱平助安永六酉年八月廿五日歿す淺
草誓願寺に葬る

高山彦九郎 正之 上野國新田郡細谷材の産寛政五
丑年六月廿七日歿す歳四十四

高逸記 芙蓉 名孟彪字孺皮初字作本姓大島篆刻の名
人なり天明四年四月廿四日歿す歳六
十三小石川戸塚無量寺に葬る

寶田壽萊 劇神仙 本姓鈴木氏俗稱和八郎神田に住
す俳名を閑雅と云ふ寛政八辰年
八月十七日歿す歳五十七

寶田壽助 壽仙 始松川實作と云ふ松井幸三弟子分
天保三年實作を改めて寶田壽助と
成る天保九戌年二月十九日歿す歳四十二戲作の名尙榮
樓傾堂又東蝶山人

寶井其角 竹下東順(本多上野介抱醫師)男榎本氏は
母方の姓と云寛文元年七月十七日東都堀江
町に生る俗稱源助號寶晉齋又狂雷堂寶永四年二月三
十日歿す歳四十七、二本榎上行寺に葬る

高村和及 長門の人號直唱法師又露吹庵といふ元祿五
年申正月十八日歿す歳四十四

高井立志 號松樂軒本町四丁目に住す雜屋立園に隨ひ
て俳諧を能す天和元酉年十月廿一日歿す

高井立志 (二世) 立志次男幼名犬松初松雨軒薙髮し
て和諧堂寶永元申年八月十日歿す
歳四十八淺草常福寺に葬る

高井立志 (三世) 二世立志男初春水又立詠父歿後三
世立志と改む享保元辰年十一月廿
一日歿す歳四十二淺草常福寺に葬る

高木壽穎 參石 通稱五郎兵衛號梅嵩又加茂の屋明
治十六未年正月十六日歿す歳七十

鷹見三郎兵衛 爽鳩 名正長字四方三州の人田原侯
に仕ふ徂徠門人本石川氏享保
廿年五月三十日歿す淺草新堀松源寺に葬る

鷹見三郎右衛門 星臬 名允字子允三州田原世臣
爽鳩孫文化八未年十月三
日歿す歳六十二淺草松源寺に葬る

高島千春 畫有職に精し號融齋又鼎湖稱壽一郎安政六
未年十一月十一日歿す歳八十淺草唯念寺地
中願壽寺に葬る

高島玄札 高島玄道とも云醫師なり本所四丁目に住す
元祿二巳年十二月十四日歿す歳八十三

高島四郎大夫 秋帆 長崎の人名茂敦字舜臣後稱喜
平慶應二寅年正月十四日歿す
歳六十九駒込東片町大圓寺に葬る法號皎月院殿碧水秋
帆居士

高久隆古 鶴厓義子稱斧四郎本姓川勝氏安政五年八
月廿六日歿す歳五十九谷中中龍院に葬る

高久靄厓 號疎林外史名徵一稱秋輔下野佐野の人號學
梅齋文晁門人後一家を成す天保十四卯年四
月八日歿す歳四十八谷中中龍院に葬る

高森正因 享保三戌年四月十九日歿す歳四十九

高瀨梅盛 高名の俳人俗稱太郎兵衛薙髮して宗入居士 號佗心子元祿十二卯年四月八日歿す歳八十九

高瀨學山 林鳳岡門人名忠敦字希樸號松菴紀藩の醫なり江戸に勤番せし時徳廟潛邸の頃儒官を命ぜられ薙髮して忠兵衛と改む後作右衛門と云ふ寛延二年六月十五日歿す歳八十二

高瀨道鑑 號道甘齋梅盛の兄俗稱清太郎元祿四未年二月十五日歿す歳八十三

高 嵩月 常雄 號景納嵩谷門人天保元寅年十一月廿日歿す歳七十六

高 嵩谷 一雄 佐脇嵩之門人樂只齋翠雲堂又屠龍翁の數號有り文化元年八月廿三日歿す歳七十五淺草西福寺地中智光院に葬る

多田東溪 號蒙齋明和元申年八月廿六日歿す歳六十三

多田義俊 南嶺 桂秋齋を見よ(かの部)

多々良南川 通稱丹下名義方京の人寛保元酉年七月廿七日歿す歳七十四京極大雲院に葬る

種村箕山 澤村琴所門人字元民通稱元治江州の人寛政十二申年六月十二日歿す歳七十九

田邊次郎太夫 貞齋 名經忠字世篤博く雜書に渉る安永二巳年閏三月十一日歿す 淺草本願寺に葬る

田邊晋齋 淺井重遠門人名希文字子都號翠溪仙臺世臣稱喜右衛門安永元辰年十二月十二日歿す歳八十一

田邊是來 嘉永四未年三月十六日歿す芋坂長善寺に葬る法號仁讓院義正日巧

田中抱二 青々芥 通稱金兵衛畫風抱一の流を汲む明治十八年正月廿三日歿す歳七十一寺島村法善寺に葬る

田中訥言 大孝齋 名痴字虎頭法橋に叙せらる尾張の人平安に住す古畫の風致を得しは此人を魁とす文政六未年三月廿一日歿す

田中良齋 存生齋 名榮治通稱多兵衛尾州名古屋の人狩野常信門人畫名朴黃狐又茶道にも精し寶曆十三年十二月六日歿す歳八十二

田中道榮 通稱太兵衛神田辨慶橋に住し狂歌を嗜めり文政八酉年二月六日歿す歳八十下谷金杉世尊寺に葬る「今迄の業も勤もつきはて、嬉しく歸るも

辰岡万作 浪花島の内に住す狂言作者辰岡家の祖なり文化六巳年九月三日歿す歳六十八

立野老樗軒 名運樸(岡田と改姓)岡田樗軒を見よ元藤井伊十郎人形遣にて名高し寛延三年十一月廿四日歿す歳六十六

辰松八郎兵衛 (初代) 高し寛延三年十一月廿四日歿す歳六十六

辰松八郎兵衛 (二代) 偏振 文化九申年五月九日歿す歳六十七

龍 公美 草蘆 字君玉山城國伏見の人寛政四子年二月二日歿す歳七十八

辰巳屋惣兵衛 踊狂 小石川傳通院前の茶店文政四巳年十月廿四日歿す歳八十八

同所久保町慈照院に葬る法名快樂遊仙(翁の葬送の時)のさま真先は此頃流行せるかんくの唐人踊り也夫より唐人のれりもの數人管絃にて西道と書たる幟四本棺の前後に押立棺の上にはうるはしき振袖を掛け道なれり行く觀る者堵の如し斯て寺に至ればきやう歌にて葬りしと云實に此翁昔より年毎の祭りにおかしきさまして踊り出其名高く世に知られたり諸侯方へも招かれて踊り興じたり此頃の一奇人也踊狂の名は蜀山より送りしなり此頃の人には老若異様に化粧せしを見ては辰巳屋のやうなりなどいひたる程にもてはやされし江戸の名物なりき)

この古郷

田中宗逸 明治五申年十月廿日歿す

田中武助 蘭陵 名良暢武州の人徂徠門人少年四傑の一人享保十九年十二月廿五日歿す歳三十六山谷瑞泉院に葬る(田中桐江の姪也)

田中大秀 香木園 號湯津稱彌兵衛飛驒の人薙髮して荏野翁本居門人弘化四未年九月十六日歿す歳七十二飛驒大野郡松室園に葬る

田中原内 東泉 名親長京師の人仁齋門人享保十七子年八月廿三日歿す歳六十八文逸先生と私諡す

田中歸春 五英 通稱喜右衛門字清友書家なり文化九申年十一月十七日歿す歳五十九 深川靈岸寺に葬る

田中道麿 本居門人號榛木翁稱庄兵衛美濃の人後名古屋に住す天明四辰年十月四日歿す歳五十五

田中收藏 玉峯 名爲則字子翼書を能す文政十一年十月十八日歿す歳七十

田中兵庫 丘隅 通稱隅右衛門後兵庫名喜古號冠帶老人一年相州酒匂川の洪水を治て功績あり遂に旗下の列に加り縣令に至る享保十四酉年十二月十日歿す歳六十八川崎在小向村妙光寺に葬る

田中省吾 桐江

山縣周南門人號富春山人出羽の人
寛保三亥年二月四日攝州池田にて
歿す歳七十三(省吾一號雪華道人始兵學を以て甲斐侯
に仕ふ後故有て藩を去りて後姓を富名逸字春叟桐江と
號す晩年奥州三春に隱る)

田村臨川

延享元子年十一月廿四日歿す歳六十

田邨雄藏 華山

名孝偉赤澤節嚴門人寛政五丑年四
月十二日歿す歳三十一

田村元雄 藍水

本姓坂上名元壺一名登物産學家な
り安永五申年三月廿三日歿す歳淺
草北寺町眞龍寺に葬る

田村西湖 僊杏菴

寛政五丑年正月十九日歿す淺草
北寺町眞龍寺に葬る

陶梅里 梅里山人

名酉字冲巳本所中の郷に住める
瓦方用達なりしが書を好み山水
花卉を描くを得意させり寛政十年六月廿八日歿す歳
六十五中の郷成就寺に葬る

道本和尚

淺草藏前大護院隱居安政四巳年八月廿八日
寂す歳九十神奈川金藏院に葬る

唐來三和 伊豆亭

本姓加藤通稱和泉屋源藏草雙紙
黄表紙の作者本所松井町に住せ

り文化十二亥年八月五日歿歳六十七深川淨心寺に葬る

田野村竹田

古谷昔陽の門人豊後の人本藩世臣稱行
藏天保六未年八月廿九日歿す歳六十大
坂寺南町淨春寺に葬る

田口如松軒 如松

京師畫所通稱數馬字正賢寶永五
子年八月廿八日卒す歳七十五京
極西園寺に葬る

澤菴和尚 宗彭冥之

紫野大徳寺百五十三世號宿玄
又東海暮翁正保二酉年十二月
十一日寂す歳七十三碑東海寺にあり

田山敬儀

通稱順治小澤蘆菴門人伊賀の人文化十一戌
年四月十九日歿す歳四十九京北白川心性寺
に葬る

玉川庄右衛門 了覺

玉川土水の起工人元祿八亥年
六月八日歿す歳七十四淺草新寺
町聖徳寺に葬る

玉垣額之助

角力年寄もさ士籍より出でたりといふ
其故か人品よかりき明治十四巳年八月
廿五日歿す歳六十九

玉木葦齋

山崎關齋門人神道に深し元文元辰年八月七
日歿す

菊玉 (遊女)

新吉原角町中萬字屋勘兵衛抱名たれ享
保十二年三月廿九日歿す歳二十五淺草
光感寺に葬る(光感寺の墓碑には光岸明秀信女寶永元
年甲申五月十九日とあり)

玉置茂八 筆華堂

淡路の人玉置半助門後師の姓を
嗣ぐ名榮長明治五子年八月十七
日歿す歳七十五本所砂村持寶院に葬る(玉置半助寺澤
友太夫馬場大助杯の類皆御家流なり)

竹尾善筑

山縣大貳孫初め増上寺の僧後還俗して幕府
の表坊主と成り竹尾姓に改む天保十亥年八
月六日歿す歳五十九麴町十丁目心法寺に葬る

竹田出雲 千前軒

竹田近江の子名清定寶曆六子年
十月廿一日歿す歳六十六

武田梅龍 蘭籬

名欽蘇美濃の人宇野士新の門人初
名惟岳南陽と號す通稱篠田源助後
本姓武田に復し後年東涯に就く平安に住す明和三戌年
十月十六日歿す歳五十一洛妙心寺に葬る

武田長壽院 杏仙

名靜字信成號兼山官醫なり寶永
二酉年七月廿六日歿す品川本海
寺中少林院に葬る

武田耕雲齋 正生

通稱伊賀慶應元丑年三月越前に
於て斬らる歳六十三

り文化十二亥年八月五日歿歳六十七深川淨心寺に葬る

竹田近江 清直

阿波の人万治元年十二月朔日出雲
と受領す寛文二年春大坂にてから
くり芝居興行し享保十二酉年閏九月十九日歿す歳八十
一(竊窓漫筆卷の二)初代竹田近江阿波の人通稱次郎
兵衛享保十一年五月五日近江と改同十四年閏九月十九
日死八十一歳○悴近江三四郎享保十九年十一月近江と
受領す寛保二年戌九月二日二代近江清英死○弟近江平
助と云寛保三年四月京都にて受領す云々)

竹内雲濤 醉死道人

名鶴字九萬號不可、無竹居、詩
人なり文久二戌年十二月十四
日歿す歳四十九東本願寺地中清光院に葬る

竹内玄々 一竹窓

號有無軒後勾當俳家奇人談の編
者幡州高野人文化元子年八月廿
五日歿す歳八十三谷中長久院に葬る 辭世「朝かほやし
ぼめば又の朝ぼらけ」

竹内式部 天龍道人

名は敬持號羞齋越後の人初醫
を業とす享保の頃京に出て徳
大寺家々來さなる垂加流の儒學神道に精じ公卿を集
めて神典を講じたるを以て吉田家に嫉まれ追放の刑に
處せられ伊勢に逃れて正菴と改む後明和四年山縣大貳
の事に連座して三宅島に流され十二月五日同所に歿す
年五十六

武野一閑居士 紹鷗

甲斐源氏武田信光の裔堺の人
三條右府公に仕へ薙髪の後古
岳禪師に隨て茶道の奥を極め大黒菴と號す室町四條に
住す弘治元年閏十月二十九日歿す歳五十四堺南宗寺
に葬る

武野宗瓦

因幡守仲村と稱す紹鷗の男號方寸齋慶長十
九寅年八月廿六日歿す歳七十一同寺に葬る

竹下東順

榎本を見よ(えの部)

竹本播磨少掾 喜教

稱中紅屋長四郎始め若竹政太
夫後二代目義太夫元文二年播
磨少掾と改む延享元年七月廿五日歿す歳五十四大坂
天王寺領國恩寺に葬る

竹本於傳(初代)芝樹

江戸人形町に生る婦人に稀な
る淨瑠璃の上手諸侯に召され
大に行はる文化十三年五月廿七日歿す歳五十九淺草
専念寺に葬る

竹本おでん(二世)芝樹

木挽町船宿扇屋万五郎娘、
母は元祖お傳三代目坂東三
津五郎妻後五代目瀬川菊之丞妻なる文政十一年二
月六日歿す歳三十九西本願寺地中に葬る

竹本政太夫(二世)

大坂ざこばに生る稱十兵衛ざこ
ば政太夫是なり明和二酉年七月
十日歿す歳五十六

竹本政太夫(三世)

二代目政太夫門人通稱藤本利兵
衛文化八末年七月十四日歿す歳
五十九淺草阿部川町密藏院に葬る

竹本越太夫 爲聲

大坂の人元祖越太夫門人初名要
太夫天明四年江戸に下り世に愛
せられ富饒の身と成り居付地主となれり文政元年八月
三日歿す歳五十七本所柳島法性寺に葬る法號本立院善
開日壽辭世難波より大江戸に下りて早三十五年の今門
葉の繁る事ありがたく何か思ひ残さん「御當地の恵に
ふしもかれにけり扇柏子のうち納めかな」

竹本義太夫 博教

俗稱五郎兵衛元祿十四年五月竹
本筑後少掾と受領す正徳四年
九月十日歿す歳六十四大坂天王寺地中超願寺に葬る

竹本宮戸太夫

天保八酉年五月廿七日歿す

竹本石亭

俗稱又八郎名正興明治廿一年一月一日歿す
歳六十七小石川光圓寺に葬る

竹本住太夫(初代) 文雅

通稱田中文藏文化七午年
三月十八日歿す歳五十二
西本願寺地中妙延寺に葬る

多湖柏山

寶曆三酉年四月十六日歿す歳七十四

多湖松江

安永三年十一月廿日歿す歳六十六

建部巢兆

號龜香菴江戸千住に住す一號松甫又黃雀菴
白雄門人書畫及俳諧を能す文化十一成年十
一月十七日歿す淺草日輪寺に葬る

建部傳内

名賢文初稱絃藏徳川家御祐筆尊圓法親王の
御流にて謂はゆる御家流なり後世まで幕府
の記録皆此書風を以てす天正十八年九月廿一日六十九
歳にて歿すさいふ(因に云傳内流の書風上方にも行は
れて名高かりし故菅原傳受手習鑑の曲に武部源藏とい
ふ人物を作りたり傳内初め絃藏と呼ばればなり)

建部綾足 涼岱

字孟喬號寒葉齋吸露菴南部の人俳
諧繪畫に名あり又小説文を善くす
安永三年三月十八日歿す歳五十六牛島弘福寺に葬る
(涼岱性磊落不羈品行上議すべき者ありと雖も秀才多
能拔群なり曾て連歌の片歌さいふを主唱してさる貴顯
より片歌道守の名をかきて賜はりしが片歌は遂に行は
れずしてやみぬ)

立川焉馬 談洲樓

本所相生町五丁目に住す本姓中
村氏俗稱和泉屋和助と云ふ文政
五年六月二日歿す歳八十本所表町最勝寺に葬る(焉
馬は大工職棟梁なり依て狂名を鑿新言墨曲尺さいふ
戲號烏亭天明六年四月十一日昔嘶の會を始めて向島の
武藏屋權三郎方にて催し其後寛政四年正月廿一日を例
會とす落嘶中興の開祖とす)

立川焉馬(二世)

通稱山崎常次郎町與力山崎助左衛
門の男深川古石場に住す其家を七
國樓と云初名蓬萊山人文政十三年二代目焉馬と改む弘
化三年近松門左衛門と名乗り中村座へ出勤翌年退座文
久二戌年七月廿三日歿す歳七十一小石川極樂水大雲寺
に葬る

伊達吉村

伊達肥前守宗房長男從四位中將陸奥守寶曆
元年十二月廿四日卒す歳七十二仙臺大年
寺に葬る

伊達政宗

左京大夫輝宗長男從三位中納言陸奥守寛永
十三年五月廿四日歿す歳七十三仙臺瑞寶
寺に葬る

伊達宗紀 春山

舊字和鳥藩主遠江守後伊豫守寶政
二年九月十六日生る明治廿二年一
月從二位同年十一月廿四日字和鳥
に薨去年百歳特旨を以て正二位を贈らる

太宰純 春臺

本姓平手氏字徳夫號紫芝園太宰謙翁に
養れて太宰氏を冒す通稱彌右衛門信州
の人初中野橋謙に學び後徂徠に隨ふ延享四卯年五月三
十日歿す歳六十八谷中天眼寺に葬る

瀧方山 招鳩軒

東六條御門主の家士初名峰山後芳
山稱主水維舟の門享保十五年戊五
月廿四日歿す歳八十

瀧 鶴臺 山縣周南門人名長稱彌八長州の人安永二巳年正月廿四日歿す歳六十五

瀧の本千丈 名忠能通稱江里川助右衛門幕臣なり瀧本流の書法を能くし御勘定所書役たりしが狂歌を好み眞顔の門に入る天保十四年八月十五日歿す麻布六本木深廣寺に葬る

瀧野瓢水 播州加古別府の人酒井侯封を姫路に移され巡覽之時此家を問へり精しくは續糸人傳に見ゆ寶曆四年某月日歳七十七にて歿す

瀧本坊昭乘 惺々翁 號松花堂城南雄徳山社僧能書にして近古三筆の一人寛永十六卯年九月十八日歿す歳五十六

多紀元胤 柳汀 櫛窓の男字紹翁文政十亥年六月二日歿す歳四十七平塚城官寺に葬る

多紀元憲 藍溪 姓は丹波名元眞字仲明永壽院と稱す享和元酉年五月十五日歿す歳四十九平塚城官寺に葬る(明和二年四月廿九日父安元と共に上願して始て神田の地に醫學館を起し躰壽館と號す明和九年二月諸堂火災に罹り元憲私財を以て佐久間町に再建し永く後進を裨益す濟世の術のみならず其事業大なる近世に希なることなり寛政三年十月御改正被仰出公儀持と成る)

爲永春水 (二世) 本名染崎延房對州嚴原藩士狂訓亭の門に入り師歿後其稱を襲ふ性質素朴謹直なりき明治十九年九月廿七日歿す歳六十四坂本一丁目養玉院に葬る

爲永春江 幕臣智久氏號況堂初代春水門人明治二十年十二月廿日歿す

鯛屋貞柳 由縁齋 通稱永田清右衛門名信來狂歌を豐藏坊信海に學ぶ享保十九寅年八月十五日歿す歳八十一大坂下寺町光傳寺に葬る(貞柳本姓榎並氏父は貞因貞室門人大坂南御堂前にて鯛屋山城據と云菓子製所也或年南都松井和泉と云へる油煙所より大形の墨を大内へ獻進あるを聞て「月ならで雲の上まですみのぼるこれはいかなるゆえんなるらん」此歌雲井に聞え由縁齋と號を賜ふ)

蓮月尼 明治八乙亥年十二月十日歿す年八十五墓は京都愛宕郡西加茂村神光院の後山にあり(蓮月尼は都の豪家の女にして美人也歌を能くよみ後に尼と成洛東岡崎村に住居す自詠を焼物に染め付け酒器茶器等を手製し是をひさぎて渡世せり中年の頃貧窮なり

れの部

多紀元簡 櫛窓 藍溪男通稱安長號桂山字廉夫文化七年十二月二日歿す歳五十六同寺に葬る

多紀安叔 莖庭 名元聖字赤柔學醫なり本石町四丁目に住す元胤の男安政四巳年二月十七日歿す歳六十三寺同上

瀧澤馬琴 篁民 通稱清左衛門後瑣吉名解號著作堂又曲亭玄同陳人篋笠隱居嘉永元申年十一月六日歿す歳八十二小石川茗荷谷深光寺に葬る

瀧澤羅文 名興旨稱直二郎號東岡舎馬琴兄羅文は俳名なり寛政十年八月十七日歿す歳四十

爲永春水 狂訓亭 本姓佐々木氏長次郎と云後鶴鷄正輔と改む天保四卯年十二月廿三日歿す歳五十四西本願寺地中妙傳寺に葬る(春水は元書買にて青林堂越前屋長次郎と云初め式亭三馬門人三鷲と云後二世振鷲亭と號す故人楚滿人か女に乞ひて二代目楚滿人となりしが故有て其名を返し文政十一年爲永春水と改む居所數多替れり初橋町油町新道又辨慶橋牛島と移り後下谷池の端に移り又多町二丁目に移る中頃舌耕師と成り金龍山人と號す天保十三年四月公より咎を蒙り手鎖中に病を發し翌年死す)

了然禪尼 京人葛山氏の女別稱元總松田晚翠の妻正徳元卯年九月十八日寂す歳六十六高田落合泰雲寺に葬る(紫の一本に了然禪尼菴室(鐵炮州のうち)是は東福門院様へ宮仕せし女房女院崩御後尼に成了然と云五山の僧を師として禪學を勤め海東に下り鐵牛に聞かんすと然とも容貌美にして寺門出入を許さず又木菴の弟子伯翁は駒込に居す其所に在住せん事を望む伯翁云汝すぐれて美姿なりとて中々思ひもよらすと追出さす了然力なく去り其近き町屋に入りて銅器を火に入少し物案するやうにして彼銅の赤く焼たるを顔に押あて面を焼き筆をとりて昔遊宮裡燒蘭麝今入禪林燦面皮四席流行亦如此不知誰是箇中移さし又「いける身を捨てやくみのうからましつひのたきと思はざりせば」後に尼と成泰雲寺主と成中興開基とす云々松屋叢書に云尾張國名古屋の人とあり自詠を集めたるわかむらさきは元祿四年の板なり)

蓼和居士 號咫尺軒享和三年亥十月五日歿す大塚大慈寺に葬る

櫛亭琴魚 名守親殿村氏通稱精吉勢州松坂の人にて曲享馬琴の門人となりて戲作をなしぬ天保二卯年十一月廿一日歿す年四十四松坂なる寂光山願證寺に葬る

その部

曾呂利新左衛門 得齋 本姓中川氏慶長八卯年九月廿二日歿す

曾我蛇足 宗譽 式部入道宗文と稱す初越前朝倉氏に仕ふ書法周文より出て一家をなす文明十五年十一月十七日歿す大徳寺眞珠院に葬る

蘇嶺山人 見雅居士 名眞卿字拳叔詩人なり天明四年五月十五日歿す歳五十七 淺草山谷宗林寺に葬る

宗長法師 紫屋軒 本姓島田氏駿河島田驛の人宗祇の門人天文元辰年三月六日歿す歳八十五

曾 昌道 占春 字士考薩州醫官本草家天保五年二月廿一日歿す歳七十

宗祇法師 種玉菴 姓飯尾氏號自然齋紀州在田郡藤並莊の人文龜二戌年七月三十日

相州湯本の客舎に物故す歳八十二同所早雲寺に墓あり一説弟子宗長宗純宗祇の棺を昇き足柄山を越し駿河境桃園の定輪寺に葬る

宋紫岡 稱楠本雪溪紫山男嘉永三戌年六月六日歿す歳七十淺草本願寺中宗恩寺に葬る

つこの部

椿仲太 椿山 名彌字篤甫號琢華堂幕府の先手同心たり始め金子金陵の門後華山に學ぶ安政元寅年閏七月十三日(表向九月十日)歿す歳五十四牛込圓福寺に葬る

椿仲輔 常盤舎 名千稔號南塘四郎左衛門下總香取の人小山田與清門人弘化三年六月四日京柳馬場の客寓中に歿す歳四十四

壺井鶴翁 鶴壽 名義知通稱安右衛門號温古軒浪花の人有職故實に精し享保二十年卯十月廿四日歿す歳七十九城東清光院に葬る

坪井青城 名敏求字子俊安永二年巳五月十九日歿す歳五十八淺草新寺町正覺寺に葬る

坪井信友 信道男慶應三年五月廿五日長州山口に於て歿す年三十六

坪井信道 誠齋 字信道美濃池田の人字田川玄眞の門嘉永元年申十一月八日歿す歳五十六淺草警願寺に葬る長男信友後信道と稱す

辻萬里 街萬里を見よ(かの部)

宋紫山 宗紫石の男名白圭字君錫號普溪文化二丑年十一月十九日歿す歳七十三寺同上法號壽性院釋覺誠

宋紫石 雪溪 字君赫姓楠本東都の人長崎に遊び熊斐に學ぶ後清人宗紫岩に學ぶ安永九千年五月廿日歿す歳六十五寺同上法號諦量院釋誠意

染崎延房 爲永春水二世を見よ

染木正信 韓人李氏成長して後老女染木の養子と成り染木八右衛門と云寛文二卯年九月廿八日歿す歳六十九(兎園小説卷一に御天守番飯島平二郎話予が相番染木某が先祖は韓人にして李氏なり豊太閣の時小童にして姉ととも片桐市正に生捕れて皇國に來れり市正此二人に唐山の童子の衣服をきせて臺に乗せ天樹院君にまゐらせたり姉は成長して早尾と云ひ弟は老女染木か養子になり染木八右衛門正信といひて兩人とも生涯つかへ奉り其子を利右衛門正美といひて是も同じ君につかへて添番を勤めたり然るに實子なくして血脈を絶たりとそ家の傳ふる所は族稱平氏とも染木といへり(輪池云)

土屋東雨 安親 通稱彌五八延享元年子九月廿七日歿す歳七十五

土屋訥齋 反求 名辨梵字士明寛政五年丑七月七日歿す高田亮潮院に葬る

土屋繩直 栞臺 字準夫號曲江名勘解由春臺門人寶曆四年戌五月三日歿す歳五十七淺草海禪寺に葬る

釣舟清次 寛政二年戌六月廿二日歿す

鶴賀若狹掾 鶴翁 通稱高井庄兵衛宮古路加賀太夫門人にて宮古路敦賀太夫いふ後師と絶して朝日敦賀太夫又朝日を止められ鶴賀と改む狂名大木戸若牛と云ふ天明六年午月廿二日歿す歳七十五淺草田甫幸龍寺に葬る

鶴賀加賀八太夫 新内 本姓岡田五郎次郎湯方御家人なり安永三年午八月十一日歿す歳六十一

鶴田卓池 弘化三年午八月十一日歿す歳七十九

鶴屋南北 (四世) 北壽 通稱伊之助金井三笑の門に入り狂言作者となり始め勝

倭藏と稱す文政十二年丑十一月廿七日歿す歳七十五本所押上春慶寺に葬る(鶴屋南北と名のる者數人あり前三代は俳優道化方なりしが四代に至り始めて狂言作者と

なる四世南北は幼名源藏後伊之助父を伊三郎とて紺かきの形付を業せり安永四年金井三笑の門に入り勝儀藏と稱し後故有て鶴屋南北の名跡を嗣ぐ演劇脚本を作ること五十余年佳作多し又神史の作も有て姥尉助と署名せり高砂町に住みたるに因て也

鶴屋南北 (五世) 可祐 四代目南北孫稱孫太郎嘉永五年正月二十一日歿す歳五十七深川寺町心行寺に葬る

鶴澤市太郎 始鶴澤咲治義太夫節三線師蟻鳳門人慶應元年丑九月四日歿す

鶴澤勇造 元祖鶴澤清七門人万延元年十一月廿八日歿す歳七十一東本願寺に葬る

鶴澤友次郎 始の名三千藏延寶二巳年七月廿四日歿す歳五十一

鶴澤文藏 (二世) 始め仙藏中興の名人天保五年九月廿三日歿す年五十四大坂下寺町遊行寺に葬る

鶴澤文藏 (三世) 初文教二代目文藏子明治十九年八月廿三日歿す本所小梅常泉寺葬る

鶴澤文三 文系 鶴澤文藏門人始忠次郎安政六未年七月十日歿す歳五十三淺草黒舟町正覺寺に葬る

津田忠助 東陽 名恭字士雅長州の人長門侯に仕ふ周南の門人寶曆四年戌九月十二日歿す歳五十三長府享徳寺に葬る

津田宗達 號大通紹鷗門畧の人天王寺屋といふ永祿九年八月二日歿す歳六十三

津田宗及 更幽齋 堺宿屋町に住す太閤の茶道大徳寺江月の父にて御醫師半井卜養が爲に外祖なり亦千の利休の師といふ天正十九年卯四月廿日歿す

寫の唐丸 柯理 喜多川氏通稱寫屋重三郎烟羅館唐丸は狂歌の號也寛政九年巳五月六日歿す歳四十八淺草山谷正法寺に葬る

筒井 憲 鑾溪 始め紀伊守後伊賀守と稱す書を能くす安政六年未六月朔日卒す歳八十二鳴子常圓寺に葬る

堤 鴻佐 它山 名公愷江戸の人嘉永二年酉二月四日歿す歳六十七

堤 三五郎 朝風 幕府賄組頭を勤む博覧の人號竹裏亭又不占天保五年四月七日歿す歳七十牛込七軒町淨輪寺に葬る法名朝風不占居士

津村三郎兵衛 滌菴 名教定佐竹侯用達傳馬町に住す和歌を能くし雅望の師なり文化三年寅五月十六日歿す東本願寺地中善宗寺に葬る

鶴澤才治 糸遊 五代目竹本政太夫の子始め清次郎鶴澤寛治門人安政五年午八月十日歿す歳四十三東本願寺地中等光寺に葬る

鶴澤蟻鳳 通稱大坂屋小三郎晩年三代目竹本播磨太夫と改む安政元年寅十月十日歿す歳八十四谷中佛心寺に葬る

鋤山谷右衛門 始鰐石文藏後二十山要右衛門と改む嘉永五年子正月朔日歿す歳五十三

鶴峯戊申 海西 字世靈稱彦一郎豊後白杵の人なり學和漢を兼れ音韻悉曇蘭學にも通せり

都賀六藏 大江漁夫 名庭鐘字公聲號大江山人浪花の儒者上田秋成の師と云ふ戯作英草紙繁々夜話莠草紙等大に行はる後のよみ本の風は之を學ぶといへり

冢田多門 大峯 名虎字叔魏信州の人天保三辰年三月廿一日歿す歳八十八名古屋城南大光院に葬る

津打治兵衛 英子 狂言作者名人寶曆十年辰正月廿日歿す歳七十八谷中蓮光寺に葬る

角田青溪 名明字公熙稱彌左衛門江戸の人天明八申年四月廿四日歿す

爪木晚山 吟花堂 初名永可一號二童齋京の人俳諧を能くす享保十五年八月十五日歿す歳六十九雙ヶ岡長泉寺に葬る

津崎村岡 村岡の局 近衛家の老女明治六年八月廿三日歿す年八十八

月岡芳年 大蘇 本姓吉田氏月岡雪齋の養子と成る元一勇齋國芳門人明治廿五年六月九日歿す歳五十四東大久保専福寺に葬る

月岡丹下 昌信 高田敬保門人浪花の人號雪鼎又信夫翁とも云ふ天明六年十二月四日歿す歳七十七本姓は水田氏大坂に住せり

月形 弘 文久三亥年四月五日歿す歳六十五

月の本爲山 明治十一年一月十九日歿す歳七十五品川本光寺に葬る法號月本院爲山日晴(爲山妻の身まかりし時の狂歌「よの中のさかさまごはきはらへども順にいつてはおれがたまらぬ」)

露の五郎兵衛

輕口話しの祖とも稱すべき人元祿十六年未五月九日歿す歳六十一

辻 鼠六 大黒菴

青々館春雄門明和七年寅八月廿五日歿す歳四十四

ね の 部

根岸鎮衛

從五位下肥前守元高五百石寛政十年十一月より南町奉行たり文化十二年六月廿八日加増五百石十八ヶ年勤續文化十二年亥十月廿八日卒す行年八十才文化十二年御加増の時「御加増をこんどいたゞく五百石八十の翁の力見てくれ」

根岸權兵衛 友我

名直英長兵衛直利の男始長次郎正徳元年十月臺命にて大坂の官金出納事務を命ぜられ後小普請組に屬す享保十四酉年九月廿五日歿す歳六十七谷中感應寺に葬る

根岸長兵衛 暫軒

名直利正徳四年三月三十日歿す谷中感應寺に葬る

那波道圓 活所

名軀播州姫路人惺高門人紀藩に仕ふ慶安元年子正月三日歿す歳五十七

苗村芥洞 三友

名道益近江の人仁齋門人其事蹟は伴蒿蹊が崎人傳に見ゆ寛延元辰年十月廿三日歿す歳七十五

鍋嶋閑叟

明治四年正月十八日歿す年五十八

生川春明

名は正香通稱三郎助伊勢津岩田町藥種商俳諧を嗜み俳家大系圖發句孫辭等の著あり又近世女風俗考も此翁の編なり明治廿三年八月七日歿す歳八十七伊勢津教圓寺に葬る

成田蒼虬 對塔菴

天保十三寅年三月十三日歿す歳八十三

成島築鼎 龍洲

名和鼎通稱忠八郎道筑男文化五年辰五月四日歿す歳八十九本所本法寺に葬る

成島勝雄 衡山

字は飛通稱仙藏文化十二年亥七月六日歿す本所本法寺に葬る

成島道筑 鳳卿

名信通字歸德號芙蓉道人又錦江成島道雪養子寶曆十年辰九月十九日歿す歳七十二寺同上

根本八右衛門 夷武

名遜志相州の人徂徠門人明和元年申十二月二日歿す歳六十六相州久良岐之村弘明寺に葬る

な の 部

内藤義英 露沾

西山宗因の門人下野守號傍池亭延岡享保十八年丑九月十四日歿す歳七十九鎌倉光明寺に葬る

内藤丈草

芭蕉門人佛幻庵尾州犬山の人僧徒たり寶永元年申二月廿四日歿す歳四十二粟津龍ヶ岡に葬る

内藤廣前

幕府先手組同心にして國學に精し慶應二寅年九月十九日歿す歳七十六

那波魯堂 主膳

名師魯號鐵硯道人播州の人岡白駒門人寛政元年酉九月十一日歿す歳六十三徳島城西妙高菴に葬る

那波綱川 與藏

魯堂養子本姓佐々木氏號綱川字世勳父子ともに阿波侯に仕ふ文化十酉年五月歿す歳五十七

成島圖書頭 司直

號東岳稱那之助文久二年壬戌八月十三日歿す歳八十五寺同上

成島柳北

名弘字保民稱甲子太郎明治十七年十一月三十日歿す歳四十八寺同上

奈河龜助 一洗

始奈河十喜助後篤助一泉と號す後一洗と改む狂言作者也天保十三寅年二月三日歿す歳七十九大坂西寺町大林寺に葬る

中原職忠 恭菴

京の人正四位上大藏大輔有職故實に精し万治三年六月十六日卒す歳八十一

永原才六 左棊

名伴與字噤臺號鐵齋詩學に長す享和三亥年三月廿二日歿す歳八十三深川靈巖寺地中長專院に葬る

中林竹洞 成晶

字伯明太原菴東山隱士の號あり尾州の人嘉永六丑年三月廿日歿す歳八十四

長橋右膳 東原

名賢佐字孟輔文政十二年丑六月十一日歿す歳五十八谷中長久院に葬る

奈河七五三助 洗口

奈河龜助門弟通稱金次郎文化十一年戌年十月廿日歿す歳六十一大坂今宮海泉寺に葬る

奈河晴助

通稱宮島屋喜兵衛京の人一洗門人となり後豊晴助と改む文化九戌年正月十九日歿す歳四十五大坂四軒町浄圓寺に葬る

中西忠太

一刀流劍術の名人享和元年酉二月十七日歿す根岸善性寺に葬る

中西曾七郎 淡淵

名維章字文邦三州の人竹腰氏に仕ふ儒士なり寶曆二年申七月十五日歿す歳四十二増上寺地中瑞花院に葬る

永富鳳介 昌菴

名鳳字朝陽獨嘯菴髮して昌安と云東洋門人明和三年三月五日歿す歳五十五浪花城南藏菴菴に葬る

永富數馬 龜山

名友字充國獨嘯菴男五島侯の儒員享和元酉年六月十五日歿す歳四十五

長沼澹齋

名宗敬通稱外記兵法家なり元祿三年午十一月廿一日歿す歳五十四伏見東山養春寺に葬る

長雄半左衛門 耕雲

長雄流の祖上州沼田の産藤田友閑の門人有馬侯に仕ふ號柏梁堂延寶二巳年正月廿三日歿す歳六十二麻布浄林寺に葬る法號向旭院莊譽殿説居士

中尾我黒 李洞軒

號青白翁寶永七寅年十月六日歿す歳七十一

中川宗瑞 (三世)

松井氏通稱忠吾目白山人と號す文化十一年二月十五日歿す雜司ヶ谷眞乘寺に葬る

中川文十郎 憲齋

名文彭中川由義男書家なり慶應三年正月十日歿す歳七十七淺草唯念寺に葬る

中川貞佐

後水原氏號一寸軒又短頭翁俳諧を能くせり延享四卯年十二月六日歿す歳六十八河東法林寺に葬る

中川五兵衛 琴川

名健字強甫本郷に住せり享和元年酉四月歿す

中川美濃子 文雪

稱文雪女史畫を善くす嘉永六年丑正月十一日歿す歳五十五

中神九左衛門 蓋峯

名守孝字忠順天明八年申六月廿九日歿す駒込吉祥寺地中洞泉寺に葬る

永田觀鷺 東阜

名忠原稱俊平號觀鷺道人又黎祈生とも云平安の人蘇門の門人寛政四子年八月廿五日歿す歳五十五

長田徳本 知足齋

三河大濱村の人醫を以て四方に周遊す享祿の頃甲州武田信虎に游事す依て甲斐の徳本といふ天文中去て信濃に卜居す

中岡豊洲

名幹字子卿號由巳稱終吉文化十一年十一月七日歿す歳七十八牛込原町幸國寺に葬る

中尾正藏 廣徳

字濟寛延三年午七月七日歿す西久保天徳寺に葬る

中川長四郎 韓天壽

號醉晉齋伊勢の人烏石門人寛政七年寅三月廿三日歿す歳六十九

中川乙由

號夢林舎元文三年午八月十八日歿す

中川幸之進 關雄

太湫門人勢州四日市の人名圭字圭甫寶曆七丑年三月廿七日歿す歳廿九勢州三重高角邑に葬る

長川寛藏 華山

號芝山山本北山門人文化四卯年十月六日歿す歳三十

中川由義 南山

字茂號不齋齋又若海文政八年酉八月九日歿す歳七十二淺草唯念寺に葬る辭世「愚知といふ心に心まこはれて此世の別れ今ぞしりぬる」

中川宗瑞 白兔園

通稱三郎兵衛延享元年子七月晦日歿す歳六十下谷幡院に葬る

中川宗瑞 (二世)

廣岡氏一叟と號す通稱戸太夫明和九年八月九日歿す音羽本浄寺に葬る

寛永元年二月將軍に謁せし事あり寶永七年午二月十四日信濃に歿す年百十七歳

中田學古 榮堂

本姓伴氏通稱平助名藤博印刻家天保三辰年六月廿三日歿す歳六十一山下慶運寺に葬る

永田田善 亞歐堂

通稱永田善吉岩代國岩瀬郡須賀川驛の人にて紺屋業なり江戸に出て司馬江漢の門に入り銅版畫の祖と稱す本畫は谷文晁門人文政五年午五月七日歿す歳七十二

永田主書 西河

名忠成字伯行觀鷺の子官式部省史生に至り越前大掾と稱す文化六巳年三月五日歿す歳五十三

中田秋香

谷文晁の妹にて中田學古の妻となる歿年谷秋香の條に出づ(たの部を見よ)

中根半仙 詔齋

名玄石書并印刻を能くす嘉永二酉年八月四日歿す歳五十二本郷弓町等正寺に葬る

中根東里

室鳩巢門人名若思伊豆の人稱貞右衛門明和二年酉二月七日歿す歳七十二相州浦賀某寺に葬る

中根覺太夫 君美

名經世號東平山人下野の人高遠侯に仕ふ文化二丑年閏八月十日歿す歳六十五駒込小苗木繩手勝林寺に葬る

中根左内 桂叢 名重支享保七年寅五月十九日歿す本所回向院に葬る

中根春屋 慶應元年六月十八日大坂に歿す歳五十三

半井慶友 卜養 牡丹花宵伯の孫泉州堺の人延寶六年戊午十二月二十六日歿す歳七十七

二品川東海寺境内惠宣院に葬る(家記に寛文六年十二月廿五日御番醫師被仰付同七年十二月廿三日二百俵被下同九年六月十四日初めて御目見被仰付延寶元年十二月廿八日法眼被仰付同六年十二月六日願之通隠居被仰付或書に元祿四年七月廿六日奥醫師半井卜養不届之儀有之伊豆三宅島へ流罪悴卜仙儀小出大隅守へ御預同八月六日卜養下人吉兵衛出船同五年五月十日嚴有院殿十三回忌御法事に付一同御免同十年四月廿日卜仙へ十人扶持被下之云々)

中村忠七 東夷 名以貞字正夫奥州福島の人白巖門弟明和三戌年三月十五日羽州横手に客死す歳三十八

中村蘭林 名明遠字子晦號盈進齋始め玄春通稱深藏又源藏寶曆十一年巳九月三日歿す歳六十五谷中玉林寺に葬る

中村蘭石 雪竹齋 稱治太夫平安の人元文二年七月二日歿す歳五十五

中村清五郎(二代目)雀子 元祖門人正徳四年奥女中江島俳優生島新五郎と密會の事に關して同三月神津島へ遠流享保二酉年九月十八日同島にて病死歳三十九

永井隱求 名行達通稱三右衛門佐藤直方門人元文五年閏七月廿八日歿す品川東海寺に葬る

中井董堂 敬義 通稱嘉右衛門號春星又俳名乙平文政四巳年七月廿六日歿す歳六十四

西本願寺地中淨見寺に葬る(敬義は其がみ腹唐秋人といへる狂歌師なり一させ夏日團扇に「定九郎ござるに暗の與一兵衛ひさりで行くはあぶかん平」さいふ狂歌して人々に贈れり詩書歌俳能狂言をも善くせり)

中井竹山 號庵長男履軒兄號雪翁稱善太文化元年子二月五日歿す歳七十五私諡文惠大坂八丁目寺町誓願寺に葬る

中井積徳 履軒 字叔處稱徳二號庵の叔子文化十四年丑二月十五日歿す歳八十六私諡文清大坂寺町誓願寺に葬る

中井豫山 文政八酉年六月廿八日歿す歳四十三

永井尙志 介堂 松平主水正子天保十一年永井能登守養子となり岩之丞と云ふ安政二年九月從五位下支蕃頭尙志と名乗り明治廿四年七月一

中邑元禮 名通方春臺門通稱太助江戸の人寛保元酉年十二月十日歿す歳二十九駒込吉祥寺地中龍光寺に葬る

中村佛菴 通稱彌太夫字景連號至觀も御疊御用達より家書とる天保五年正月七日歿す歳八十四

中村轍外 名は公成號無限道人掛川藩士富士を畫くに妙にして畫名岳蓮といふ天保十四卯年三月廿八日歿す年六十八

中村暢齋 敬甫 名之欽平安の人貝原篤信の門人元祿十五年七月廿六日歿す歳七十四洛北一條寺村圓光寺に葬る

中村新八 篁溪 名願言號春帆、水戸義公に仕ふ儒にして小姓頭格とる正徳二辰年正月八日歿す歳六十八淺草八軒町妙經寺に葬る

中村正直 敬宇 幕府儒官幼名劍太郎佐藤一齋の門人後昌平學校に勤仕す明治二年小石川に私立英學校を開き同人社と稱す後正四位文學博士とる明治二十四年六月七日卒す歳六十谷中墓地に葬る

中村清五郎(元祖)了雀 江戸歌舞伎狂言作者寶永四亥年正月廿四日歿す歳四十四本所馬場妙源寺に葬る

日卒す歳七十六谷中墓地に葬る

中井藍江 中直 名直字伯養浪花の人葩關月門人天保元寅年七月廿四日歿す歳六十五

稱忠藏字叔貴播州の人浪花に出て徳書院を創立す寶曆八年寅六月十七日歿す歳六十六

中井誠之 整庵 稱友太郎字孟確伊豫の人二州の門後山陽に學ぶ天保七年九月廿二日歿す歳五十五二本榎廣岳寺に葬る

長野豊山 稱友太郎字孟確伊豫の人二州の門後山陽に學ぶ天保七年九月廿二日歿す歳五十五二本榎廣岳寺に葬る

中野吾扇 觀阿 通稱半右衛門名良直號仁風舍寛政十二年申年二月十五日歿す歳七十六

中院通勝卿 慶長十五年三月廿五日卒す歳五十三

中院通村卿 承應二年二月廿九日卒す歳六十七

中院通茂卿 通純卿男寶永七寅年三月廿一日卒す歳八十

中院通純卿 承應二年四月八日卒す歳四十一

中埜擣謙 完翁 林道榮の姪名繼善稱善助長崎の人關宿侯に仕ふ享保五年七月廿三日歿す歳五十四深川六間堀要津寺に葬る

中野其明 方琳堂 鈴木其一門人晴々齋と號す明治廿五年五月廿九日歿す歳五十九

中村清五郎(二代目)雀子 元祖門人正徳四年奥女中江島俳優生島新五郎と密會の事に關して同三月神津島へ遠流享保二酉年九月十八日同島にて病死歳三十九

永井隱求 名行達通稱三右衛門佐藤直方門人元文五年閏七月廿八日歿す品川東海寺に葬る

中井董堂 敬義 通稱嘉右衛門號春星又俳名乙平文政四巳年七月廿六日歿す歳六十四

西本願寺地中淨見寺に葬る(敬義は其がみ腹唐秋人といへる狂歌師なり一させ夏日團扇に「定九郎ござるに暗の與一兵衛ひさりで行くはあぶかん平」さいふ狂歌して人々に贈れり詩書歌俳能狂言をも善くせり)

中井竹山 號庵長男履軒兄號雪翁稱善太文化元年子二月五日歿す歳七十五私諡文惠大坂八丁目寺町誓願寺に葬る

中井積徳 履軒 字叔處稱徳二號庵の叔子文化十四年丑二月十五日歿す歳八十六私諡文清大坂寺町誓願寺に葬る

中井豫山 文政八酉年六月廿八日歿す歳四十三

永井尙志 介堂 松平主水正子天保十一年永井能登守養子となり岩之丞と云ふ安政二年九月從五位下支蕃頭尙志と名乗り明治廿四年七月一

中井積徳 履軒 字叔處稱徳二號庵の叔子文化十四年丑二月十五日歿す歳八十六私諡文清大坂寺町誓願寺に葬る

中井豫山 文政八酉年六月廿八日歿す歳四十三

永井尙志 介堂 松平主水正子天保十一年永井能登守養子となり岩之丞と云ふ安政二年九月從五位下支蕃頭尙志と名乗り明治廿四年七月一

中井積徳 履軒 字叔處稱徳二號庵の叔子文化十四年丑二月十五日歿す歳八十六私諡文清大坂寺町誓願寺に葬る

中埜叔賢

名輝良壬生侯儒臣寛政四子年閏二月四日歿す西保保天徳寺に葬る

中野清茂 石翁

播磨守駿河臺に住す天保十二年五月十二日卒す歳七十四牛込七軒寺町佛性寺に葬る

長山蝶女 宵子

水府の士師岡與右衛門女長山七平妻なる正徳二年申七月廿四日歿す歳四十二駒込大乘寺に葬る

中山愛親卿

大納言文化十一年戊八月十八日歿す歳七十四洛盧山寺に葬る

中山忠能卿

權大納言忠頼公二男明治廿一年六月十二日薨去歳八十音羽護國寺に葬る

中山平四郎 信名

字文幹本姓坂本常州の人中山有村の養子と成り和學所の教授と成る本所柳島に居るを以て柳州と號す天保七年十一月十日歿す歳五十五下谷常泰寺に葬る辭世「酒ものみ浮れ女もみつ文もみつ家も興しつ世に恨みなし」

中山玄亨

安永八亥年五月廿一日歿す歳六十山城内野福勝寺に葬る

中山鬼卯 栗枝亭

東海道日坂の人煙草商にて傍戯作をなし別號日之中道人と云ふ文政六未年二月廿三日歿す歳八十三

中澤道二

名義道通稱魚屋久兵衛京師新町に住す織物職工にして心學者とされり享和三亥年六月十一日歿す歳七十九本所猿江妙壽寺に葬る

長坂平助 黒肱

號圓陸徂徠門人後熊耳の門に入る寶曆十年辰七月廿七日歿す歳廿四牛込寺町法泉寺に葬る

仲 岐陽

明和二年六月廿五日歿す歳四十五愛宕下青松寺に葬る

中島東關

天保六未年九月廿一日歿す歳六十四伊藤仁齋門人名義方字正休平安の人享保十二年六月十日歿す歳七十文節先生と私諡す乙訓郡寺戸村後岡に葬る

中島孤山 訥所

中島訥所の孫教授を以て洛下に住す文化十三年六月廿一日歿す歳七十

中島敬藏 泰志

泰志男名規字景寬號棕隱軒洛東聖護院村に住す安政三年七月五日歿す歳七十七

中島文吉 棕隱

本姓九鬼氏明和六丑年九月廿五日歿す歳七十二鳥部山に葬る

中島文信

通稱太郎名春臣熊本藩の士後長崎に住し國學を以て鳴る又畫を善く

中島廣足 蛙磨

通稱太郎名春臣熊本藩の士後長崎に住し國學を以て鳴る又畫を善く

那珂通高 梧樓

明治十二年五月一日歿す歳五十二青山墓地に葬る

中江平八 眼山

一名眠江又一貫薙髮して快安と號す伊賀の人享保十一年六月十二日歿す歳七十二大坂一心寺に葬る

中江與右衛門 藤樹

名原字惟命號默齋江州高島郡小川邑の人近江聖人と云ふ慶安元年子八月廿五日歿す歳四十一

長江土瑠

字大圭延享五年正月廿五日歿す歳五十二増上寺地中威徳院に葬る

長澤蘆洲 吞江

蘆雪の義子弘化四年十月廿四日歿す歳八十一

長澤蘆雪 主計

名魚通稱主計城州淀藩士圓山應舉門人圓山門の巨擘といふ寛政十一年六月八日歿す歳四十五

長澤東海

名己字元丁號不怨齋延享二年十月十八日歿す深川法禪寺に葬る

中澤 亨 崑岡

字良祐寶曆二申年四月八日歿す歳五十一洛東慈芳院に葬る

長澤 容

山本北山門人字幼公寛政四年正月廿四日歿す歳十九才同年六月廿四日北山この人の爲に同志五十人を不忍池酒樓に會して遺稿を讀む觀蓮會と號す

中嶋隨流 松月菴

名勝直稱源左衛門平安の人俳諧を善す寶永五年二月五日歿す歳八十一

夏目成美 不隨齋

通稱井筒屋八郎右衛門白雄門人又畫を善くす文化十三年十一月十九日歿す歳六十四山崎町蓮光寺に葬る

奈良屋茂左衛門 我泰

姓神田氏幼名成松五十七才の時剃髮して安休と云ふ享保十巳年九月三日歿す歳六十三深川靈巖寺塔中雄松院に葬る

南嶺子 桂秋齋を見よ (かの部)

諡慈眼大師本姓三浦氏寛永二十年未十月二日寂す歳百二十五日光山に葬る

南光坊天海

本姓小野氏字思聽長崎の人安藤省菴門後松永昌三門人正徳二辰年三月七日歿す歳五十五

南部景衡 南山

通稱楠彦太郎始手跡師後宇田川町に住し書肆なる文化四卯年三月九日歿す歳五十九西久保心光院に葬る

南仙笑楚滿人

通稱楠彦太郎始手跡師後宇田川町に住し書肆なる文化四卯年三月九日歿す歳五十九西久保心光院に葬る

名倉彌次兵衛 忍齋 名千金字龍溪號拙城堂書和歌を能くす嘉永三戌年十二月八日歿す歳五十三住安養院に葬る法號淨心院義す忍齋居士

名越與左衛門 宗閑 名時敏字子遷享和元酉年八月十九日歿す歳五十五本郷六丁目喜福寺に葬る

名越十藏 南溪 名光敏字子聽水戸の人安永六酉年五月十六日歿す歳七十九寺同上

名古屋玄醫 神聖軒 字関甫號春菴丹水子元祿九子年四月十八日歿す歳六十九

行田雲濤 安政元年十一月六日歿す年五十七

並河織部 富士谷成章門人號樟屋天保十二丑年十一月二日歿す歳五十二洛東定信寺に葬る

並河五市郎 永崇 號五一居士天民の兄山城の人誠す歳六十九(武家殿刑録に享保七寅年九月十二日歿江戸より京へ被仰遣候並河五市郎畿内相廻り候御下知左之通浪人並河五一郎と申者五畿内志編集に付五畿内相廻り於所々舊記等可相尋候間所之者俱々可申聞候神社佛閣等にて書物等一覽致度旨申候は々無滯爲致披見可申候五市郎旅宿之儀村方町方寺社方共に是又無滯可

都座へ下り五大力の狂言に大當せり並木と云名より思ひよせ淺草堂とも云へり横店に風薬の振出しの賣薬店を出せり門人の雷次風次といへる者に預けおのれは高砂町に住せり委しきこと略す

並木五瓶 (二世) 葛葉山人 初代五瓶門人初め篠田金次文政二卯年七月七日歿す歳五十二寺同上法號善岳淨功(二代目五瓶は元祖の門弟にして初名は篠山正三郎と云ふ是は實家本所割下水に住する御旗本野々山大膳殿二男なれば本姓野々山の一字に師の本姓をとりて斯く名付しなり師五瓶は篠田藤次郎といへり後二代目相續し又傍ら戯作を兼たり歿後菩提所并に梅若地内二ヶ所の碑は狂歌堂京山國芳の三大人世話人となられ勸化帳に各狂文を筆して配られたり)

並木五瓶 (三世) 並木舎 二代目門人始篠田總六後文政七年金次と改む天保十四年十一月河原崎座にて三代目相續安政二卯年七月十四日歿す歳六十七寺同上法號得法直響

並木正三 平陰 俗稱高砂屋平左衛門元菓子商並木宗輔門人安永二年己二月十七日歿す歳五十二大坂法善寺に葬る法號常響達雪

梨本祐之 加茂神主正三位に任ぜらる神道を山崎垂加に學べり國史に精通して日本逸史十四卷の

致相對之旨寺社奉行御勘定奉行印形之證文右五市郎持廻り候間爲心得申越候右之趣伏見奉行奈良行さも可心得其意候以上寅九月水野和泉守本多筑前守殿長田越中守殿右之趣大坂町奉行堺奉行へも相達候以上泰平年表に享保廿年五月並川五市郎編集五畿内志版行に依て御名字御舊蹟のこさ書物に記し或は旅行の制令を出さる云々)

並河永亮 天民 字簡亮丹州の人仁齋に學ぶ誠所弟享保三戌年四月八日歿す歳四十洛東清閑寺に葬る(天民漢學國學ともに善くすかたそぎの記にても知られたり蝦夷の地を本邦に屬せしめん官に上書し老中も評議中の所病發して歿せり惜むべし)

並河宗輔 市中庵 通稱松屋宗助後號を舎柳と改む寛延三年己九月七日歿す歳五十七(始田中干柳と云元祖一風門人竹本座の作者と成り並木と改む)

並木五瓶 並木舎 並木正三門人初五兵衛又五平と改む文化五年辰二月二日歿す歳六十二深川靈岸寺地中正覺寺に葬る法號彩嶽院英藻辭世「梅はさく我はちり行くきさらぎや」(大坂道修町の産展岡万作の門人なりしが又並木正三に隨從し始五八と云ひ追々立身して一家をなせり寛政六年十月江戸

編あり享保八卯年正月二十九日身まかられ洛の西邊寺に葬る(又かの部にも出づ)

奈須柳村 天保二丑年正月廿八日歿す歳六十八

ら の 部

雷電爲右衛門 信州山縣郡大石村の人本姓關氏半兵衛の子十九歳の時江戸に出て浦風林

右衛門弟子となり雲州侯抱角力たり文政八酉年二月十一日歿す歳五十九法號雷聲院釋關高爲輪信士赤坂臺町報土寺に葬る(爲右衛門が手形を押たる扇面に蜀山の讚あり、百里をも驚かすべき雷電か手形をもつて通る關とあり)

頼 山陽 名襄字子成號山陽外史又三十六峰外史稱久太郎春水子天保三辰年九月廿三日歿す歳五十三京東山長樂寺に葬る

頼 杏坪 名惟柔字季立又千祺稱万太郎春水弟天保五年五月朔日歿す歳七十九市谷本付照運寺に葬る

頼 三樹三郎 鴨屋 山陽三男又號古狂生後藤松陰門人安政六年十月七日江戸にて刑死歳三十五

頼 支峯 山陽の男名復字士剛稱又二郎明治二十二年七月八日歿す歳六十七京東山長樂寺に葬る

頼 春水 名惟寛字千秩又伯栗稱彌太郎安藝の人文化十三年二月十九日歿す歳七十一

來木默々齋 通稱次右衛門東來齋後二代目岡清兵衛云ふ享保十九寅年四月廿二日歿す本所小梅常泉寺に葬る

老樗軒 岡田樗軒を見よ

老鶯巢宜麥 通稱川治彌三郎幕府御家人にて俳諧宗匠なる文政十一年十二月二十二日歿す歳七十八下谷茅町福成寺に葬る

老西庵道喜 柳霞 通稱濱田五平文政元年寅五月二十日歿す歳七十本所妙縁寺に葬る

樂亭西馬 通稱西宮新六號西窓菴式亭三馬門人安政五年八月十四日歿す歳六十

向井去來 落柿舎 通稱平次郎又次郎太夫關亭寶永元年申年九月十日歿す歳六十二洛東眞如堂に葬る

向井誠安 橋洲 名信義字誠安寛延三年十一月廿五日歿す歳六十四洛東慈芳院に葬る

村上玄武坊 朴齋門人俳天堂と號す寛政十年正月十九日歿す歳六十牛込濟松寺に葬る

村上冬嶺 友侘 那波活所門人寶永二酉年八月廿九日歿す歳八十二

村上佛山 名剛字大有通稱彦左衛門明治十二年九月廿七日歿す歳七十六豊前村北香に葬る

村上英俊 松代藩士佛蘭西學を修め安政年中幕府の開成所教授方外國翻譯方に任ず學術を以て世を裨益す本邦佛蘭西學の始祖と云明治廿三年一月十三日歿す歳八十青山墓地に葬る

村上貞輔 弘化三年五月廿五日歿す歳八十六

村上松堂 茂篤 字元厚京の人岸駒の門天保十二丑年九月廿四日歿す歳六十六

村田春門 並樹 初名一柳並樹號多豆能屋又郁子園本居門人天保七申年十一月廿四日歿す

むの部

室 直清 鳩巢 字師偏後師禮と改む又號滄浪駿臺稱新助始め加州侯に仕ふ正徳元年幕府に召さる享保十九寅年八月十二日歿す歳七十七謨持院後御厩島に葬る

室 勿軒 洪謨 字孔彰鳩巢の男元文四年十月廿三日歿す歳三十四御厩島に葬る

無倫道人 雪堂 (御厩島の地守を柴崎市郎右衛門と云近世の儒官葬地を賜りて寺院に葬せざる事は室氏より始りしなり)

無外坊燕説 通稱伊藤勘右衛門勢州の人延享二丑年四月廿二日歿す歳七十三

向井靈蘭 號蘭香又觀水子肥前神崎郡の人延享五巳年十一月朔日歿す歳六十九洛東眞如堂に葬る

向井三省 滄洲 字魯甫子細有て柳川に改め後本姓に復す享保十六亥年正月廿九日歿す歳六十六洛東慈芳院に葬る

村田春郷 顯義堂 平姓春道長子字若觀明和五子年九月十八日歿す歳三十深川本誓寺に葬る

村田春海 錦織齋 平姓春道次男字士觀又號錦織叟琴後翁通稱平四郎後字兵衛明和六巳年七月廿一日歿す歳六十六深川本誓寺に葬る

村田春道 尙古堂 平姓通稱平四郎後字兵衛明和六巳年七月廿一日歿す深川本誓寺に葬る

村田多喜女 梅月 雲溪妻花鳥畫を能くす萬延元年五月廿四日歿す歳四十二小日向本法寺に葬る

村田多勢子 春海の養女なり後尼と成り芳樹と號す弘化四年十二月十二日歿す深川本誓寺に葬る

村田了阿 春風 通稱小左衛門號春枝堂又一枝堂台麓清原雄風の門書は東江の門下谷金杉西藏院に葬る天保十四卯年十一月十四日歿す歳七十二

村田永年 雪溪 字伯慶號梅花都尉通稱正七萬延元年閏三月四日歿す歳六十三小日向本法寺に葬る

村井古道 無名因

南都の人小四來山の門寛延二巳年十月四日歿す歳六十九

村松蘆溪

字子水稱與左衛門越後村松邑の人鶴士寧に學ぶ後高田侯の儒官となる天明七未年五月七日歿す歳五十七

村士淡齋

名宗殖稱彌左衛門江戸の人福山侯の儒官安永元辰年八月五日歿す歳七十三駒込大圓寺に葬る

村士玉水

淡齋義子名宗章號一齋稱行藏大和の人安永五申年正月四日歿す歳四十八駒込大圓寺に葬る

村瀬栲亭

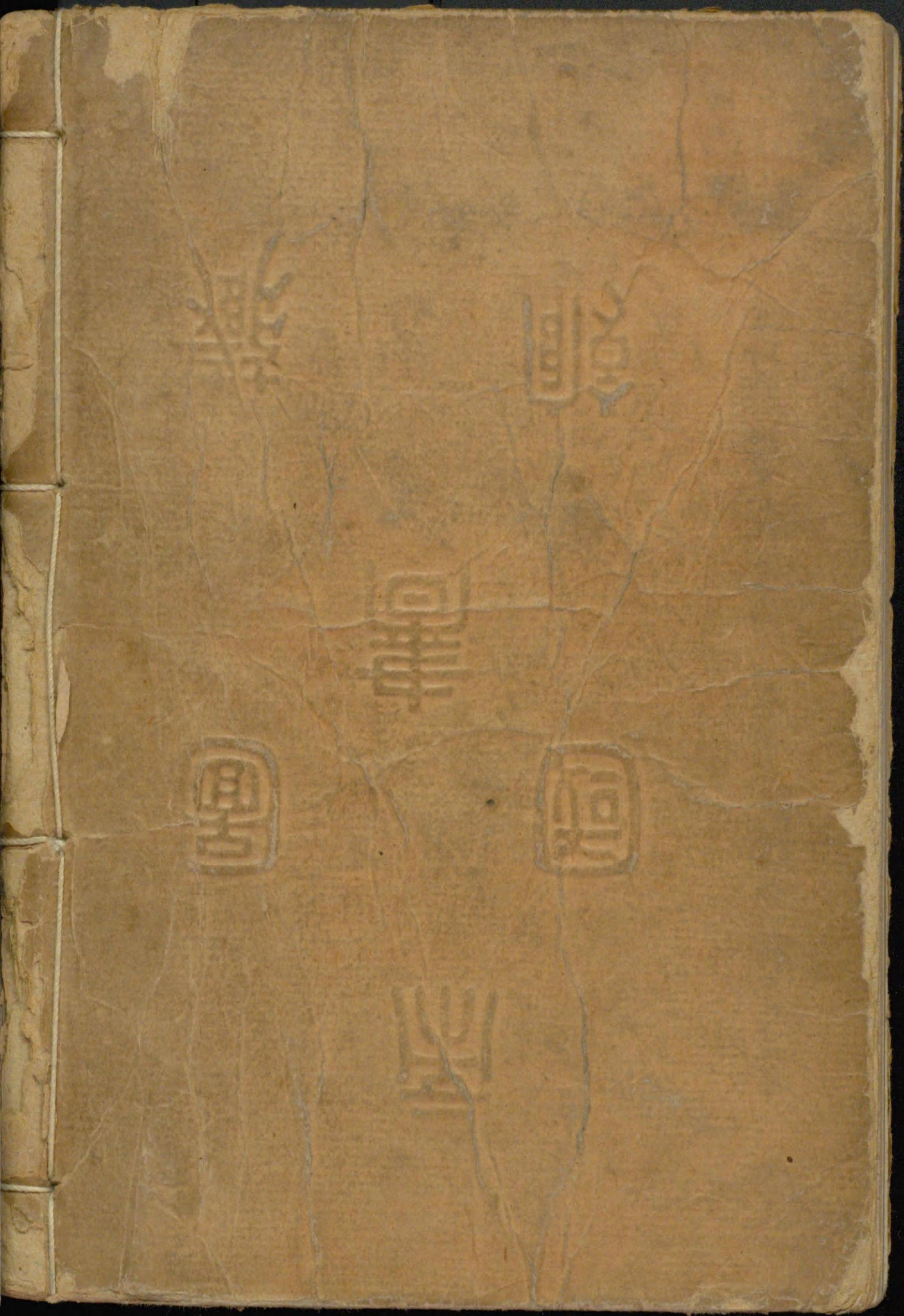
名之瀨字君續稱嘉右衛門秋田侯の儒臣文政元寅年二月廿三日歿す歳七十二

村瀬五猪

號心之又玉外樓稱勘作京烏丸に住す嘉永六丑年三月廿七日歿す歳六十六

名人忌辰録 上卷終

198
435

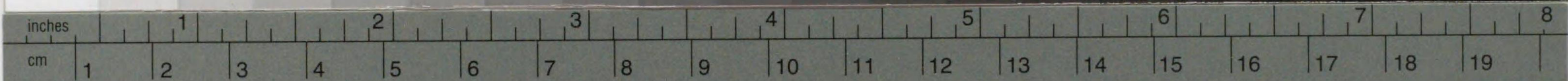


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

